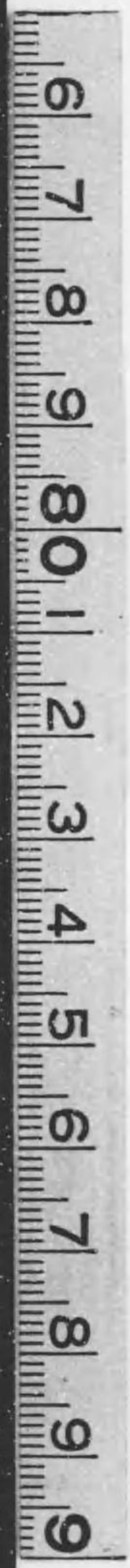


14  
47

南支那及南洋調査第四百十三輯

支那の時局と支那貿易の消長

臺灣總督官房調査課



始





14.21-478



凡 例

本書は、臺灣總督府稅關事務官井出季和太氏が、在外研究員として大正十五年三月下旬より本年四月下旬に至る一箇年間支那に滞在し、歸朝後調査研究せるものゝ中、支那の對外貿易情況を報告したるものである。  
一、本書は閱覽の便を圖り、筆寫に代ふるに印刷を以てしたるに止り、公刊せんとするものでない。

昭和二年十二月

臺灣總督官房調査課



深奇贈本



# 支那の時局と支那貿易の消長

## 目次

第一章	序論	一
第二章	支那貿易の發達	一五
第三章	最近の貿易事情	二三
第一節	一九二五年の貿易	二三
第一	總説	二三
(イ)	稅收	二三
(ロ)	國別貿易	二四
(ハ)	重要貿易品	二四
(ニ)	船舶	二六
第二	各地の貿易に對する影響	二七
(イ)	滿洲及北支諸港	二八



(イ)	哈爾濱・大連・營口・天津・青島	二八
(ロ)	長江沿岸諸港	三一
(ハ)	重慶・宜昌・長沙・漢口・九江・沙市・蕪湖・南京・鎮江	三一
(ニ)	中支諸港	三六
	上海・寧波	三六
(二)	南支及西江諸港	四一
	福州・廈門・汕頭・廣東・梧州・九龍及拱北	四一
第二節	一九二六年の貿易	五五
第一	總說	五五
(イ)	稅收	五六
(ロ)	國別貿易	五六
(ハ)	重要貿易品	五七
(ニ)	船舶	六三
第二	各地の貿易に對する影響	六四
(イ)	滿洲及北支諸港	六五

### 第四章 香港貿易の漲落

(ロ)	大連・天津・青島	六五
	長江沿岸諸港	七一
(ハ)	重慶・萬縣・長沙・漢口	七一
	中支及南支諸港	七九
	上海・寧波・福州・廈門・汕頭・廣東	七九
	(一)概況(二)稅收(三)重要外國品の貿易(四)重要支那品の貿易(五)船舶の出入港(六)常關貿易(七)物價騰貴	一〇三
	其他南支諸港・九龍・拱北・江門・北海・瓊州・三水・梧州	一一九
第一	序說	一三六
第二	時局の影響	一四〇
(一)	外國貿易の減退	一四〇
(二)	船舶入出港の減退	一四四
(三)	其他經濟上の影響	一四五
(イ)	罷工に依る損失高	一四六



(目) 商店の破産……………一四六

(ロ) 地價の暴落……………一四七

(ハ) 株券の下落……………一四八

(ニ) 物價騰貴……………一四九

(ホ) (四) 香港政廳財政上の影響……………一五一

第三 對支貿易と香港の地位……………一五二

第四 香港貿易の將來……………一六〇

**第五章 臺灣の支那貿易**……………一六四

第一 總說……………一六四

第二 通商地別貿易……………一六六

第三 南支貿易の重要性……………一六九

第四 戎克貿易の地位……………一七四

第五 支那時局の影響……………一七七

一 支那諸港……………一七七

二 香港……………一八三

三 特殊仲繼貿易の出現……………一八四

第六 本年對支貿易の趨勢……………一九〇

**第六章 中南支に於ける各國の商勢力の比較と我對支貿易の**

**振興策**……………一九五

第一 在支各國人の人口及商社と商勢力……………一九五

第二 貿易及航運と商勢力……………二〇一

第三 對支貿易振興策……………二一八

**附錄** 自一九二四年支那各港貿易額 純内外貿易額……………

至一九二六年支那各港貿易額 純外國貿易額……………



# 支那の時局と支那貿易の消長

## 第一章 序 論

支那貿易の發達を阻碍すべき重要な事情は、從來政争・動亂及之れに基く交通の杜塞、苛税・誅斂・貨幣制度の紊亂、土匪海賊等の害、洪水・旱魃に依る農作物の減收、地方購買力の減退及近年頻發した工潮に基づく製造能力の減少、生産費並に物價の騰貴、排外運動から來る抵制等であるが、支那は所謂地大物博で、一地方に於ける是等の原因は、必しも他地方に波及するもので無く、又一地方に於て缺損したものは、他地方で補充する事が出來、又は甲國の通商に於て減退しても、乙國の貿易に於て増進を見る事があるが如く、全體としては經濟上潛勢力の大なるものがあるから、貿易は自然増加が多い。而して一昨年(一九二五年)五月三十日の上海事件(五卅事件)と、同年六月二十三日の廣東沙面事件(六二三事件)とは、支那國民革命運動に基調を存し、何れも國民黨左系派・共產黨及露國第三インターナショナルの煽動か、又は合作に係るもので、其排外運動は、從來の例に比して國家的であり、又國民的であり、又自から組織的であり、一般的であつて、從來の如く單



に排日を中心とせず、新に反英運動に集中し、同じく罷工や船舶又は貨物の抵制に依るも、一九二三年第五次排日運動の際に開始した、經濟絶交の手段を一層徹底的に擴張實施したものであるから、其影響する所は廣く且つ深く劃時的のものがあつた。

## 二

五卅事件も六二三事件も、其起りは歐洲大戰の導火線となつた、サラエオのセルビア一青年が發射した一彈丸と同じく、殆んど暴徒に等しい些細の支那學生や遊行隊の衝突殺傷に基くものである。

五卅事件は上海南京路に行はれたので、南京路事件とも云はれて居る。其普通原因は同年二月上旬、日本人經營の内外棉第八紡績工場が、不良職工數十名を解雇したのに端を發し、上海に潜入して居た共產主義者及社會黨首領江亢虎を校長とする南方大學・大夏大學又は上海大學々々生等の煽動があつて、大罷工となり、同月中旬から罷工事件は施いては日華・大日本・豊田・同興・東華等日本人經營の諸紡績工場を襲來し、三萬數千の大群團となり、各所に於いて暴動化し、同月十八日には上海學生聯合會其他四十一團體が對抗運動を起し、又は宣言書等を發表した。其後罷業工人は一時生活難の爲に復業したが、一方四月上旬には、青島に於いても紡績罷業が開始され、上海に反響する所となり、又偶々五月一日のメーデー以來、不良職工は共產黨員と提携して熾に罷業を煽動した

から、紡績工場は時々罷業を繼續し、五月十四日には同情怠業者數百名の内外棉工場に對する暴動があり、同二十四日上海大學文治大學生を中心とする學生團は、死亡職工顧正紅の追悼會に顧の遺族並に罷工職工等の生活維持費募集の示威運動を試み、共同租界内にて過激の運動宣傳を事とした爲め、租界官憲は首謀學生六名を拘引し、會審衙門に送り、次いで同三十日の拘引學生六名の公判當日には、學生團は遊行して不穩の傳單を撒布し且つ抵抗したので、工部局警官は七名を逮捕し、南京路老開警察署に引致した。學生又は職工等から成る暴徒三千餘名が、同日午後三時頃同所警察署を襲撃したので、警察官は己を得ず、印度人巡捕をして發砲せしめたが、其爲めに支那人學生等即死者四名・負傷者十數名を出し、其負傷者中に又五名の死者を出した。

一方前記事件の一助因と爲つた碼頭(埠頭)稅増徴・印刷物取締・交易所登記及特許・幼年工場法案の工部局の提案に對する反抗運動があり、排日英運動は白熱的となり、上海にては五月三十日から六月四日迄の罷市暴行期間、六月五日から同十日迄の罷業罷工期間、同月十一日から同二十六日迄の經濟絶交期間を經過した。其期間は一箇月に足らぬも、其運動は燎原の火の如くに各地に傳播し、即ち北京を筆頭に天津・青島・濟南・奉天・張家口・開封・重慶・武漢・九江・南昌・長沙・南京・蘇州・鎮江・蕪湖・寧波・福州・廈門・汕頭・香港・九龍・廣東等に亘り、商・工・學界等は排日英又は排英宣言決議をなし、就中會審衙門・領事裁判・租界等の取消は勿論、對英宣戰を主張するものあるに至り、同情罷業



罷市又は罷工となり、就中海運界に及した反響は著しいものがあつた。上海埠頭の罷業は、六月三日から開始され、黃浦江上に艦集した空船は未曾有で、例へば十四日迄の日英停船数は四十隻となり、十八日には長江及支那沿岸船を通じて停船五十二隻に達し、十九日迄にライターの停船はウィロック及上海運輸會社の兩社のみで百五十九隻に上り、約一箇月中に商船の最高停船は百五十六隻、外國軍艦二十二隻を算した。之が爲め外國船は後上海に廻航を中止し、北支・神戸・大阪又はマニラ等を経由することとなり、貿易の系統を轉換したのである。

罷市に依る上海の損失は、總商會長の意見に従へば、一日約三百萬元で、十二日迄に其額は四千萬元に達したと云ふことである。上海の開市期は六月二十七日からであつたが、實際の交易往來等は尙稀で、工人の復業は阻止され、漸く七月二十三日に埠頭作業は恢復しても、工部局電氣處は罷工後、義務工作を繼けて七月六日に迄び、工場電力も食糧生産を條件とする製粉工場以外は、一式に對して給電を停止し、九月初旬、工部局支那人の復業迄同一状態を繼續した。

英日船に對する海員罷工の結果、水夫や露國人を使用して荷役し、八月中旬に至り、漸く沿海沿江の航行が始めて平時に恢復したのである。但し南方の情形には變化がなく、年末迄英船は廣東・汕頭等に入港しても、貨物の積卸は出來なかつたのである。

## 三

六二三事件は、廣東の英佛租界と支那街沙基との間に起つた衝突であるから、又沙基事件とも呼んで居る。當初廣東の農・工・兵・學等六團體の發企に係り、六月二日廣東大學で、四十校五千の學生團に依つて上海事件に對する示威運動が行はれ、三日には工・商・學界代表會議の決議があり、又二日には廣東海關の支那人職員の連袂辭職があり、三日には荷役苦力の罷工となり、十七日には廣東大學にて上海事件後援會を開き、二十三日大遊行を行ふことに決し、同時に英日貨の抵制、其他經濟絶交の實施に關して決議する所があつた。一方香港に在つても、上海事件に同情し、六月十一日頃から傳單を散布し、十三日には香港廣東海員工會の外國籍船員の罷業があり、香港政廳に對する食糧封鎖實施の威嚇を見、十八日には更らに支那海員の罷業となり、香港・廣東・澳門汽船會社の航行取消となり、又同日クインス大學々生の同情罷課があり、十九日より省港間の外國汽船は航行を停止し、香港總工會も同夜各工會に一齊罷業の通告をなすに至り、二十一日には香港九龍を通じ、支那人使用人の罷業となつた。當時罷業に關し、全權を有して居つた廣東政府庇護の下に在ると云ふ秘密機關の香港工人委員會の要求中には、香港に於ける外支人の平等待遇・勞働條件の改正・幼年工禁止又は八時間勞働實施等に關するものを包んで居つたが、香港政廳は其條件を承認せぬばかりでなく、主動者を逮捕し、工人の行動を監視し、尙陸軍を出動せしめて戒嚴令を施行したので、在住支那人は陸續歸廣し、其數は二萬八千人に達した。廣東沙面在住の支那人は、五卅事件の報を得て



後、六月二十一日には自動的に同情罷工をなし「沙面中國工人援助上海慘案罷工委員會」を組織し、宣言書を發表した。沙面罷工後、英佛領事は、沙面通路の東西兩橋の鐵門を閉鎖し、陸戰隊を上陸せしめ、各處に土囊を築いて防備した。當時沙面沖の白鵝潭に在る軍艦は、英三隻、日・佛・米各二隻、葡國一隻、計十隻であつた。

六月二十三日示威行列をする爲に、廣東各界から東較場に參集した群勢は、三萬五千に上り、其學生・商人・農民及軍人等の大遊行隊が沙基街を通過したとき、沙面内に在つた英佛守備兵との間に衝突を來し、突如砲火を交へ、沙面側からは機關銃を發射し、軍艦も之に應戰加勢し、約二十分間で支那側には死者四十六名・重傷者五十一名を出したが、外人側は佛商人一名死し、英水兵一名及稅關長エドワード及二名の市民が重傷した。其當時約一週間は一切の商業停頓し、其間海關は閉鎖した。而して支那側は、外人から先に射撃したと強辯して居るが、當時目撃者の言に徴し、又傷口から見て、支那側が先に發砲したと云ふことになつて居る。二十四日支那側は領事團に對し、二十三日の事件に就て賠償の要求をしたのに對し、領事團は之を拒絶し、交戰状態に入り、約四箇月間沙面と市街との交通遮斷され、外支人間に食糧貨物の出入は禁止された。廣東政府の英佛領事に宛てたノートには沙面の恢收の外に、損害賠償・關係官吏の處罰等の要求を提出したが、同じく兩國領事は回答をしなかつた。廣東政府は列國を敵とするを恐れ、獨り英國に當る方針を以て對抗策を講じ、露

國を後援とした。蓋し廣東事件に對する省港罷工は、曩に一九二二年一月十三日から三月六日迄五十六日間に亘つて行はれた香港海員の大罷業以來の經驗もあり、六月十九日總罷工實施以來一箇年半に亘り、參加人員は十萬人に上り、孫文の遺意である香港を死港たらしむる目的を以て、廣東政府支持の下に省港罷工委員會が活躍し、香港側は香港對廣東の交通を阻斷し、工人の出境歸粵を禁止するなど、其他種々の對抗策を講じたが、毫も効果がないので、香港側は十月三日から翌一九二六年六月迄で數回に亘り交渉を試み、更らに七月十五日から同二十三日迄に、廣東外交部に於て五回に亘り正式談判を行つたが成果を見なかつた。然るに遂に廣東國民政府の北伐が進行するに伴ひ、同年十月十日を期し、罷工新政策の實施に入り、廣東側は自發的に對英經濟絶交運動中の省港交通を回復した。但し英貨排斥の運動は之を繼續し、却つて全國的に擴大する旨を宣言し、昨年中は勿論、本年（一九二七年）も省港の外、汕頭方面迄英貨の調査を行ひ、英貨の驅逐を計りつゝあつた。

罷工の爲めに香港を退去したものは、外國船乗組員が、支那人海員の約八割強で、其他各種工人は約六割を占め、廣東香港を通じて罷工人員は、當初六月には一時九萬五千人以上を示し、前記大海員罷工人員を超過すること數千人に達した（一九二二年の海員罷工數は九萬一千七百人と註せられた）。之れが爲めに香港・九龍等に在つた英國船の如きは、空船の儘禁船されて居たものが甚だ多く、船員として水兵を使用し、又は露國人を上海から急派して補充せしめたものがあつた。



罷工人員は當初六月、前記九萬五千人(内女子約八千名)中香港から歸粵したもの約二萬八千名、廣東内外のもの六萬一千餘名を占めたが、同年九月舊仲秋前後には、歸郷者約三萬八千名、香港復業者約二萬四千名、其他廣東復業者は多少あつたが、殘留罷工人員は尙四萬一千餘名を算した。其後一箇年餘を經過した一九二六年八月末日現在では、復業者漸次増加し、殘留人員一萬五千餘名中、糾察隊員三千三百名、北伐出征者二千八百名を含んで居た。

省港罷工經濟絶交手段及之れが影響を一言せば、廣東側は省港間航通断絶の爲め、食糧及燃料の供給方法として、罷工直後の六月二十四日制定の特許證制度に依つて、英船英貨でないもの及び其他香港經由船以外の廣東直航船は始めは上海廣東間、次は暹羅安南と廣東との間の航通を開始し、又日米船の廣東入航を認め、其結果上海、暹羅等の商船、米國の大來公司、日本の三井洋行及各國商船復業入港し、商船の黃埔に直航したものは、毎日平均四十餘隻で、古今未曾有の盛況を呈したが、罷工委員會は更に對香港政策を確保するが爲め、廖案發生後(八月二十日廖仲凱刺殺さる)自動的に特許證制を廢止し、一步を進めて「工商聯合」を提倡し、四商會と共同して善後條例を定め、十月一日から施行することとした。即ち(一)香港及澳門から航來の貨物は、何國の生産たるを問はず、一切廣東輸入を許さず、又廣東から兩地には何れの國貨を問はず一律に之れが輸出を禁止、(二)英國船及香・澳を經由して廣東に入港する各國船舶は、何れの國家なるを問はず、一切貨物の揚卸を禁ず、

(三)英國貨以外の内外貨品及英國船以外の内外國船舶は、香・澳を經由せずば、均しく自由に揚卸する事を許した。

罷工委員會所屬に糾察隊を設け、英船英貨及反則船の取締監視に従事し、税關以外に煩雜な貨物検査を實施し、頗る通商を阻碍した。糾察隊は三千餘名(豫備隊を含み)に上り、監視區域は、珠江一帯を始めとし、東は九龍半島及石牛海灣ヤスベイ深圳から、西は江門・北海、東は汕頭に互り、水面には小艦十二隻あつて巡邏をする、監船の爲には騎船隊が一昨十四年十月頃から組織され、乗船費用は勿論歸廣旅費や小使錢迄、一式船主をして負擔せしめ、廣東港の入出には、必ず乗船を必要とした。但し遠洋航路又は日本航行船は、旅費多く船主は負擔に苦み、便宜方法として香・澳等に絶對寄港せぬことを條件とし、船長から保證書又は保證金香貨百十弗位を納付し、乗船に代ふる事としたと云ふ。十月十日以降は糾察隊を解散し、同二十日から財政部所屬の検査隊に編入した。從來糾察隊の監視が嚴重であつたのは、廣東は香港及澳門等の水陸沿路であり、平時省港の江門等の河航汽船は、英國船が六割内外を占めて居つたものが、抵制に依つて殆んど其影を没し、僅かに英國海軍の備用した一汽船に依つて之を補充し、九月初迄には、省港間航通が一時恢復されたが、尙一日往復一汽船のみであり、香港江門間は全然航通杜絶し、其他廣東又は廣東管轄内の諸港に對する各汽船は、凡て香港寄港を中止し、従つて香港は Entrepote たる資格を喪失し、貨物の對外輸出は上海から轉運



し、或は直接に日本、暹羅、西貢間を往來し、又時に直接獨・米兩國から來るものがあり、上海が香港の地位に代り、廣東貿易の轉運樞紐となつたと同時に、廣東と香港とは各地位を轉動し、廣東は又同省及廣西地方貨物集散の中心になつたのである。

是を以て香港貿易は、沙基事件發生の年（一九二五年）は半箇年間の影響を受け、前年に比して約半減し、自ら英國の對支貿易は優逸の地位を失ひ、日本と伯仲の間に在つた。

## 四

又昨十五年末北伐軍の成功に伴ひ、國民政府の武漢進出以來、反帝國主義の活動は見るべきものがあつた。長江一帶に漸次排英氣勢を高め、遂に本年（一九二七年）一月三日の漢口事件及六日の九江事件に於て、共に暴動を利用して英租界を取消し（十九日漢口租界協定、二十日九江租界協定をなす）、上海にては、共產黨系を中心に、民黨最左傾派及失業工人團を兩翼とした上海總工會は、國民革命軍杭州占領歡迎罷業の名を以て、杭州占領日の二月十九日から五日間總罷業を實行した。共產派の口傳では、上海八十萬の工友中、罷工動員は三十萬に達したと云ふが、同月二十三日の調査に依れば、右第一次總同盟罷工參加人員は十一萬八千餘名であつて、日本人經營の工場四萬八千四百餘名、支那人工場四萬三千餘名、英人工場は一萬八千四百餘名を占めて居る。

三月二十日以降三日間に於て南軍の上海占領となり、總工會は國民革命軍上海克復罷業の名の下に、革命軍上海入城の二十一日から五日間、第二次總罷業を實行した。參加人員は上海工部局の調査に依れば、十五萬三百六十八名に達した。又上海占領當日の前後は、共產派や便衣隊の活動があり、就中總工會の武装暴動は、前後三回に互り、第一回は昨年十二月二十三日、第二回は本年二月十九日、第三回は奉魯軍と流血巷戰したものである。

次いで三月二十三日以降三日間、革命軍の南京占領に際し、尼港のバルチザン事件に比せらるゝ南京暴虐事件があり、次いで四月三日には、漢口日本租界の暴動事件があり、排日氣分を發生し、昨年以來日本船の獨占的勢力を増した長江航運も、前記二月十九日以降の總罷業に依て長江流域航運中止、又は漢口事件に至る屢次の暴動騷擾に依り、且つ南北動亂のために鐵道其他交通の支障に依り蒙つた通商上の禍害は著しいものがあつた。又長江沿岸諸港並に上海の在留外人の退去者多く、殊に上海の騷亂は太平亂以降未曾有であつて、從來上海は輿地動亂毎に人口累積し、所謂避秦の桃源としての樂天地であつたものが、反對に今や水火危殆の區域となり、本年四月初旬約一週間で、退去支那人三十萬、外人四千人を計上したと云ふことは、劇的事實であつた。團匪事件の際は、米・英獨・澳・日・露等の各國全體で、出兵數二萬五千人位であつたのが、本年二月頃には英國兵のみで約二萬人はあり、四月初め上海のみに碇泊して居た各國軍艦は、約四十隻あつた。四月初旬から上海では蔣介石の清黨運動（共產派撲滅）となり、同十八日には南京國民政府の成立と共に武漢派と分裂を



來し、爾來數箇月間危機に迫つて居つた。今夏蔣介石の下野後、武漢及南北政府の合併となつて、一時小康を得たが、又分裂を來し、前途は容易に判斷出來ぬ。一方本年六月、國民革命軍の山東進出に對する日本の出兵は、著しく南京政府及一般市民の排日氣勢を高め、六月下旬から上海以南廣東・廈門・汕頭等の抵制運動となり、政府の形式上の取締も效果なく、今日迄已に數箇月に亘り、時に消長はあつたが、諸地に於て日貨の抵制を繼續し、又別途奉天に在つては、現政府の對滿政策に反抗し、排日運動を惹起した。

## 五

要するに一九二五年五卅事件以來國民革命運動の進歩に従つて、専ら排英運動は廣東及長江方面一帶に亘り、八十有餘年を経て建設し來つた英國の支那に於ける商勢力を根柢から搖動せしめ、英國の對支貿易は稍凋落の徴を示したのに反し、日本の對支勢力を頓に勃興せしむることとなり、關稅收入に在つては、日本は歐洲戰爭の特別原因に依つて、既に一九一七年以降一九一九年迄は英國を凌駕し、貿易額は僅かに一九一八年に第一位を占めたが、其後減退し、又最近前記事情の爲め、昨一九二六年遂に英國を踰越したのは、獨り彼の一八九八年英支間總稅務司に關する協定が、根據を喪失したばかりでなく、支那に對する彼我の政治的並に經濟的勢力上多大の影響を及した。殊に昨一九二五年關稅會議以後、支那の利權恢收運動熾盛となり、昨年末、一八六四年以來發達した混

合裁判制度の一種である上海會審衙門 (Mixed Court) の取消があり、次で北京總稅務司署の海關副總稅務司格である總稅務局長 (Chief Secretary) の地位に、日本人を据へたこと、上海共同租界市政廳 (工部局) の最高執行機關である行政委員 (Municipal Councillors) に、一九一五年當初から現在迄一名のみであつた、日本側委員を二名に増員した事は、最も重大な歴史的事件の一である。然らば今後の趨勢は如何と云ふに、英國が香港及租界其他の勢力を有して居る以上、排英運動が終熄せぬと同様に、日本が滿州の特殊利權や諸租界や殖民地を有して居る以上、時々排日氣勢の勃興するのは已むを得ぬ事情であつて、貿易上に消長のあることは免れぬ。現に前記本年春からの時局の爲め、日本の對支貿易も相當打撃を蒙り、本年 (一九二七年) 上半期の日本の對支輸出 (關東州を除く) は、前年の二億二千萬圓が一億五千九百萬圓に、輸入は前年の一億二千四百萬圓が一億二千萬圓に減退して居り、又上海日本商務官の調査に依れば、廣東北伐軍の漢口進出から本年六月迄で、九箇月に本邦の貿易に及した影響は、前二箇年の平均に比し一億八千萬圓に減じた。即ち前年に比して長江流域は輸出が四十「パーセント」、輸入が十一「パーセント」、滿州及北支は輸出が二十九「パーセント」、輸入が二十六「パーセント」、香港及南支等は輸出が三「パーセント」、輸入が十六「パーセント」減に達して居る。

英國の對支貿易の減退は、前記の情形から見れば、一層甚しかるべく、現に本年二月上海に入港



せる船を見るに、英國船の百十五隻三十四萬噸に對し、日本船は百七十二隻二十五萬七千噸を示し、排日事件後の本年八月にも、英國船の三十六萬噸に對して日本船は三十八萬噸を占めた如く、大局から打算せば、今後日本の對支貿易が優勢の地位を維持すべきものと思はる。

## 第二章 支那貿易の發達

支那貿易は一八四二年南京條約締結以來、開港場の設置に伴ひ漸次發達し、近年殊に日清戰爭以降、鐵道の開通、内地工業の勃興等に從つて噸に増進を示し、最近歐洲戰爭後は更に激増し、時局の影響があつたにも拘らず、昨一九二六年には最高記録を呈したのである。

今支那貿易の史的發達に就て、便宜上海セントジョーンズ大學經濟學教授 Remer 氏の *Foreign Trade of China* に述ぶる所の分類に従へば、下の如くに五期に區分して居る。

第一期は一八七〇年以前とし、就中一八六七年前は精覈に支那の外國貿易の情況を知ることが出来ぬ。

第二期は一八七一年から一八八四年迄の十四年間とし、當期は従前と同一趨勢に在つて、外國人は支那の重要生産物を求めたが、支那は多數外國品の輸入を需要しなかつた。自ら茶及生絲の二品のみの輸出で、一八七一年には輸出總額の九十二「パーセント」、一八七七年には八十三「パーセント」一八八四年に至つても尙七十八「パーセント」を占めた。輸入に在つては阿片及棉製品が、一八七一年には輸入總額の七十六「パーセント」、一八八四年にも六十六「パーセント」を占めて居た。而して當期はスエズ運河の開通を見、當初一八七一年同運河を通過した船舶は、五十萬噸臺に過ぎな



かつたものが、一八八四年には六百萬噸臺に達した。但し當期の支那貿易は、前後を通じて著しい増進を示さないで、一八八一年の最高一億六千萬兩臺の外は、概して一億四、五千萬兩臺に在つた。

第三期は一八八五年から一八九八年迄の十四箇年間とし、當期は前記に比して種々の特徴があつた。(一)支那は舊來の慣習を破り、外國品を多く需要することとなり、棉花・石油其他外國品の輸入を増加した。(二)輸出貿易に在つては、他の東洋諸國に競争者が出、支那は從來の獨占的地位を喪失した。一例を擧ぐれば、茶は印度品に、生絲は日本品に壓倒せらるゝに至つた。(三)滿州の開發、鐵道の布設、新式工業の勃興等に依つて、漸次土貨の輸出を増加した。(四)香港が支那と諸外國との間の仲繼地となり、殊に一八八七年以降拱北(澳門)及九龍(香港)兩海關設置に依つて、香港支那間の民船貿易を計上することになり、香港の對支貿易は益々増進を示し、多くは總額の四十「パーセント」以上となり、一八九三年には最高四十八「パーセント」に達した。反之英國及印度の對支貿易が減退した。(五)日本の對支貿易は、前記は五百萬兩臺であつたものが漸次増加し、本期末には約十倍して四千萬兩臺に達し、總額に對して一八八四年の四・四「パーセント」が、一八九八年には十一・五「パーセント」に上つたのである。(六)當期中開港場は急に其數を増加し、一八八五年の十九箇所が一八九八年には二十九箇所となつた。

前記の事情に依つて、一八八五年に一億五千萬兩臺が一八九八年には三億六千餘萬兩に上り、輸

入に在つては同期に八千八百萬兩臺から二億萬兩臺を突破したのである。

第四期は一八九九年から一九一三年迄十五箇年間とし、當期は貿易の消長と重大な關係を有して居る事件があつた。即ち(一)一九〇〇年の團匪事件、(二)一九〇四、五年の日露戦争、(三)清朝の滅亡及共和國の成立、(四)多數通商條約の締結等である。當期は日清戦争後、特に滿州の開拓、鐵道の發達(現在鐵道の大部は一八九六年から一九一三年迄に出來た)に依り、前期に比し一層輸入の増進を示した如く、貿易額は前期平均の二億五千四百萬兩臺に對して六億五千七百萬兩臺に上り、最高は一九一三年に九億七千三百餘萬兩に達したのである。

當期は特に北支及滿州方面の貿易が發達した爲め、香港の對支貿易の比率は下降し、一八九九年には尙四十一「パーセント」を占めたものが、一九一三年には二十九「パーセント」に下つた。

第五期は一九一四年から一九二二年迄の九箇年間とし、當期は前記の情形が更に發展し、特に戦後の恢復期に入り、著しく貿易の増進を示した。當期の特徴としては、(一)北支・滿洲又は上海貿易の發展に従つて、香港の對支貿易が前期同様に低落の傾向を辿り、(二)日・米等の對支貿易が累進し來つたのである。

一九二三年以降も貿易は好況に在つて、其價額は既に一九一七年から十億兩臺に上り、一九一八年迄は大差がなく、一九一九年から漸増し、一九二一、二の兩年は各五割を増加して十五億兩に達



し、後一九二四年には十七億八千九百餘萬兩となり、一九二五年は稍減退して十七億二千四百餘萬兩を示したが、一九二六年には十九億八千八百餘萬兩に躍進した。而して一九二三年後の貿易情態を約言すれば、國別貿易から見れば、英國側殊に香港の割合が漸次減退し、日本は滿洲の發展に伴ひ、前期末の減退の傾向にあつたものを挽回し來つたこと、支那の新式工業の發達に伴ひ、棉絲布其他支那の新式工業品が外國品に代つたこと、は、閑却することの出來ぬ事實である。然れども最近一九二五、六年は、上海及廣東事件を中心とした國民革命運動の發展に伴ふ動亂騷擾の爲め、蒙つた影響は、支那全國の貿易から見れば、著しい變化を認めないで、一九二五年には前年に比して貿易價額は六千有餘萬兩を減退したにすぎぬが、一九二六年には後に述ぶる通り、假令金銀比價の關係であるとは云ふもの、其額は二億兩以上を増加して居り、香港經由を廣東上海等に轉向した貿易系統から考察し、從來の傾向を促進せしめた程度は著大なるものがあつたので、支那貿易史の區劃として、予は第五期を一九一三年から一九二四年迄十二箇年間とし、一九二五年から第六期として附記せんとするのである。

左に最近十年間の國別對支貿易歩合を掲ぐれば、下の如くである。

年次	日本(臺灣を含む)	英國(香港其他屬地を含む)	英本國	香港	米國(布比を含む)	其他諸國
一九一七	三三・四	三九・七	七・五	二六・四	一五・三	一一・六

一九一八	四〇・一	三七・八	七・一	二六・三	一三・三	八・八
一九一九	六・二	三七・三	九・三	二一・八	一六・五	一〇・〇
一九二〇	三〇・二	四一・九	一三・二	二二・一	一六・〇	一一・九
一九二一	二六・七	四二・五	一一・八	二五・〇	一七・七	一三・一
一九二二	二五・九	四一・九	一一・三	二五・一	一六・七	一五・五
一九二三	二六・六	四一・一	九・六	二四・九	一六・八	一五・五
一九二四	二六・四	三八・六	九・七	二三・〇	一六・五	一八・五
一九二五	三〇・五	三〇・九	八・一	一六・七	一七・〇	二一・六
一九二六	三〇・二	二七・八	八・六	一〇・九	一七・四	二四・六

最近五箇年間の外國貿易高を擧ぐれば、下の通りである。

(單萬兩位)

年次	輸出入別		日本(臺灣を含む)	英國其他屬地(香港其他屬地を含む)	英本國	香港	米國	其他	計
	輸出	輸入							
一九二二年	二四一	一八〇	四四六	一四五	二九九	一七二	一一五	九七五	
	四二二	二二二	六八三	三八	一六九	九九	一三六	六五四	
一九二三年	二二二	二二八	四四六	一八三	四〇九	二七二	二五二	一、六二九	
	四五一	二二八	二五二	四三	二四八	一五五	一二三	九四八	
一九二四年	二四六	二四六	四四一	二六三	四二二	二八六	二六三	一、七〇一	
	二四六	二四六	四四一	二六三	四二二	二八六	二六三	一、七〇一	
一九二五年	二四六	二四六	四四一	二六三	四二二	二八六	二六三	一、七〇一	
	二四六	二四六	四四一	二六三	四二二	二八六	二六三	一、七〇一	
一九二六年	二四六	二四六	四四一	二六三	四二二	二八六	二六三	一、七〇一	
	二四六	二四六	四四一	二六三	四二二	二八六	二六三	一、七〇一	
計	四七八	二二二	六九七	一七六	四一七	一七六	四一七	一、七八九	



年	輸 入		輸 出	
	計	再輸出を除いた直接額	計	再輸出を除いた直接額
一九二五年	三〇九	三三六	九三	一七六
一九二四年	二二一	二〇〇	四七	一一四
一九二三年	五三〇	五三七	一四〇	二九一
一九二二年	三四九	三六〇	一一六	一一六
一九二一年	二五八	一九八	五五	五五
一九二〇年	六〇七	五五八	一七二	二一八
一九一九年				
一九一八年				
一九一七年				

(註 括弧内は再輸出を除いた直接額を示す)

海關の收入は、凡そ貿易の消長と多くの場合平行するものであり、又近年再度關稅改訂があつたので、其増進は著しいものがあつた。最近十年間の海關收入を擧ぐれば、(單位一千海關兩)

一九一七年	三八、一八九	一九二二年	五九、三五九
一九一八年	三六、三四五	一九二三年	六三、五〇四
一九一九年	四六、〇〇九	一九二四年	六九、五九五
一九二〇年	四九、八一九	一九二五年	七〇、七二五
一九二一年	五九、〇〇七	一九二六年	八〇、四三五

となり、更に最近五箇年に於ける、英・日・米及支那四箇國の稅收對照率は左の如くである。

國 別	年 次	稅收對照率
英	一九二二年	三七・七〇%
	一九二三年	三八・四四%
	一九二四年	三七・二二%
	一九二五年	二五・七五%
	一九二六年	二五・六七%

日本は従前一九一七年から一九一九年迄の三箇年を通じて第一位に上り、又最近一九一五年から再び英國を凌駕したのである。然れども長江及南支方面は、英國は多年の地盤設備があり、我邦の追隨を許さぬものがある。

日 米	支 出
三二・二五	一六・〇二
五・一九	
三〇・八一	一六・〇七
五・五四	
三一・四三	一三・六一
六・四六	
三五・九〇	一七・六四
七・三六	
三八・〇四	一四・八三
六・七五	



## 第三章 最近の貿易事情

## 第一節 一九二五年の貿易

## 第一總 說

一九二五年の支那の外國貿易額は、前年の十七億八千九百餘萬兩に對し、僅かに四「パーセント」弱の六千五百萬兩を減退し、十七億二千四百餘萬兩を占めた。各年日本貨に換算せば、前年の三十四億八千七百餘萬圓（一海關兩に付一圓九十五錢とし）に對し、一層増加して三十五億一千六百餘萬圓（一海關兩二圓四錢とし）となるのである。

本年は農家も商人も又製造家も通じて混亂の難局に處して能く堅忍持久したことは、驚嘆すべきものがある。蓋し政局の不安・土匪・海賊・地方雜多の不當課税・生活費の高漲・生産費の増加及諸品に對する激烈の競争等から、輸入品の内地販路は阻害され、商況は概して不振で利益も少かつたにも抱らず、税収は前年よりも二十七萬五千兩を増加した。五月三十日の上海事件と廣東の風潮とは、貿易を阻碍すること大なるものがあつたが、又其罷工及抵制運動は一、二中心市場に局限され、現に上海若くは廣東經由で輸出又は輸入することの出來なくなつたものは、近隣市場又は天津の如き他

の大開港を經由することとなり、而して南方殊に西江沿岸諸港の例を除けば、上海事件の直接影響は或は臨時的のものとも云へる。危期は六月から始まり、九月末に終熄したが、既に一月以來江浙戦に依る交通杜塞等、他の原因が助成して貿易の伸暢は阻滯されて居た。同年は一方歐米市場にては、支那製品一般に好況を呈して居たから、若し時局が平靜で諸品の生産費が一層低廉であつたならば、輸出貿易は前年に比して一層殷賑を期し得べきことは明かであつた。

## (イ) 税 收

税収は水害救濟附加税八十五萬餘兩を除外し、六千九百八十七萬餘兩とし、前年に比して二十七萬餘兩、又一九二三年に對して六百三十六萬餘兩を増加して居る。

時局の爲めに輸入税は三千六百三十七萬兩に止り、前年に比して百七十萬兩を減退し、一九二二年改訂税率の現實五分に依つたのであるが、若し舊税率に従はば、三百五十萬兩餘の減収を見るべきであつた。噸税は准支那汽船に於て五萬二千兩を増加したのに反し、外國船に在つて減じたので、結局七萬三千餘兩の減収となつて居るが、輸出税及沿岸貿易税增收の爲めに、全體に於て増加を示したのである。而して上海は事件の中心故に、前年の總額に對する割合は、三九・五八「パーセント」が三七・一六「パーセント」に、廣東は五・三七「パーセント」が四・二六「パーセント」に下つたに反し、大連は七・七八「パーセント」が八・八七「パーセント」に、天津は九・九五「パーセント」が一二・〇七



「パーセント」に増加した。

(ロ) 國別貿易

同年對支貿易中増加したものは、輸出に於ては米・佛・伊・露・獨・英領印度・蘭領印度・新嘉坡・海峽殖民地等であり、減退したものは香港・澳門・英・日・和等であり、輸入に在つては、増加したものは日・佛・英領印度・蘭領印度・新嘉坡・海峽殖民地・澳門等であり、減退したものは香港・英・獨・和・白・伊等である。

香港との貿易は、罷工事件の爲めに輸入が六千五百五十萬兩、輸出が五千八百萬兩を減退した。英國との貿易は輸入が三千二百八十萬兩、輸出が二百六十萬兩を減退し、日本との貿易は、輸入が六千六百萬兩を増加し、輸出は一千四百八十萬兩を減退して居る。米國との貿易は、輸入が四千七百七十萬兩を減退し、輸出は四千二百萬兩を増加した。他の國との貿易中、佛に對しては輸出が二千一百萬兩、輸入が二百萬兩増加した。而して露國(西比利亞を含む)との貿易が四百八十萬兩を増加したのは、注目すべきである。

(ハ) 重要貿易品

輸 入 品

輸入品中重要貨物で、時局の影響を受けたものをあげん。

棉絲布は總輸入高の二割内外、棉布類は約一割六分を占めて居る。

米國製生金巾・シーチングは、前年の二萬四千疋が十六萬七千疋に、日本製同品は十三萬八千疋を増加して三百十三萬九千疋に達したのに反し、英國製品は前年の九十六萬八千疋が半減して四十八萬六千疋に激減した。元より英國製品の減退は抵制の反響であるが、安價な日本品及土貨の競争の爲であつた。又同年上海の公賣市場は、年末迄再開されなかつた。

蓋し一九一四年當時迄は、英國マンチエスターグッツが市場を獨占して居たが、歐洲戰爭後漸次日・支兩國品の爲め、其地位を蠶食せらるゝことになつたのである。

棉絲は支那棉花の割高と罷業の影響とで、近年減退の歩調を辿つたが、前年の五萬四千擔が六一萬八千擔に激増し、特に日本絲は其約半額の三十六萬三千擔に増加した。

外國棉花は又著しく増加し、米棉は前年の十四萬六千八百擔が二十三萬擔に、印度棉は百三萬九千擔が百四十六萬三千擔に、日本棉花は五千八百擔が八萬二千擔に増加した。

砂糖は日本の精糖が市場に競争した結果、年初に上海相場は一擔八・三〇兩であつたが、香港糖は二月頃に七・二〇兩に下り、キューバ糖は六・二〇兩乃至六・四〇兩であり、七月から十月にかけては六・一〇兩、十月末に最低五・七〇兩に下り、年末には六・〇五兩を示した。同年の輸入は前年に比して各種共何れも増加し、殊に排日英貨の爲め、爪哇糖の買付を増加したのである。即ち前年香港



糖は四百六十四萬擔が三百七十七萬擔に減退したのに反し、日本糖は二百二十九萬擔が二百七十七萬擔に、瓜哇糖は百二十八萬九千擔が三百八十一萬九千擔に激増した。

輸出品

輸出品中特筆すべきものは、生絲及大豆並に同製品で、各總輸出額の一割五分乃至一割八、九分を占め、生絲の輸出は五卅事件に依つて増加し、殊に白絲は前年の八萬六千擔が十萬七千擔に上つた。

棉花は不作の爲め、前年に對して其生産額を約七「パーセント」減少し、七百五十七萬餘擔と云はれた。

上海事件に依る紡績工場の罷業は、支那人工場にては二箇月、日・英人工場にては更に長く繼續し、棉絲の生産額を減退し、市價騰貴の爲め、自ら原料棉花の價格をも引上げたと同時に、輸出は前年の百八萬擔が八十萬一千擔に下り、日本に對する輸出は、又前年の八十九萬擔が六十一萬擔に減じ、之れに反して外國棉花の輸入は、前述の通り増加したのである。

(二) 船舶

船舶の入出港は、時局の爲めに貿易額よりも一層打撃を蒙り、前年の一億四千百萬噸が一億二千八百萬噸に下り、汽船は前年の十三萬二千百十三隻一億三千六百萬噸が十二萬九千二百隻一億二千

百五十萬噸に、帆船は前年の五萬四千隻四百六十萬噸が四萬七千六百五十四隻三百六十八萬噸に減退し、就中英國船は四萬八千八百八十六隻五千五百七十一萬噸が三萬六千九百三十七隻四千二百九十四萬噸に減退し、次位の日本船は二萬六千二百九十四隻三千四百七十五萬九千噸が二萬七千二百六十一隻三千五百八萬一千噸に増加し、其他獨・露等の各船何れも増加したが、米船は六千四百三十五隻六百三十五萬噸が五千六百八隻五百八十五萬九千噸に減退し、支那船は隻數は日本船を越へたが、噸數は遙かに下位に在つた。而して支那船は隻數は減退したが噸數は増加した。

第二 各地の貿易に對する影響

時局が貿易に及した影響を地方別に觀察すれば、抵制罷工の中心である上海は、外國貿易は前年の七億五千九百餘萬兩に對し、七億三千八百餘萬兩、内外貿易（土貨の輸入を除く純貿易額とす、以下同じ）は七億七千六百萬兩が七億五千四百萬兩に下り、上海以下蘇・杭二港及寧波・温州の中支諸港に在つては、外國貿易は前年の七億六千四百餘萬兩に對し、七億四千四百餘萬兩に、内外貿易は八億六千九百萬兩が八億五千二百萬兩に減退し、廣東は外國貿易は前年の一億三千六百餘萬兩に對し、六千五百萬兩即ち三割四分を減退し、九千萬兩臺となり、内外貿易は兩年共二億百萬兩で大差がなく、廣東以下南支西江十三港に在つては、外國貿易は前年の三億六千一百餘萬兩に對し、一億六百餘萬兩即ち約三割弱を減退し、二億五千四百餘萬兩に、内外貿易は五億二千四百萬兩が四億五



千九百萬兩に減退したが、反動として滿洲諸港（大連以下六港）は、外國貿易は前年の三億三千四百餘萬兩が三億六千四百餘萬兩に、内外貿易は四億二千四百萬兩が四億九千八百萬兩に上り、又時局の反響のない南境諸港（龍州以下四港）も、外國貿易は前年の二千九百八十餘萬兩に對し、三千六百餘萬兩に、内外貿易は三千萬兩が三千七百萬兩に増加したのである。

(イ) 滿州及北支諸港

滿州の貿易は七港中、愛琿、龍井村、ハルビン等を除くの外は、何れも前年に比して増加した。

哈爾濱

哈爾濱地方は前年と大差がなく、總體には寧ろ減退したが、輸入は露國産石油が前年の六十七萬四千九十五「ガロン」に對し、百十四萬九千二百七十九「ガロン」に激増し、英、米油は侵食されたのである。其他露國産織物も多量の輸入があつた。

大連

大連は上海事件が夏期閑散期に發生したから、著しき反映がなく、却て南支の抵制運動に依つて上海の市價が騰貴した爲め、特に罷工中貿易は好況に在つて、前年に比し稍増進し、又は後半期には上海事件の結果、上海品は著しく減退したが、青島工場品を以て之れを補足した。一方紡績工場の活況が自ら棉花の輸入を増加し、又地方煙草工場其他支那製造品發達の爲め、外國煙草の輸入を減

退し、却つて其原料の輸入を増加した。

營口

營口の如きは上海事件の影響を蒙る事多く、六月以降八月迄貿易は阻害され、殊に英、日航業は打撃を受けたが、東三省の農産物が豊作であつた爲め、輸出が旺盛となつた上、棉布、麻袋等外國品の輸入も、相當の額に上つたのである。

天津

天津は鐵道の障害、冬期河川の結氷、又は夏季水害等に依つて運輸杜絶し、内地貨物の搬出困難を見たが、上海事件は航運に關するものを除けば、痛切の影響を受けなかつた。排日、英の罷工及抵制を宣傳したが、其實現を見ずに終つた。却つて同年秋季の上海風潮極烈の時に當つて、日本棉布の輸入は激増した。其他上海及廣東事件の爲め、六、七月頃には日本糖の輸入も増加し、又日本棉絲は前年に比し約三萬擔を増加し、反之英國品は殆んど其跡を絶ち、支那棉絲も一時的原因とは云ふものゝ、上海工場閉鎖の爲めに約九萬擔を減退した。

日本の麥粉は、六月以降三箇月間、上海工場閉鎖の爲めに輸入を増加したが、十月頃には低廉の加奈陀粉の競争があり、減退した。

現に獨り大阪から北支に輸出した棉製品は、前年六月の五百九十餘萬圓が同年同月には八百八十



餘萬圓に増加して居る。

船舶は上海罷工の爲め、當港に轉航したものが急激に増進し、即ち従前日本船にて天津經由上海及日本諸港間を通過したものが、罷工中は天津に直航する事になり、又同年は日本も世界航運界の事情と同じく、過剩船隻の利用に腐心しつゝあり、自ら當地方へ廻航したものが少くなかつた。且つ日本の對支爲替が有利であつた爲め、一層其情勢を助けたものである。反之英國船は時局の影響を蒙り、著しく減退したのである。即ち同年普通規程に依る（内河航汽船を除く）入出港船は、前年に比し七百八十二隻七十九萬百二十六噸を増加し、三千八百二十四隻四百八十四萬百九十一噸に達したが、英船は前年の七百五十二隻が六百九十隻に下つた。各國船舶の入出港數を對照すれば、下の如くである。

國別	單位百萬噸	
	一九二四年	一九二五年
英國	一、二二	一、二六
日本	一、二九	一、八四
支那	〇、七六	〇、九二
米國	〇、三一	〇、三一
獨逸	〇、二五	〇、三七

青島

青島は内外貿易何れも減退し、即ち外國貿易は前年の七千一百萬兩が六千七百萬兩に、内外貿易は前年の一億三千二百萬兩が一億二千六百萬兩に減退した。同年は(一)小麥不作(二)政爭動亂(三)鐵道紊亂(四)重稅課徵等不利の事情があつたが、上海及廣東事件の爲めに貿易の轉換があり、増進を示したのもあつた。上海二月の工潮と響應して四月頃から紡績工場の罷工があり、五月末には工人の武装暴動があり、工潮は七月末迄繼續した。廣東事件の爲め、青島南支間の航運は、數隻の汽船の廢止を見たが、上海罷工に依つて、日英獨船何れも増加し、殊に支那船の活躍は見るべきものがあつた。

外國品は當地の排外運動激烈な爲めに減退し、支那工場品殊に棉絲布の入津の一般に増加したのは、注目すべきである。

(ロ) 長江沿岸諸港

長江沿岸は、内國貿易が大部を占め、時局の影響を蒙つたにも拘らず、内外貿易を合算せば、前年に比し稍増加し、六億五千七百餘萬兩となり、外國貿易も又増進し、一億八百餘萬兩を占めて居る。

重慶

重慶は、内外貿易は前年に比して稍々増加し、六千五百餘萬兩となり、外國貿易は稍減退し、一



千二百二十餘萬臺である。

同年は(一)重税課徴、(二)悪貨鑄造に依る銅貨の下落及不當課税に反抗した商民の罷業(六月及十月)  
(三)政争、(四)農夫が軍隊に徴發されたこと、及田地に罌粟を栽培したことに依つて、穀物の産額減退に依る米價の暴騰(穀價は約倍加した)等、不利な原因があつた上に、上海學生運動の影響を蒙り、排日・英貨の爲め、外國製棉布の如きは打撃を受け、支那品の爲めに壓倒された。其他一般に支那品の輸入が好況であり、又人造絹絲同製品の輸入を見た。而して同港宜昌間の航路に新船十六隻、其噸數四千一百七十七噸を増加した。

宜昌

宜昌は、内國貿易は銅貨の下落及不作に依り、米價暴騰(一擔十一元が二十七元迄上つた。)し、政争の外に罷工事件の爲め、上海・漢口・重慶等から一般貨物の輸入杜絶減退したが、外國貿易は前年に比して稍好況であつた。而して砂糖の輸入は増加したが、棉絲の輸入は全然杜絶した。

長沙

長沙は内外貿易共に、地方の大旱魃なること、上海事件後の罷工及日・英貨抵制運動の影響を受け、不況であつた。英・日船は共に監視され、貨客共に荷役を防止され、又十二月初旬には學生が關稅會議に反對宣傳をなし、日本の小蒸汽船を燒燬した事件があつた。

内外國品何れも前年に比して不況であつて、外國品は五割乃至八割を減退し、殊に英國棉布類に在つては、著しく減少し、只例外は米油の輸入で、前年に比し二百二十八萬餘「ガロン」を増加し、反之スマトラ油及ボルネオ油は、前年に比し二百三十三萬「ガロン」を減退した。

漢口

漢口は昨年に比し、内外貿易とも稍増加し、總額は二億八千七百餘萬兩、外國貿易高は八千四百萬兩臺となつた。同年は附近一帶殊に中心市場が政争及匪賊の害を受け、京漢線の杜塞に依り、河南地方からの石炭其他の物資の出廻りが防止された外に、五卅事件の影響は、其發源地の上海程ではなかつたが、學生運動や工潮に依り、排日・英抵制があり、七月迄で日・英船の航行中止され、一部支那船を以て補足したのみであつた。又石炭の輸入不足し、漢陽鐵廠は閉鎖した。

棉製品市場は不況で、商人の破産者があり、外國棉製品の輸入は、棉絲の外は又一部支那品を以て之れを補充した。

漢口當事者の調査に依れば、同地棉絲布の輸入總額は、即ち

	一九二四年	一九二五年
棉 絲	二、四三〇、〇〇〇兩	二、九六〇、〇〇〇兩
棉 布	一五、五〇〇、〇〇〇	一三、四七〇、〇〇〇



一九二五年棉布類の國別輸入高は、大約下の如くである。

	單位千反
日本	一、九五〇反
英	五二六反
米	四反
其他	四反
上海品	六〇反

九江

九江は匪賊や動亂の外に、又上海事件の影響に依り、内外貿易は共に前年に比し減退した。六月十三日に外國租界に暴動があり、臺灣銀行は焼かれ、海關又三日間業務を閉鎖し、罷工後四箇月外國河航汽船は、定期航行を中止した。

外國品の輸入は、排英貨運動の爲め、英國製棉貨及羊毛製品共に減退し、粗布及シーチングは約四十一「パーセント」減退したが、反之日本及印度棉絲は好況で、前年の千八百三十七擔が四千四百四十四擔に増加した。砂糖は日本糖(臺灣産)が増加し、殊に南方動亂に依り、從來江西方面からの陸路運送も杜塞した爲め、日本糖の汽船に依る入津があり、九江其他諸地に分送したのである。

沙市

沙市は棉花豊作の爲め、其輸出を増加し、上海事件後、漢口から運動者が入り込んで示威宣傳したが、官憲の取締に依つて鎮靜されたに拘はらず、英船に對しては尙相當抵制が行はれた。日本船は七月中には反響を蒙つたが、八・九月には漸次恢復した。

蕪湖

蕪湖は専ら米の産額激増し、内國品の輸出旺盛を極めた爲め、内外貿易は前年に比して約倍加し六千三百餘萬兩臺に上つたが、外國貿易は稍減退し、三百八十萬兩臺となつた。蓋し上海事件は甚しき影響はなかつたが、日・英河航汽船の入出港は、之が爲めに減退し、外國輸入品中、日・英棉製品殊に金巾・シーチング等は減退した。一方石油は米油が著しく増加し、砂糖は爪哇糖及支那糖が増加し、例外として煙草は抵制に依り、又土産品との競争があつたにも拘らず、好況を呈した。

南京

南京は動亂の爲め、津浦及滬寧兩線共に支障があり、鐵道貨物は河航汽船に移つた爲め、却つて輸出は好況を呈し、前年に比して其額を増加したのである。上海事件の爲め、六月以降九月迄抵制を繼續し、主として英・日兩國船が上海に四箇月間停船して居つたので、船舶の入出港は總體に於て前年に比し、千八百二隻百九十二萬四千噸を減退し、獨り河航汽船だけで千八隻千八百七十七萬噸を減退し、四千八百四十六隻七百八十四萬一千餘噸となつた。只米國船は米油の輸入が多く、其數を



増加した。而して内河航は前記事由に依り、亦増加した。

鎮江

鎮江は前年に比し好況に在つた。上海事件の影響も上海程には甚しくなく、五卅事件後學生は遊行し、暴徒は英租界に入り、工部局の建物を焼燬し、排日・英貨抵制があつたが、あまりに効果を示さぬばかりでなく、上海事件の爲め、上海揚の出来ぬアジア石油は當地に廻送され、一時當地は長江各地に對する石油の中心市場となつた。

(ハ) 中支諸港

上海

上海は支那總貿易の約四割内外を占むる各港の總進であるから、前年江浙戰の創痕並に五卅事件の影響に依つて、著しく不況に在るべきことを豫想されたが、事實は多少相違し、海關収入は僅かに六「パーセント」を減じ、貿易價額も二千萬兩を減退したに止まつたのは、蓋し生絲の輸出及棉花の輸出が増加した爲めである。但し外國輸入品は、五千萬兩を減退したのであるから、棉花・外國糖・石炭等の入増がなくば、總體に於ては大減退を見るべきであつた。而して生絲の外に、一般土貨の輸出が増加したので、外國品の輸入を補充したが、生絲は廣東事件の爲め、廣東品を當港に轉換輸出した特殊事情がある。其輸出額は、生絲及同製品を合算せば、六千二百萬兩に上り、其三分の

には、廣東から受け入れたものである。外國品の輸入中、棉製品は前年に比し稍減退し、殊に英國品は前年の五千三百餘萬兩臺(五九・一五%)が三千五百萬兩臺(四八・〇〇%)に減退したのに反し、日本品は三千四百萬兩臺(三八・五七%)が三千六百萬兩臺(四九・一一%)に増加した。

石炭は日本炭及東京炭(鴻基炭)を合算して、前年の七十九萬噸が百六十五萬六千噸に激増した。其増進の原因は、(一)香港及南支の市場が上海中心となつたこと、(二)主として支那人側から、又一部外人方面からも日本炭及東京炭に對する競争投機があつたので、即ち當港の消費又は輿地向の需要が増加したものではない。最近二箇年間の上海輸入數量を對照すれば、下の如くである。

(單位 千噸)

	一九二四年	一九二五年
日本炭(撫順炭を含む)	一、〇三九	一、九二六
支那炭	一、〇二〇	九一九
其他外國炭	七三	一四九
計	二、九八〇	三、〇五五

砂糖は他品と異り好況に在つた。爪哇糖に對しては特に投機的買占があつて、爪哇糖は前年の八十七萬三千擔に對し二百九十九萬擔に激増し、香港糖は七月以降工場の閉鎖せる爲め、其輸入額は六十五「パーセント」の四十七萬四千擔を減退した。煙草の如きも特税の課徴及排外抵制の爲め、前年に比し三十「パーセント」以上を減退し、之に代つて漸次支那煙草の發達を期するに至つた。



土貨の輸出中、生絲は前述の通り、廣東事件後、抵制の爲めに上海輸出を増加し、總輸出高の約三分の一を占め、其他絹製品があり、前年に比し五千二百萬兩を増加した。廣東から上海に移入された生絲は、前年には僅かに二十六擔に過ぎなかつたものが、同年下半季中に二萬八千四百七十四擔に上り、約二萬四千擔を再輸出したのである。

茶の輸出は、英國に對し減退した代りに、露國に對して増進を示した。即ち英國には前年の十三萬一千擔三百十二萬二千兩が三萬二千兩に下り、露國に對しては前年の五萬三千擔百三十萬六千兩が十三萬擔三百十一萬一千擔に増加した。

製粉は時局の爲め、食糧に供給されたので、著しき反響はなかつたが、動亂の際鐵道其他交通の支障に依る不利はあつた。米國粉は割高で競争に堪へず、又日本品も入貨が少かつたので、支那粉の獨占する所となり、近東各地・新嘉坡・香港・大連等に運搬し、輸出額は十二「パーセント」の九十一萬擔を増加したのである。

國別貿易は、英國の對支貿易は、開港後八十有餘年間各國の冠冕であつたが、上海貿易にも然りで、同年抵制の爲め、著しく其額を減退しつゝ、も尙第一位に在る。即ち

英 本 國  
一九二四年  
一三一、六〇

(單位百萬兩)  
一九二五年  
九九、二六

香 港	四六、〇七	三九、二二
英 屬 領	七六、八八	二一八、〇六
米 (比布を含む)	一八五、七七	一八三、四三
日 (華鮮を含む)	一五三、〇八	一五〇、八九

船舶の出入港に就ても、前記貿易同様抵制に依つて、英船は大打撃を受けても、尙大體首班に位する。前年と比較せば下の如くである。

		一九二四年	一九二五年
		(單位百萬噸)	
英	外國貿易汽船	一一、四三(三六、二%)	九、二三(三〇、八%)
	沿岸及河航船	六、五一(三九、三%)	四、九四(三二、五%)
	航 洋 汽 船	四、九二(三二、八%)	四、二八(二九、〇%)
日	外國貿易汽船	七、六四(二四、二%)	七、九七(二六、五%)
	沿岸及河航船	三、二一(一九、四%)	二、九三(二一、一%)
	航 洋 汽 船	四、四三(二九、五%)	五、〇四(三四、一%)
米	外國貿易汽船	三、三三(二〇、五%)	三、一六(一二、五%)
	沿岸及河航船	〇、三三(一、四%)	〇、二二(一、四%)
	航 洋 汽 船	三、一〇(二〇、七%)	二、九四(一九、九%)
支	外國貿易汽船	五、三五(一七、〇%)	五、七三(一九、一%)
	沿岸及河航船	五、三三(三二、二%)	五、七〇(三七、五%)

時局に依り、上海航業史上最も注目すべき點は、(一)廣東貨を積載する船舶は、常時經由の香港を



捨て、上海を轉運の中心と改めたと同時に、支那船・諾威船又は日本船の活動があつたこと、(二)殊に英・諾兩國船が大部を占めた事と、外國船舶中、支那籍に編入したものが前年に倍加したことである。前表に依れば、英國船は各種其何れも減退し、日本船は沿岸船・河航汽船の外は皆増加し、支那船は何れも増進し、米國船は一般に減退した。

寧波

寧波は内外貿易共に前年に比して増進し、内國貿易は前年の四千四百八十萬兩臺が四千六百九十萬兩臺に、外國貿易は三百六十萬兩臺が五百十九萬兩臺に増加した。寧波は上海と同一種族の關係上、時局の影響を受けること甚しく、六・七月頃には學生は排日・英貨の團體を組織し、英・日貨は減退し、反對に米・獨貨の雜貨が輸入を増加した。但し稅收上打撃のなかつたのは、從來當地轉入貨の多くは、上海海關に於て納稅濟の上、特別免徵制(Ec)に依るのが爲である。

輸入外國品の増加したのは、マニラ糖及米の輸入が多額に上つた爲めである。英國の棉布類又は煙草に對する抵制は著しく、日本棉布に對しては甚しき打撃を見なかつた。殊に日本の鹽魚は需要を増加した。石油は米油・ペルシヤ油は増加したが、ボルネオ及スマトラ油は減退した。日本燐寸は土産(正大火柴公司)に推されて、全然市場に其跡を絶つた。又草蓆の如きも、土貨が日本品を壓倒した。船舶の入出港は、普通規定に依るもの、前年の百七十三萬噸に對し二百十七萬噸に増加し、支那

船が大部を占め、英國船は前年の五十萬噸が三十七萬噸に減少した。

外國船中、時々日本船及諾威船に依る雜貨の運搬があつた。

(二) 南支及西江諸港

南支及西江諸港は、福建省の三都澳以下廣東省北海迄十三港に互り、廣東を主とし、内外貿易は前年の五億二千四百萬兩が四億五千九百萬兩に、外國貿易は三億六千百萬兩が二億五千四百萬兩に下つた。

福州

福州貿易は、匪賊及貨物に對する厘金其他課徴の害があつた外に、排外事件の影響を受け、前年に比して減退し、内外貿易は前年の三千五百九十萬兩臺が二千三百九十萬兩臺に、外國貿易は一千七百六十萬兩臺が一千五百三十萬兩臺に下つた。

外國品中にて最も抵制の反響を蒙つたのは、英・日の棉布類であり、其他鹽鮭・小麥粉等である。

輸出は前年に對し八十五萬兩を減じ、一千九百萬兩臺となつた。其減退の主なるものは、農産物及木材であつた。

同港の普通規定に依る入出港船舶が、前年の千四百七十三隻百四十三萬噸が千三百八十八隻百二十萬噸に減退したのは、又茶船の減退にもよるが、抵制・罷工・學生運動等が因をなし、七月中同



港、香港間のドグラス定期船の停航や、大阪商船の臺灣北支航路の荷役中止の爲であつた。

船舶は日本船最も多く、例へば一九二五年英船は百五十二隻十八萬九千噸に對し、日本船は三百六十八隻三十八萬四千噸を占めた。國別貿易額は、左の如く英國を首位とする。

(單位 千兩)

英國(香港其他 屬領を含む)	一九二四年	一九二五年
日本(臺灣を含む)	八、四九九	七、三七五
美國(比島を含む)	六、三三六	五、七七八
	一、三七五	一、一八二

厦門

厦門の内外貿易は、前年の三千萬兩臺が三千一百萬兩臺に、外國貿易は一千七百六十萬兩臺が二千萬兩臺に増加した。稅收は前年の七十八萬兩から九十三萬兩に上つた。同港は上海事件の爲めに英・日貨排斥となり、排日貨は九月に止んだが、排英貨運動は年末迄繼續したのである。然るに同年厦門の貿易が増進したが、其原因は、廣汕抵制に際し、基隆・爪哇及其他外港からの船舶は、香港に寄港を繼續したので、廣東及汕頭積取貨物をば、英國港に寄港せぬ小商船に依つて仕向地に再輸出する爲め、厦門に陸揚の必要があつたのである。

輸入外國品は、前年に比して増加し、日・英棉布等は春夏兩季には平靜であり、秋期に不況に入つた

が、冬季には好況となつた。蓋し抵制前に注文し、九月後排日貨の停止迄、臺灣に在つた日本棉布の輸入が、多く英國品に代つたのである。但し臺灣に對する民船貨物は、時局の爲めに年末に恢復を見なかつたのである。其他砂糖等伸織品が増加し、汕頭廣東に再輸出した。棉製品は近年次第に増加し、重要棉布類の輸入が、一九一八年當時十三萬七千疋が一九二四年には三十一萬疋に上り、排外貨のあつた一九二五年にも三十三萬二千疋に達し、下の如くに英國品が著しく減退した。

生 金 巾	一九二四年	一九二五年
	一四、五〇四	四、二〇三
生 綾 (雲齊布)	一九二四年	一九二五年
	二六、四〇三	三八、三九五
天 竺	一九二四年	一九二五年
	四、六五五	一二五
晒 金 巾	一九二四年	一九二五年
	八、三一三	八、四六〇
天 竺	一九二四年	一九二五年
	一〇、八一六	一、四八六
晒 金 巾	一九二四年	一九二五年
	四、五一七	七三、四六〇
晒 金 巾	一九二四年	一九二五年
	一八、〇一四	九、四四二
晒 金 巾	一九二四年	一九二五年
	三、五三七	一一、五八〇

而して印度絲の如きは、前年から減退し來り、一九二五年には其跡を絶つた。斯く日本品が優勢を示して居るが、同港の國別貿易から見れば、又英國を首位とすることは、左表に依つて知ること



が出来る。

	一九二四年	一九二五年
英 本 國	一四	一〇
香 港	六、七三一	六、二四五
其他英屬領	四、四八五	五、五二一
日 本	二、八三九	三、六八四
米 國	一、一四〇	五七三

(單位 千兩)

入出港船舶に就ても、同年排日・英船に對する抵制があつたにも拘らず、總計三百三十四萬噸中、英船は最高百八十二萬噸を占め、日本は次位で六十三萬噸であつた。同年當港は、汕頭・廣東方面の移民船に制限を加へ、防害のあつた反動として、下半期に其數を増加し、自ら移民の出港數は、前年の三十一萬四千人に對し四十七萬餘人に上つた。

油 頭

汕頭は同年の内外貿易に於いて、共に減退し、總額は八千五百萬兩臺が七千一百萬兩臺に下り、外國貿易は三千九百萬兩臺が三千萬兩に減退した。其貿易上不利となりたる原因は、船舶罷工及香港との通商停止の外、政争の不安及洪水に依る鐵道其他交通の障害等であり、罷工後當初三箇月は船舶の入港を著しく減退した上に、香港を伸縮とし他に貨物の銷路を求めて居る船舶も、罷工資金

を強徴された爲め、出港を延期したものがあり、十月及十一月の前半一時は、香港に對する通商が恢復し、排日貨運動も終熄したが、(陳炯明の時代)再び政局變遷し、抵貨烈しくなり、年末迄繼續したのである。

外國品の輸入は、抵制の爲めに前年の四分の一を減退し、二千一百萬兩臺に下り、英・日商人の外、支那商人も亦不利を蒙つた。棉布類は殊に不況であり、外國製粉亦輸入を減退し、一部は土産品を以て之を補充し、外國糖は地方甘蔗の栽培が減少したので、市場の投機熾となり、年末には著しく滞貨を見た。

國別貿易に於ては、英の減退が最も甚しかつたが、尙英國は日・米に比して遙かに優逸である。即ち

(單位 千兩)

	一九二四年	一九二五年
英國(屬領等を含む)	二八、三三三	一八、四九四
日 本	一、五三四	一、四〇二
米 國	二、〇三三	二、〇三〇

入出港船舶も、前年の五百二十三萬噸が三百七十萬噸に下り、其の三分の二を占めた英船が、著しく減退したに反し、支那船及諸威船が増加した。日本船及和蘭船亦抵制を受けて減退した。

移民船は、上半期には前年と同様であつたが、罷業後、工會は海峽殖民地に回航を禁止し、新嘉



坡及ビナンに對する移民は、前述の通り、厦門經由に改めた爲め、旅客數は十年間の最底レコードを示した。

廣東

廣東貿易は、總額に於て前年と大差がなく、二億萬兩臺であつたが、外國貿易高は前年の一億三千六百萬兩が九千萬兩に下つた。廣東經濟界は、數年來動亂及政争の爲めに不況を來し、數十年來の打撃と云はれ、後半季は殊に排英の爲め、廣東省各港と香港との間の關係に著大な變化を來したのである。同年の貿易は實質から見れば、平時には附近諸港の統計表に編入さるべき數字である。

稅收は又前年に比して七十八萬兩を減退し、三百萬兩臺であるが、主として輸入稅の減少した爲である。(輸入稅は六十六萬兩、輸出稅は六萬七千兩減收した。)廣東側の主張に依れば、同年冬季に廣東貿易が旺盛であつたのは、香港に對する抵制運動の效を奏した爲めであると云ふが、前記貿易統計の例に同じく、兩廣地方諸港の稅收が包含された爲めである。且つ一方香港に對する渡船(戎克)の航通が斷絶した爲め、廣東常關の收入を閑却する事は出來ぬ。

左に同年下半年季諸港に於ける收入の比較を示さば、其消息を窺ふことが出来る。

一九二四年(下半年) 一九二五年(下半年)

内地諸港

一、江門、梧州、三水、南寧及廣東常關 八九一、三〇〇兩 一七七、八三〇兩

沿海諸港

一、汕頭、九龍、拱北及北海 一、三四五、八七〇 一、〇〇〇、八八〇

一、廣東 一、六五五、四五〇 一、四〇一、八〇〇

計 三、八九二、六二〇 二、五八〇、五一〇

外國品の輸入は、前年に比して六百萬兩減退し、四千六百萬兩臺となり、一九二三年に對しては二千七百萬兩を減退した。香港に對する抵制の爲め、外國品の支那港(主として上海)を伸繼とするものが多くなり、同品は前年に百萬兩臺であつたが、八百萬兩臺に増加した。但し外國品の減退は各品に亘り、殊に棉布類は五十四「パーセント」、羊毛及同製品は五十八「パーセント」、フランネルは四十八「パーセント」を減退した。而して外國棉製品の減退に對しては、上海製品を以てしたのである。

外國粉の輸入は、前年に比し七十四「パーセント」を、卷煙草は五千七百萬本を共に減退したが、獨り白糖は爪哇から輸入を増加し、前年の四十三萬擔が六十一萬擔に上つた。

石油は專賣課稅の爲め、米國油・スマトラ油何れも減退したのに、反し、露國油は激増し、百萬「ガロン」の輸入を見た。再輸出は之れが爲め、石油に於て七十「パーセント」を減じ、棉布類は二十「パーセント」を減退した。



土貨の輸出は外貨抵制の爲め、前年に比して五千二百萬兩を増加し、九千二百萬兩に達した。蓋し又(一)従前西江諸港から直接香港に仕向けた貨物が、後半期に輸出向の爲め、廣東に轉送し、(二)輸出貨物中には、市價の騰貴したものが多かつたことに因るのである。

反對に香港に對する輸出は、前年の八千三百萬兩が五千萬兩に下り、又沿岸開港に對する輸出は、前年の九百四十六萬兩が四千二百萬兩臺に上つた。外國輸出は前述の通り、主として上海經由となつたのである。就中生絲は、同年は十年の不作で、製絲家の損失は三百萬元以上に達したと云はれた。

同年生絲工場で工女の罷工があつて、取引が妨げられたが、六月に解決し、歐米からの注文があつて、市價は一時多少騰貴したが、八月に及び内外商人が上海に營業所を開始し、廣東の生絲市場が全然上海に移轉した時迄は輸出は中止されてあり、當時本地の絲商は、上海市場に在つては延滞其他取引上、不便多きが故に、罷工解決後には、省港に本據を移すべきものであると云ふた。

同年の生絲生産額は六萬包で、前年に對して六千包を増加した。白生絲の輸出は、前年の四萬六千包が五萬四千包に上り、其價額は四千六百萬兩が五千六百萬兩に達し、屑絲の輸出は、前年の五萬八千擔が四萬二千擔に減退した。生絲の輸出高五萬四千三百包の中、二萬九千五百包を米國に、其他を歐州に仕向けたのである。

蓆マットの輸出も、前年の三百八十萬枚に對し六百五十萬枚に上つたが、廣東の生産高が増加したので

はなく、又西江諸港からの香港輸出を中止し、廣東に仕向けた爲めである。

地蓆マツチンの輸出は、罷工の爲め地方工場の生産を制限したから、前年の十七萬捆が六萬三千捆に減退した。

内地通過貿易を見るに、外國品の内地向輸送(子口單に依るもの)は、石油の積出しが殆んど杜絶し、又白糖の輸送が停止し、内地からの外國輸出向土貨の搬出は殆んどなきに反し、支那製造品(運單に依る)の出入は、前年に約倍加した。其主たるものは棉絲であつて、前年の二萬六千擔が五萬四千擔に上つた。

旅客運送も、省港・澳間の交通が糾察隊に妨止されたので、前年の百六十八萬餘人が九十三萬餘人に下つた。

常關貿易(戎克)は、廣東本關及陳村の支所を通じ、前年の五千百萬兩が三千三百萬兩に減退したが、其主なる原因は、船舶登記税の賦課及石油税の課徴であり、又同所の常關税が高率であつた爲め、香山及順徳に廻送したことである。

國別貿易高を見るに、同年各國の對廣東省の輸出貿易は、左の如く増減がある。

(單位 千兩)

英 國

六三、八四一

減 退



日本	五、六〇二	増加
米國	一、〇〇〇	同
獨逸	三、〇〇〇	同
佛國	九〇〇	同

而して日本の對廣東貿易は、著しく下の通り増加して居る。

(單位千兩)

直接貿易	一九二四年	一九二五年
間接貿易	一、九七六	七、五八八
上海經由	八、〇三〇	八、七二三
計	一〇、〇〇六	一六、三一一

反之英國の例は、下の如く減退して居る。

(單位千兩)

輸入	一九二四年	一九二五年
輸出	四一、九六八	一九、九四〇
計	八一、四九五	三九、六八一
計	一二三、四六四	五九、六二二

尙香港廣東間向英國輸出(單位千磅)として、英國政府の發表したものに、左記の如きものがある。

一月—三月 四月—六月 七月—九月 十月—十二月 計

一九二三年	五、四〇〇	五、二〇〇	七、六〇〇	七、一〇〇	二五、三〇〇
一九二四年	七、四〇〇	九、二〇〇	七、二〇〇	五、一〇〇	二八、九〇〇
一九二五年	六、五〇〇	四、六〇〇	四、五〇〇	四、一〇〇	一九、七〇〇

船舶の出港が特に時局の影響を受けることは、著大であつて、普通の規定に依るものは、前年の八千隻七百三十五萬噸が五千五百隻五百二十五萬噸に下り、就中英・葡船が激減し、前年に對して各四十二「パーセント」及五十八「パーセント」となつた。支那船は反之前年の三百十三隻二十八萬六千噸が一千隻六十三萬噸に増加して居る。

左に海南島の瓊州を除く外の、兩廣に在る各開港場の各國籍別船舶の増減を掲ぐ。

	一九二四年 (千噸)				一九二五年 (千噸)			
	英	支	其他	計	英	支	其他	計
江間・梧州・三水及南寧	一、〇九七	七六〇	四一一	二、二六八	五五	四五二	二八	五三五
北海及汕頭	一、九二〇	一〇〇	九二八	二、九四八	二八八	三六二	九二一	一、五七一
廣東	二、七八六	一三六	七〇八	三、六三一	三五二	四七二	六〇六	一、四三一
計	五、八〇三	九九七	二、〇四七	八、八四八	六九五	一、二八七	一、五五五	三、五三八

梧州

梧州は動亂・政争又は海賊の害があつた外、六月の抵制に依り著しく影響を蒙り、内外貿易は前年



の一千六百五十萬兩臺が一千三百六十萬兩臺に下り、外國貿易は、前年の一千二百四十萬兩臺が約半減して五百九十萬兩に下り、過去二十年來の最低レコードを示した。今當港の輸出入額を、香港及支那各港に分ちて對照すれば、下の如くである。

(單位千兩)

一、香港に對するもの		一九二四年	一九二五年
輸	出	四、九六八	二、四二〇
輸	入	七、五三〇	三、四九七
計		一二、四九八	五、九一八
二、支那各港に對するもの			
輸	出	一、五四三	二、二〇二
輸	入	四、五〇四	五、五四九
計		六、〇四七	七、七五一

稅收も自ら前年に比して二十七萬九千兩を減退し、三十二萬兩となり、内地通過稅は出入共に減退したが、沿岸貿易稅は増加した。

外國品の輸入は、直接輸入及沿岸開港場よりの分を合算せば、前年に比して三百六十萬兩を減退し、四百四十五萬兩臺に下つた。就中香港から直輸入した棉絲は、抵制の爲めに激減したのである。反之廣東から來た日本棉布・鱈・白糖及「バラフィンワックス」等の輸入は旺盛であつたので、同年の沿

岸通商港からの貿易は、前年の四十二萬兩に對して九十五萬兩に増加した。又再輸出は前半期南寧との航通を中止し、外貨に對する抵制の爲の、前年の二百二十七萬兩臺が九十三萬兩臺に減退した。但し多量の油類が十二月營業停止の爲め、香港に積戻した關係上、再輸出を増加したのである。土貨の香港に對する輸出は、前年に比して約半減し、過去二十年來の最低レコードを示した。木材の外、總ての貨物を通じて不況に在つたが、反對に支那諸港に對しては、一般に移出を増加し、就中南寧に對する上海棉絲の移出一百三十三萬兩に達し、廣東に對する繭の移出は五十五萬兩であつた。土貨の輸入も一般に増加し、殊に上海棉絲が多額を占めた。土産の小麥粉は外國粉を壓した。船舶の入出港は、一九二二年及一九二三年の二箇年を除けば、過去十年間に於ける最低のレコードを示した。河航船は、前年の三千三百隻九十萬噸が二千三百三隻六十萬噸に減退した。

九龍及拱北

九龍關は香港に、拱北關は澳門に在りて、恰かも大連關が日本の租借地に進出して居ると類似の關係に在る。支那政府が兩港及附近の通商地、又は非通商地の沿岸諸市間の民船貿易を取締り、相當の收入を擧げんが爲めに、共に一八八七年七月一日から開始したものである。兩地は其位置の關係から、省港の罷工中は、香港に準じて貿易上著しき影響を蒙つて居る。

九龍の外國貿易は、前年の七千二百萬兩臺が四千六百萬兩に減退して居る。



外國輸入品中、棉製品は既に上半期不況なりし處へ、六月以降全然取引を中止し、又印度棉絲は主として上海絲の競争があり、又多少日本絲の爲めに打撃を受けて減退し、香港糖は世界の産額増加し、市價低落して不利となりたる上に、抵制の爲めに著しく減退した。

民船に依る外國貨物の輸入は、前年に比して三十三「パーセント」を減退し、前年の五千百萬兩臺が三千四百萬兩に下り、只獨り棉絲類は、前年の百一十一萬兩が百四十三萬兩に上つたが、其大部分は年初に容奇に對する棉絲の輸出が占めて居る。

土貨の民船に依る輸出は、前年に比して四十二「パーセント」を減退し、千二百萬兩臺に下つた。拱北の外國貿易は、前年の二千六百萬兩が二千一百九十萬兩に減退した。各地に對する入出港貨物の歩合を示さば、下の如くである。

出港貨は	
澳門から支那へ	三五 $\frac{二}{三}$ %
香港から支那へ	四六 $\frac{三}{四}$ %
支那から支那へ	二 $\frac{二}{三}$ %
計	八四 $\frac{二}{三}$ %
入港貨は	
支那から澳門へ	一二 $\frac{二}{四}$ %
計	千九百萬兩

支那から香港へ	三 $\frac{一}{四}$ %
計	一五 $\frac{二}{三}$ %
	三百五十萬兩

## 第二節 一九二六年の貿易

### 第一總說

一九二六年の支那外國貿易(純貿易高を指す、以下同で)は、前年の十七億二千四百餘萬兩に對し、約一割五分の二億六千餘萬兩を増加し、十九億八千八百萬兩となり、内外貿易額は前年の二十三億七千萬兩に對して二十六億八千四百萬兩に達して居る。邦貨に換算せば、外國貿易額は前年の三十五億一千六百萬圓(一海關兩二圓四錢とし)に比し、却つて減退して三十一億三千餘萬圓(一海關兩一圓五十八錢とす)に下るのである。

本年は銀爲替下落し、市價騰貴した爲め、自ら輸出品の價額を高め、又輸入價額は、海關兩換算の際に増加することとなり、前記の如くに其貿易價額を激増したものである。

入超額は、前年の一億七千餘萬兩が二億五千九百萬兩臺に上り、自ら多くの主要國に對しては、何れも入超であるが、只だ新嘉坡・海峽殖民地・和蘭・露西亞・朝鮮・土國・彼斯・埃及・比島等に對しては、出超を示して居る。



(イ) 税 收

關稅收入は七千八百萬兩に達したが、主として後半季に於ける銀爲替下落の爲め、從價稅の貨物に對して金を海關兩に換算するから、其收入を増加するのである。即ち輸入稅は、前年に比して六百四十八萬餘兩を増加し、四千二百八十五萬餘兩に達し、輸出稅は、前年に比して百六十九萬餘兩を増加し、二千六百二十六萬餘兩を占めた。收入増加の例は、上海を巨臂とし、其他廣東・哈爾濱・大連・膠州・沙市・厦門・蒙目等である。反對に減收したものは、天津・秦皇島・蕪湖・漢口・九龍・九江・江門・北海等である。

(ロ) 國別貿易

同年對支貿易中増加したものは、輸出に在つては日・米・英・露・佛・白・和・獨・佛領印度支那・英領印度等にして、減退したものは香港・澳門・新嘉坡・海峽殖民地・蘭領印度等である。輸入に在つて増加したものは、日・米・伊・白・獨・英・英領印度・新嘉坡・海峽殖民地・サイヤム・佛領印度支那等にして、減退したものは、香港・澳門・蘭領印度・和等である。

香港との貿易は、罷工事件の結果一九二五年以來減退し、英國からの輸入は、前年に對して二千三百萬兩を増加したが、一九二四年に比しては減退して居る。日本との貿易は前年に比し、輸入に三千五百萬兩、輸出に二千五百萬兩を増進し、何れも最高額を示した。米國との貿易は、輸入が四千六

百萬兩で、一九二四年と大差がなく、輸出は六百九十萬兩を増進し、一九二四年に比して約五十パーセントを増加して居る。

(ハ) 重要貿易品

輸入品の大宗である外國棉貨は、棉花を除外したものが最近三年間漸次増加し、同年は前年の一億九千六百萬兩が二億五百萬兩に増加し、其他重要外國輸入品は、羊毛及棉毛交織類が二千三百萬兩から四千百萬兩に、金屬及鑛物類が四千三百萬兩から五千二百萬兩に、化學製品も千六百萬兩から二千一百萬兩に、木材が一千二百萬兩から千六百萬兩に増加したが、染料・化粧品は二千二百萬兩が二千一百萬兩に、石油其他燃料油・機械油等が七千萬兩から六千三百萬兩に減退して居る。

同年の棉貨貿易は、時に低昂があり、排英罷工や地方工業の競争に依つて、外國棉貨に反映したが、又一層同品の取引を阻害した原因は、動亂の爲めの交通杜絶、苛稅又は不作等から來る人民の艱窘購買力の減退に存した。

同年上海棉布類の公賣は、前年末七箇月半を経て始めて開始したのであるが、前年に比して稍低落して居たに拘らず、相當の市價を維持した。英・日棉布類の入津が旺盛であつた爲め、滯貨を増し、市價を低落した。北部動亂に依つて、五月中は公賣量を減退し、六月は一層不況となつたが、日本



の更紗は、割安の爲めに輸入を増加し、英の毛織縐子綾は又需要があつた。其後九月漢口地方及長江上流の動亂に依り、上海の公賣市場は同月末に閉鎖し、翌十月中旬に再開した。十一月には又更紗の需要を増加したが、取引高は何れも多くなかつたのである。最近三箇年間の重要棉製品の對照を示さば、左の通りである。

	一九二四年	一九二五年	一九二六年
生 金 巾	四三、〇〇〇	四三、九九六	四二、五五四
晒及染色金巾	九二、五一九	八六、七〇〇	九九、三五八
更 紗	一一、六二六	一五、一五四	二二、一〇八
雜 布	二、七八九	三、六四九	三、五六八
棉花及棉製品	九〇、二六〇	一一六、五六五	一三一、六二七
計	二四一、二一六	二六六、〇六六	二九九、二二七

國別に見るときは、棉布類は一九二五年から日本が英國を凌駕し、一九二六年には英の四四%に日本は五三%を占めた。外國棉絲は、前年支那棉絲が内地工場の罷工に依り、生産費を高めた爲めに輸入を増加したが、本年は不況に在つた。蓋し土產品の市價低落により、内地市場との交通に支障があり、殊に日本絲の輸入が前年の六十一萬八千擔に對して四十一萬四千擔に減退したのである。棉花は前年契約濟の印度棉花が、本年初に多量に輸入され、又本年は米棉の輸入をも増加した。

最近三年間の増減を示さば、下の如くである。

	一九二四年	一九二五年	一九二六年
米 棉	一四六	二三五	七三一
印 棉	一、〇三九	一、四六三	一、九四七
日 棉	五	八二	四四
其他 棉	二七	二六	二〇
計	一一、二一九	一、八〇七	二、七四五

砂糖は、本年南方の時局尙解決せぬ上に、重税を課せられた爲め、支那糖の取引減退したが、外國糖は好況で、年初香港精糖は、前年の最低記録一擔六・〇五兩(上海兩)より稍高く六・七〇兩臺に止り、日本糖は十圓五十錢であつたものが、八月は九圓八十錢臺に下り、年末には又十圓六十錢臺で在つた。日本糖は同年を通じて爪哇糖と競争して優勢であつたが、時局の爲めに香港糖は減退した。最近三年間の對照を示さば、左の通りである。

	一九二四年	一九二五年	一九二六年
香 港 糖	四、六三七	三、七七九	三、二七〇
日 本 糖	二、二九一	二、七四二	二、九五九



輸出品	一九二四年	一九二五年	一九二六年
爪哇糖	一、二八九	三、八一九	二、九三五
メキシコ糖	一〇三	一一六	一、一一三
及中米糖	三三五	六二六	五四九
比島糖			

本年外國貿易の輸出高は、八億六千四百萬兩で、前年に對して八千七百九十萬兩、一九二四年に對して九千二百萬兩を増加した。蓋し主として政争・動亂や苛税の結果、生産費を高め、同時に市價騰貴の爲めに輸出價額を増加せしめ、銀爲替の下落は、自ら輸出貿易を旺盛ならしめたのである。輸出品中生絲は、年初上海市場は極めて堅實で、歐米から相當需要があつたが、日本生絲との競争があつた。米國は日本の輸出生絲の約九十「パーセント」を輸入して居る。廣東の生絲市場は不況に終り、市價又低廉であつた。最近三箇年間の各種生絲の輸出數量を見れば、白經絲は累年増加したが、他は却つて減退して居る。

各種生絲	一九二四年	一九二五年	一九二六年
各種白絲	八五、一〇四	一〇六、二四〇	一一一、一四一
各種黃絲	二二、六六二	二五、五六二	二四、三九五
屠絲	二二、五七一	三四、六一四	三一、〇九六

茶は前年の八十三萬三千擔に對し、稍増加して八十三萬九千擔に上り、一九二四年に比せば、約七萬擔を増加して居る。上海市場に於ても、第三、四半期には極めて好況に在り、米・英・露・北アフリカ等からの需要があり、前年の同期に比し、紅茶一萬六千擔、綠茶三萬八千擔を増加した。但し露國に對する紅茶は、ソヴェット政府の茶の輸入に關する制限の爲め、同期間に一萬四千擔を減退したのである。

棉花に就ては、上海當業者の調査に依れば、本年は内亂又は天候の害があり、又食糧品に比して棉花の市價低落し、栽培區域を縮小したので、河南及江蘇の大倉州の外は、江蘇・浙江・山東・湖北・陝西等何れも減收し、甚だしいのは半減した。爲めに平均額に於ては、二十五「パーセント」を減退し、即ち前年の七百五十七萬擔に對して五百五十萬擔に下つた。而して本年支那棉花の輸出は、前年の八十萬擔に對して稍増加し、八十七萬八千擔に上つたが、一九二四年に比せば、二十萬擔を減退したのである。

本年支那の棉絲工業は、紛紜たる時局や交通阻隔の障礙に、加ふるに罷工風潮に依り、生産限縮を來し、就中英・日工場は、支那人のそれに比して創傷を受くること多く、又罷工の外に生産品に對する抵制の妨害があり、上海及附近に最も甚しく、其他漢口・天津等も工潮の打撃を受け、原料及製品の市價低落し、損失を招いたが、土布に對する需要は盛であつた。左に日・英・支の紡績工業の比



較を舉ぐれば、下の如くである。

支那人所有 日本人所有 英人所有 計	一九二五年		一九二六年	
	工場數	織機數	工場數	織機數
支那人所有	六九	二、〇三一、八一六	六八	二、〇三五、三一六
日本人所有	四五	一、三三二、三〇〇	四五	一、三四七、九四七
英人所有	四	二〇五、三二〇	四	二〇五、三二〇
計	一一八	三、五六九、四四〇	一一七	三、五八八、五八三

日本人經營の工場は、前年に比し鍾數一萬五千六百四十三箇、織機一千百三十三臺を増し、支那人のそれは鍾數三千五百を増し、織機は外・支人共に増減がなく、而して支那工場數の減じたのは、通州境内の建安及大新の兩工場が合併した爲である。

洋式製造機は、近來洋式工業の發達に従ひ、本年は工潮澎々として罷工や停止ロツクアウトがあり、賃銀及原料・生産費の騰貴、又は重税の加徴等にも拘らず、外國品に對する抵制や、爲替相場の不利から來る輸入品の昂騰等の機會を利用し、著々と發達した。

支那製造品の外國輸出は、貨物に依つて増減があり、例へば製粉は、原料の生産不作の爲め、前年に比して約十七萬擔を減退し、十一萬七千擔に下り、燐寸は重税と原料の輸入を制限した爲め、前年

に比して三十八萬「グロス」を減退し、「セメント」は四萬九千擔、電燈は二十五萬兩を減退し、又棉織物は雲齋布及綾木棉等が約五十「パーセント」を減退したが、其他は一般に増加した。即ち金幅シイトチング類は二十三萬九千疋、棉毛及床被は七萬六千兩、生地棉紗は十一萬四千擔を増加し、羊毛及棉毛布は倍加した。又支那製の靴下は一般に人氣を拍し、前年に比して九千打を増加し、絹製は一萬九千打十六萬兩、絹棉交織は六千九百打四萬三千兩を輸出した。雜貨の中、窓硝子は前年に對して三十七萬五千平方呎を増加し、三百三十六萬平方呎を輸出し、其仕向國は主として日本であつた。其他多量ではないが、電氣材料・藥材・香水・化粧品・石鹼・齒磨等の輸出があつた。

(二) 船舶

船舶の入出港は前年に比し、隻數は稍減退したが、噸量は増加して居る。過去二箇年とも、一、二四年に比しては抵制及軍事の影響に依り、殊に支那船は減退した。支那の各港を經由した汽船は、一九二四年に十三萬二千隻一億三千六百八十萬噸が、一九二五年に十二萬隻一億二千四百五十萬噸となり、一九二六年には前年に比し、船數は十一萬七千隻に減じたが、噸量は一億三千二百二十萬噸に増加した。帆船は隻數並に噸數共に減退した。即ち帆船は一九二四年に五萬四千隻四百六十萬噸なりしが、一九二五年には四萬七千隻三百六十萬噸となり、一九二六年には四萬一千隻二百四十萬噸に減退した。而して汽船及帆船全體に於ては、本年は前年の十六萬七千隻一億二千八百二十萬



噸に對し、十五萬八千隻一億三千四百六十萬噸に達した。

英國船は首位を占め、前年の喪失を補充したが、尙一九二四年の例には及ばぬ。即ち英國船は、一九二四年の四萬八千八百隻五千五百七十萬噸、一九二五年の三萬六千九百隻四千二百九十萬噸に對し、三萬六千四百隻四千七百六十萬噸を占めた。次位は日本船で、本年は二萬九千六百隻三千八百九十萬噸に達し、一九二四年に對して三千三百隻四百十八萬噸、一九二五年に對して二千三百隻三百八十六萬噸を増加したのである。之に反し支那船は、軍用に徵發され、現に年末に又繋船したのであるから、前年に比して五千二百隻三百四十五萬噸を減退し、四萬四千七百隻二千九百九十萬噸に下つた。米國船は、一九二四年の六百三十二萬噸、一九二五年の五百八十五萬噸に對し、六百四十九萬噸に増加した。其他は獨船及諸威船を始めとし、佛・和・伊・丁及露國船等何れも増加したのである。

## 第二 各地の貿易に對する影響

本年の支那貿易額が二億兩以上の増進を示した主因は、専ら上海貿易に存するのである。即ち上海の外國貿易は、前年の七億三千八百萬兩が九億五千八百萬兩に、内外貿易は（土貨の輸入を除く以下同じ）七億五千四百萬兩が九億七千二百萬兩に増進したのである。但し之を邦貨に換算せば、前年の十五億五百萬圓（一兩を二圓五錢とし）に對し、十五億一千三百萬圓（一兩を一圓五十八錢と

し）となり、大差がないのである。上海を含む中支蘇・抗・寧波・温州の五港に於ては、外國貿易は前年の七億四千萬兩が九億六千九百萬兩に、内外貿易は八億五千二百萬兩が十億八千三百萬兩に増加し、大連を含む滿洲の愛琿等七港に於ては、外國貿易は前年の三億六千四百萬兩が四億四千三百萬兩に、内外貿易は四億九千八百萬兩が五億九千二百萬兩に増加したが、其他北支・長江沿岸・南支等は、何れも大差なく、即ち北支は、外國貿易は二億三千三百萬兩が二億三千五百萬兩に、内外貿易は四億七千二百二十萬兩が四億七千二百八十萬兩に上り、長江沿岸諸港は、外國貿易は一億八十萬兩が一億七百六十萬兩に減退し、内外貿易は六億五千七百八十萬兩が六億五千九百九十萬兩に上り、南支及西江諸港は、外國貿易は二億五千四百萬兩が二億一千八百萬兩に下り、内外貿易は四億五千九百萬兩が四億九千二百萬兩に増進し、南境諸港は、外國貿易は三千六百七十萬兩が三千四百八十萬兩に、内外貿易は三千七百萬兩が三千五百萬兩に減退した。

### (イ) 滿洲及北支諸港

滿洲の諸港は、牛莊及愛琿の内外貿易を除くの外は、何れも増加して居る。

### 大連

大連の貿易は逐年増進し、外國貿易は前年に比し、約五千萬兩を増加して二億五千六百萬兩に上り、内外貿易は前年に比し、約六千萬兩を増加して三億三千二百萬兩に達した。



外國品の輸入は一億一千八十八萬兩に達し、外國より直接輸入の分は一億二百萬兩を占め、其他の九百八十萬兩は、沿岸諸港よりの輸入である。直接貿易を國別に見るときは、日本は六〇、五「パーセント」、米は一四、七「パーセント」、獨は五、一「パーセント」、英は四、五「パーセント」、香港其他は一五、二「パーセント」となり、外國品中、棉花は前年の百五十萬兩が二百八十萬兩に上り、棉製品は前年に比し、百六十萬兩を増加して總額一千三百五十萬兩に達した。但し棉製品中には、奉天票及銀貨下落の爲め、輸入の減退したものもあつた。

ガンニー袋は、一箇年を通じて輸入旺盛を極め、前年に比して十九萬擔を増加し、四十五萬擔を占めた。

輸出は減退したが、豆粕及豆油等が増加したので、之を補充したのである。

船舶の入出港は、前年に比して三百三十隻六十九萬八千噸を増加し、六千七百隻一千百五萬噸に達したが、支那船は軍用に徵發された爲めに減退した。而して英船は廣東事件に依り、南支方面の船舶を當地に轉送した爲め、前年の三百三十一隻九十二萬噸が四百六十一隻百十二萬噸に増加したが、之れは注目すべき事實である。殊に日本船の活躍は見るべきものがあり、日清汽船會社は、上海・天津・大連航路を開き、大阪商船會社は、主として青果物輸送の爲め、臺灣・大連航路を新設し、島谷汽船會社は、朝鮮經由の北海道・大連航路を開設し、又鐵道に於ても航運業に譲らず發達し、例へば

資本金四百萬圓を以て設立した金福鐵路公司は、大連の外方金州及關東租借地境界内の城子疇間六十哩を連結する線路を布設し、六月二十三日に第一線を完成した。次に同港の歴史上興味ある事件は、年末に支那苦力が多數北支那に轉移したことで、是等苦力の大部は、軍事の徵發や農業不作の結果、山東からの出稼に係り、多くは家族を携帶し、開墾及鐵道作業に好條件を以て雇はれたものである。

## 天津

天津の外國貿易は、前年の一億四千七百萬兩が一億四千五百萬兩に、内外貿易は二億八千七百萬兩が二億七千七百萬兩に減退したが、共に大差のないのは、五卅事件後の罷工及抵制は、當地には南方と反對に好結果を來したが爲めである。但し當地の動亂は、春季の外國棉製品市場を攪亂し、數軒の支那大商人は閉店し、支那棉布の取引は極めて不況であつた。其他人造絹絲・毛製品の如きも、多くは反響を蒙り、又夏秋兩季には、北部戦争が繼續し、鐵道運輸は硬阻し、内地に對する貨物の荷動が出來ぬ爲め、輸入品の堆貨は多額に達し、秋季には米國の生地金巾及シーチングが増加したが、冬期は尙長江其他の戦争に依り、貿易は澁滞した。一方年末に及び、英國製棉布類の輸入が復活し、日本品を壓倒したことは、又注意すべき現象である。而して當地に於いて、支那製棉布が外國棉布の安物を驅逐した數年來の傾向も、本年著しきものなかつたのは、軍事稅の増徴に依つて



地方工業を阻害した爲めである。現に金巾・シーチング等の粗品は、多く日本から供給し、精工品の更紗・棉繻子・綾子綾・フランネル・ポプリン・天鵝絨等は、土貨の競争がなく、輸入は却つて増加した。

船舶は稍減退して三千七百四十四隻四百八十二萬五千七百七十五噸となり、國別に見るときは、日本船は一九二四年以來首位を占めたが、前年に比して九十六隻三萬八千四百四十三噸を減退し、次に在る英國船は、却つて前年に比して九十七隻三萬七千三百十七噸を増加した。最近三箇間の英・日・米・支四箇國船舶の出入港數、並に所載貨物の歩合を對照せば、下の如くである。

	一九二四年		一九二五年		一九二六年	
	所載貨物價值	船舶噸數	所載貨物價值	船舶噸數	所載貨物價值	船舶噸數
英	四二%	三一%	三〇%	二六%	三二%	二七%
日	三三%	三二%	四一%	三七%	四五%	三九%
米	三%	八%	五%	八%	五%	七%
支	一六%	一九%	二〇%	一九%	一三%	一四%

青 島

青島は、外國貿易は前年の六千七百萬兩が七千二百萬兩に、内外貿易は一億二千六百萬兩が一億三千五百萬兩に増加した。春期は北部戦争に依つて、鐵道の輸送が阻碍され、前年一月からは軍事

税(勞兵費)として十五噸貨車一臺に付、普通鐵道運賃の六分乃至八割に該當する鐵道貨捐を課せらるゝ外に、前年一月から三十元乃至百元を加徴した。本年一月には百元であつたが、七月一日には七十五元とし、十月一日からは五十元に低下した。而して本年の同収入は二百萬元以上に達したが、更らに貨車の供給に際し、車輛の經理人「ブローカー」に支拂ふ費用は、百元乃至百五十元を要し、其他運賃に對して一割の河工捐があり、省政府は烟酒税として烟葉一擔に付き九角五分、酒及酒精等には一割五分を徴し、又山東省貨物税として二分を徴税した。

夏期には戦争が終熄し、鐵道は漸次平常に復したが、不作の結果、秋期には前述の通り滿州に於て、生活の安定を求むる爲め、大連に對して山東苦力の大移動が行はれた。

冬期は依然不當課税があつたにも拘らず、貿易は相當好況であつた。外國品の輸入は、前年に比して三百五十萬兩を増加し、四千六百三十六萬兩に達し、生地棉布の輸入は、甚しき變化がなかつたが、棉絲は左記の如くに支那製品が増加し、外國品の地位に代りつゝあることを知ることが出来る。

	一九二四年	一九二五年	一九二六年
外國品輸入	—	四一、一七六	一一、〇八六
支那品輸入	—	三〇、一〇八	一四、二三八
計	—	七一、二八四	二六、三二七



第三章 最近の貿易事情

地方製品輸出	四八、一一一	一一三、一七五	一一七、七九五
純輸入額	三九、九四六		
純輸出額		四一、八九一	九一、四六八

殊に日本品は、棉絲の外競争の爲め、燐寸や土産の煙草も輸入を減退した。落花生及同製品も概して不況であり、皮付は前年と約同量で三十六萬二千擔である。仁は二十萬擔を減じて二百三十三萬擔に下り、油は前年に比して十一萬五千擔を増加し、五十八萬擔に達した。生牛肉は爲替の有利な爲め、日本に多量に輸出し、棉絲は地方消費の爲めに輸出を減退し、山東炭は交通杜絶及上海の貯炭過量の爲めに著しく減退し、現に年初には日本撫順炭及開平炭を多量に輸入し、地方に供給したのである。

同港は前記の如く、支那の管理に移つた後は、鐵道の支障や軍事税の強徴等、貿易を阻害したものがあつたが、近年は従前に比し、鐵道貨物の輸出も漸次増加した。今獨・日及支那の管理時代に分ち、平均貨客數を對照すれば、下の通りである。

年次	獨逸時代	日本時代	支那時代
一九〇五年—一九二二年	五七五、〇〇〇	八四四、〇〇〇	
一九一三年—一九二二年		一、四四四、〇〇〇	二、三四一、〇〇〇
一九二三年—一九二六年			二、三四一、〇〇〇
本年は貨物百七十萬噸、客數三百四十萬人に達した。			三、七六七、〇〇〇

(ロ) 長江沿岸諸港

長江沿岸の十一港總體に於ては、本年の内外貿易は前年より多少増加したが、外國貿易は稍減退した。

重慶

重慶は、内外貿易は前年の六千五百萬兩に對して七千三百萬兩に増加したが、外國貿易は稍減退して百二十二萬兩が百十六萬兩に下つて居る。但し稅收は九萬五千兩を増加した。重慶及同地方は、戰爭地帯から離れて居つたが、時々戰雲迫つて市場不安の念に滿され、且つ萬縣事件後には、學生運動及排英宣傳があり、戰爭以上に通商を阻害し、尙本年後半季には船舶の軍事徵發があり、著しく交通を妨げた。現に冬期には、重慶の總ての外國船は、當該國領事の命令に依り、交戰者何れの手にも之が引渡を防ぐ爲め、同港内に繋船して居た。

要するに斯る事情の下にも輸入は、當初九箇月間は好況であり、輸出は上半期には相當見るべきものがあつた。

萬縣

萬縣の貿易は、黨争に依る船舶押收、其他内亂のために影響を受けること多く、苦力は夫れを避くる爲めに自ら雇入れ困難となり、通商は一時全然停止した。而して萬縣事件後の九月後には一層

第三章 最近の貿易事情



甚しく、外國汽船も軍兵の爲めの不當徴發を虞れ、航行を中止し、貨物は重慶及宜昌に堆積し、萬縣からの貨物運送は、船腹の殆んどなき爲め、運賃は暴騰した。年初上海に注文した貨物も荷捌困難で、輸入は極めて少く、輸出も又同様であつた。縦つて同港の外國貿易は、前年の二十七萬兩が三十九萬兩に増加したが、内外貿易は前年の一千八百萬兩が一千四百萬兩臺に減退した。

## 長 沙

長沙は、外國貿易は前年の百十八萬兩が百三十九萬兩に、内外貿易は三千二百八十萬兩が三千八百萬兩に増加した。年初には排英貨及學生・工人運動が同港の貿易に影響を及し、輸入は不振であつたが、輸出は好況であつて、アンチモニー礦及鉛礦等は増加した。只マンガン礦は約一萬九千擔を減退し、石炭も不況であり、工潮に依り萍鄉炭山は閉鎖し、夏期に入つても取引は恢復せず、戰雲は迫り、降雨の害もあり、不安状態を繼續した。然かし秋期には、北軍の退去と共に南軍入境し、軍事税重課があり、且つ水災・匪患の害や、船舶の軍用徴發があつたにも拘らず、殊に輸入は好況で、支那産の生金巾・シーチング・棉絲及煙草等は、前年に比して増加し、秋期には紅茶の漢口仕向を見た。年終同港の情形は極めて騷擾を呈し、共產主義は廣汎に宣傳され、排英貨は從來に比して一層激烈を極めた。土貨中棉布類及煙草は、此機會を利用して市場を獲得したが、一方抵制があつても尙英國製の生金巾及シーチング・毛縐子類・精糖及藍は、相當の取引があつた。年末にアンチモニー

礦及鉛礦の輸出は減退したが、茶油・桐油又は紅茶に依つて、之を補足する所があつた。

## 漢

漢口の貿易は時局の爲めに不況で、外國貿易は前年の八千四百萬兩が七千七百九十萬兩に下り、内外貿易は二億八千八百七十六萬兩が二億八千五百萬兩に減退した。年初の貿易情況は、北部の戰爭に依り内外貨物の輸送に支障を來した外は、平穩であつたが、第二四半期中頃から三十年來信用を博した湖北省政府の紙幣(湖北官錢局官票)が下落した爲め、商業に大影響があり、殊に小賣商の損害が少くなかつた。三月中には鐵道恢復し、河南から急に輸出貨物の仕出を増加した。夏期には貨車少く、之れが供給は著しく高價であつたにも拘らず、取引は相當の額に上つた。秋期には大洪水があり、收穫を害した。南北交戦は、當港を去る遠隔の地に行はれるときには、敢て貿易に反映を見なかつたが、九月六日に南軍の漢口占領となり、武昌を包圍するに及び、或る期間内は各種の營業を阻害した。支那民船及解船は、軍用に徴發せらるゝを恐れ、悉く潜匿して隻影なく、貨物の荷役は殆んど不可能となり、招商局や三北汽船公司の支那碼頭は、九月四日から年末迄閑散となつた。九月末に貿易は恢復に向つたが、尙取引は行はれなかつた。又冬期は全然衰敗に陥つたのである。内亂の延長と共に、一層貿易を妨害したものは、新設簇生の工會であり、又重税の課徴及激烈なる排英宣傳等である。一年を通じて棉花市場は不況で、假令第一四半期には、土貨と能く競争した外國



棉布類の輸入が旺盛であつたが、取引は多くなかつた。而して夏期に支那製の生金巾やシーチング、雲齋布・綾木棉及棉絲の取引が一層好況を呈したのは、缺損貨物を添補した爲めである。一箇年の大部に互る、武昌の造幣廠又は漢陽鐵廠の閉鎖に依り、銅塊及石炭・骸炭は著しく減退した。磚茶に對する露國の需要は、茶末の輸入を著しく増加し、獨り第二四半期のみの比較に於て、前年の五百四十五擔から一萬一千九十八擔に増進して居る。其後政局の紛紜漸次著しく、年末には一層輸入を減退した。但し豆及煙草の包装用として、其需要を喚起したガンニー袋（内外國）の輸出増加は、例外で、即ち罷工其他の工潮に依る地方生産額の不足を補充した輸出は、當初交通の困難にも拘らず、豚毛・頭髮・腸詰・山羊皮等の取引は活況を呈し、桐油市場は、米國に於て市價の不利な爲めに不活潑であつたが、夏期には歐米からの注文が増加した爲めに好況となり、秋季に及んだ。但し冬期は政争の不安から、又疲弊した。茶市場は六月四日に開始したが、新收穫は數量多きも品質が不良であり、市價が騰貴した爲め、取引はなかつた。秋期には露國に對し、磚茶及毛茶を多く輸出したが、紅茶及綠茶は市價の割高な爲めに減退した。

尙本年の貿易上の真相は、稅收を見れば明かである。即ち上半季は前年の同期に比して三十五萬兩を増加したが、後半季は、前年の同期に比して二十二萬二千兩を減退し、同年の収入は五百十七萬兩を占めた。

重要貿易品に就て、日・英及支那品の最近三箇年間の情況を見るに、粗棉布は英品が著しく減退し、支那品が激増したことは、左表の如くである。

生シーチング		一九二四年	一九二五年	一九二六年
英	三、六三四	五〇八	一、三五〇	
日	一、八八〇	六六〇		
米	八	四〇	六〇	
支	四九、三七〇	六二、九二〇	六八、〇八九	
生金巾				
英	九二、三二二	四五、五八二	三〇、九〇八	
日	三一、四八〇	二九七、九三〇	一〇九、〇四二	
米	九三、八四九	四〇	三、八六〇	
支	一七、六四〇	四八、七八〇	一〇四、八八三	
晒金巾				
英	四〇四、七〇二	二八四、九三一	二九〇、八〇〇	
日	一八九、〇五二	二五〇、二六一	一九四、三八二	
支	六、五八一	五、九四〇		

生雲齋は殆んど全部支那品で、一九二四年の四萬二千疋が、一九二五年には四萬八千疋に上り、一九二六年には二萬二千疋に下つた。英國品は、前記三箇年を通じて絶無であり、日本品は、一九



二五年に僅かに三千八十疋のみであつた。凌本綿(生地)は日本品を主とし、一九二四年の八萬疋が一九二五年には九萬三千疋に上り、一九二六年には六萬七千疋に下つた。英國品は、一九二四年の六千四百疋が一九二五年に千六百疋に下り、一九二六年には漸く四千二百疋となつた。支那品は、一九二四年の九千四百疋が一九二五年には四萬九千疋に激増したが、一九二六年には又四千疋に下つたのである。

棉絲の輸入は左表の如く、支那品を最多とし、日本絲之れに次ぎ、英絲及印度絲は不況である。

	一九二四年	一九二五年	一九二六年
土 絲	三四二、七六七	七一、四一二	二〇七、八五五
日 本 絲	四一、二五二	四四、四七〇	二三、二四四
英 絲	—	一七二	一八
印 度 絲	一五〇	六三〇	—

漢口の紡績總數は二十八萬五千鍾で、一箇月の生産高は、這次戦前には約一萬八千袋であつたが、戦後には八千袋に下つた。他地方と同様で、日本棉製品は、歐洲戦争前迄で大番(十六手から二十手迄)の棉絲及綾木棉・金巾・粗布であつたが、現在の日本人工場は細絲を製し、生地上物を作り、英國品を駆逐しつゝある。最近は動亂及地方農民の疲弊せる外、工潮に依り操短又は休業せる爲め、著しく生産量を減退し、一箇年の棉絲生産高は、平年の一萬三千五百俵位が六千俵臺に過ぎぬのである。

る。

砂糖の輸入は、支那糖は殆んど稀れで、外國糖は香港糖及日本糖とし、外に上海から輸入するものが相當にある。三箇年の比較は下の如くである。

	一九二四年	一九二五年	一九二六年
日 本	二二九	四七八	三二六
香 港	九三八	八八四	七五六
上 海	二四〇	三三七	一六八
其他外國諸港	二一	—	一六
支 那 諸 港	—	—	—
計	一、四一八	—	一、二六八

石炭の輸入は、日本炭・撫順炭を主とし、下の如くである。

	一九二四年	一九二五年	一九二六年
日 本 炭	七六	三一八	一一一
撫 順 炭	四一	三二一	一八二
開 平 炭	—	九一	二四
地 炭	—	一四二	二一
計	一二八	八七五	三五〇



棉花の輸出は、最近數年の例に見るに、一九二五年度の外は、累年増加して居る。最近三箇年の對照は下の如くである。

仕向地	一九二三年十月より 一九二四年九月まで	一九二四年十月より 一九二五年九月まで	一九二五年十月より 一九二六年九月まで
上海	一、一四八、三七九	一、〇五一、四三九	一、七〇六、九一八
其他の支那	五五、一四二	二七、五三二	七四、三九九
英	一四四	六、五九五	—
米	二、六二一	一〇、一六一	八、二五九
日本	一七二、九三五	一九四、三九六	八一、〇六六
其他	八、七五一	四、〇一九	二、五六五
計	一、三八七、〇三二	一、二九四、四三八	一、八七四、〇一六

棉花は近年動亂其他時局の爲め、外人の奥地買出に係るもの漸次少くなり、最近は鄭州地方の外、只沙市に日本人の買出商があるのみとなつた。

國別貿易に於ては、從來英・米・日の角逐場であつて、前年は時局の爲め、日本は首位となり、米國は次位で、英國は三位に下つたが、本年は英國が首位に恢復し、日本は次位となつた。今外國品の輸入總額(再輸入を含む)及支那品の輸出額(再輸出を含む)を合算したものに就て、歩合を見るときは、總額一億八百四十九萬餘兩中、英國(香港等を含む)は一千九百六十四萬兩(前年に比して百九十一萬兩増加)で一八・二「パーセント」、日本は一千八百七十九萬九千餘兩で一七・四「パーセント」、米國は

千七百六十五萬七千兩で一六・三「パーセント」を占めて居る。

船舶の入出港は、前年に比して船隻は六「パーセント」、噸數は二「パーセント」を減退し、一萬三千百五十九隻七百八十八萬六千噸である。上半期には好況であつたが、下半期は動亂の爲めに停頓を來した。各國船中、英船は四千三百七十七隻で三百五十九萬噸に上り、首位を占め、日本船は二千五百九十隻百九十六萬九千噸で、二位に在り、支那船は五千五百四十九隻、百六十萬噸で、三位に在り、米國船は僅かに五百三十隻二十三萬五千噸に過ぎぬ。而して内水航汽船規則に依るものは、前年に比して隻數に於て三十「パーセント」以上、數量に於て二十「パーセント」を減退し、九千九百二十七隻四十六萬噸となり、支那船は其大部を占め、英・米船も多少あれども、日本船は皆無である。

(ハ) 中支及南支諸港

上海

本年の上海貿易は、従前の最高記録であつた。一九二〇年の増加に比して倍加以上であり、各項共増進を示したのである。輸入は前年に比して一億六千四百萬兩を増加し、五億九千六百五十萬兩に達し、一・二の重需品に減退を見た外は皆増進し、穀類・棉花及毛織物が其半數を占め、米・麥が最も増進を來した。又棉花の輸入も好況に在つた。但し支那棉花は當地工場の原料としては、一部を充たすに過ぎなす。



輸入貨物の増加したのは、多く年初數箇月の情形が良好であつた爲めであるが、又商人の附加税を見越し、市場の如何を顧みず多額に輸入せると、秋期に入り、爲替の跌落に對する投機の結果である。

輸出は、前年に比して八千七百萬兩を増加したが、其三分の二は、内地各港に對して仕向けたものである。前年の工潮及産額減退の結果、棉絲貿易が好況であつた外、卷煙草及麥粉の他港に對する輸出を増加した。外國に對する輸出品中、獨り生絲は好況に在つたが、其他は運輸硬化と課税繁苛の爲め、商況不利となり、又他國との競争が激烈を極めた爲め、營業困難となつたが、九月頃からの爲替低落と、土貨の市價騰貴とから、損失を抵補する事が出來た。蓋し土貨の輸入及再輸入が増加したのは、大半は廣東生絲の貿易に存した。即ち十月中旬以前に於ける南支各省の香港に對する經濟絶交運動の風潮は、尙終熄せぬので、商人は香港經由で生絲を外國に輸出することが出來ず、多くは前年同様上海に搬出したのである。

本年は機械製品の輸出が、前年に比して著しく増加し、就中棉絲を大宗とする。當地の紡績・製粉及生絲は有利な事業で、紡績及製粉は國內に於いて消費なし、生絲は外國の輸向に供するのであるが、工潮の熾盛な爲めに打撃を受け、又北方戦争の時々發生する爲め、運輸が杜塞したり、長江上流方面も不穩の形勢があり、南方の抵制風潮等、何れも貿易に影響したのである。

本年の稅收は、飢饉救濟附加税を除外し、尙前年に比して六百六十八萬兩を増加し、従前の最高年度である一九二四年に對しても、亦五百十五萬兩を増加して三千二百七十萬兩に達し、全國の總收入に對し、一九二〇年頃の三十七、六%よりも増加して四十九、九%を占めた。

外國品中、棉製品は前年に比して一千三百五十六萬兩を増加したが、一九二四年に比して百八十萬兩を減退した。英國製晒金巾は、六十五萬七千兩を増加したが、一千三百一十一萬五千兩に過ぎぬから、二箇年前の一千九百五萬九千兩に比せば、尙大差がある。其他増加の著しいものは、白色・染色布及更紗であつて、三百五十萬兩以上に達した。各國別に同品の増減を見るに、省港經濟絶交、又は湖南地方の排英抵制等の爲め、英國品の取引は漸次減退し、日本品の増進したことは、左表に依つて知ることが出来る。

	一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年
英 國	六一、四五%	五九、一五%	四八、〇〇%	四四、三四%
日 本	三六、三七%	三八、五七%	四九、一一%	五二、八七%
其他諸國	二、一八%	二、二八%	二、八九%	二、七九%

日本の製造家及商人が、對支貿易上の競争に勝ち得る特別の利益と云へば、勞銀の安價であること及支那に接近し支那人民の慣習に熟悉して居ること等である。又日本には工潮も稍々少く、固より彼の競争國の如く、罷工の害を受くことが少ない、其他原料棉花の價格の低廉であつたことも



有利であつた。而して日本の製造家は、出品に對して彈精竭力能く得意の心理に通ずることに苦心し、既成品に就ては時々改良を加へ、又更らに新式の製織法を發明し、低廉の價格を以て市場に供給し、日本棉布は公賣に附せぬと同時に、仲買人等の手を借りず、直接顧客に販賣するを例とする。日本棉布中、増加の著しいものは更紗であり、前年に約倍加して九百七十三萬八千兩に達し、各國の更紗に比し、前年の六割二分が八割を占めて居る。

毛及毛織物は、前年に比して約倍加し、就中毛絲は最も多く、前年の四百二十五萬五千兩が七百三萬二千兩に達した。又縐子綾や「サージ」も相當増加した。是等輸入品の大部は英國品で、前年の一千二百五十九萬兩が二千二百三十三萬五千兩に増加し、獨・佛の同品も亦増加した。各國別の歩合は、左の通りである。

	一九二五年	一九二六年
英	七三、三%	六七、四%
獨	一一、三%	一五、四%
佛	九、二%	一〇、七%
其他諸國	六、二%	六、五%

人造絹絲の取引は、一九二五年から著しく増加し、本年は前年の二萬五千擔から三萬九千擔に増進した。但し同品製造の新式工場が上海其他に設置され、既設舊工場も織機を増設したのである。

棉花の輸入は、前年に於て既に上海有史以來の最高記録を示したが、本年は前年末大量に印度棉花の注文を發したものが、本年二月に陸續上海に入津した爲め、更らに増進したのである。又米棉も前年以來豊作の爲め、市價下落し、多量に輸入した。従つて本年の輸入棉花は、前年に比して八十萬兩を増加した。反之棉絲の輸入は、著しく不況であつて、前年に比して四萬三千擔二百十萬兩を減退したのは、日本からの輸出額が少なかつた爲めである。

金屬類は、供給の中心地である香港に對する抵制以來、南部商人は上海に向つて仕入れをした故に、多數貨物の輸出があり、日本船又は支那船に依つて廣東に轉送した。之が爲め、多少北部地方との貿易の不振を補償し得た。本年の五金及礦産の總輸入高は、一九二四年に比せば減退したが、前年に對しては六百九十萬兩を増加した。而して亞鉛引鐵板は、左記の如く英品の減退に對して日本品は激増した。

	一九二五年	一九二六年
英 國	九九、八一四	八四、九一九
米 國	三八、六二九	四一、〇八〇
日 本	三、四三一	四三、五一三
其他諸國	三、一四五	二、六一六
計	一四五、〇一九	一七一、二二八



石油の貿易は、煙草を除く他の商品よりも、時局混亂の影響を受くること最も著しいものである。即ち動亂・交通の障碍・幣制の紊亂・水災・旱荒・不當課税等が不利の原因であり、大會社の營業も前年に及ばなかつたが、海關統計上前年に比して四十三「パーセント」を増加したのは、前年末在荷拂底と同時に、米國太平洋沿海各地の産額増加に依り、各社の輸入が多量に上つた爲めである。本年の各種石油の輸入總額は、二千二百二十二萬六千「ガロン」を増加し、就中米國油が千五百萬「ガロン」を増加したのである。

砂糖は、概して市場が好況であつた。投機賣買が相當額に上り、秋季結算時には、損失を蒙るものもあり、市場停頓すること半月の久しきに亙つたが、年内に市價昂漲し、香港糖は一月六兩五分のものが十月下旬には九兩一錢五分に上り、日本糖は本國の市價平穩であつたが、日本金票が騰貴したため、支那銀兩と交換の價値は著しく上つた。本年又爪哇糖が割高であつたから、商人はキューバ糖の買付をなすもの多く、本年の總輸入は、前年(各島産糖)の百萬擔以上が僅か十一萬六千擔臺に減退したに對し百八萬擔に増加した。又同年日本からの輸入は、赤糖は少量であつたが、白糖及精糖は二十五萬擔を増加した。蓋し五年前に倍加して居るのは、支那人の生活の昂上を物語るもので、最早贅品として取扱ふものではなからう。

煙草は、又石油と同じく著しく時局の影響を受けたものである。抵制の餘波は、本年初に止つた

が、他種の諸事情、例へば課税の繁苛・軍隊の運輸妨害・盜匪充斥の弊等踵いで起り、本品の貿易を不況たらしめたのである。本年の煙草の總輸入は、前年に比しては八百三十七萬兩を増加したが、一九二四年に對せば尙六百萬兩を減退した。其主因は、卷煙草の輸入が少かつた爲めである。又葉煙草の輸入も六十萬九千擔で、一九二四年に比せば四千六百擔を減退した。但し支那に於ける卷煙草の製造は、逐事發展し來り、外國品の次第に驅逐されたことは、明かな事實であると同時に、外國産葉煙草の輸入は、漸次増加し、恐らく支那は、他日本品に對する世界的有力な需要者となるべきである。

支那品の輸出中、生絲は前年の後半期に起つた特殊事情が、本年も繼續し、廣東生絲は上海に仕向けられ、上海の輸出を増加せしめた。其海外輸出額は、前年の一億五百萬兩、一九二四年の五千三百萬兩に對して一億二千百萬兩に増進した。其中六十二「パーセント」の七千五百萬兩は再輸出額で、半數以上は廣東から入津したものである。而して抵制及省港間の經濟絶交は、正式には十月に終熄し、商人は廣東に復歸し、年終二箇月間には、極めて少量の廣東生絲が上海に輸出されたのである。

棉花は生産地の動亂の爲め、生産額を精數に計算することは出來ぬが、専門家の說に従へば、本年の植付は、前年に比して約十五「パーセント」を減退し、收穫は、前年の七百五十七萬七千擔が五



百五十萬擔に下つた。不作の上に市價低落したので、農民の重量増加・其他不正手段が行はれた。棉花検査處の報告に依れば、同處試験の成績で、標準に合格した歩合は、一九二二年の四十「パーセント」、一九二三年の三十一「パーセント」、一九二四年の十七「パーセント」、一九二五年の二十七「パーセント」に對し、本年は十「パーセント」に過ぎぬ。支那産棉花の外國輸出は、前年の三十萬七千擔が二十六萬一千擔に減退した。

棉絲の生産は増加し、其原料棉花の消費量は、亦多額に上り、上海に紡績工場開設以來の最高記録を示し、生地棉絲の輸出は、(再輸出共)六十三萬二千擔四千五十萬兩を増加した。仕向地は、支那の各通商地に對したのであるが、香港に對する輸出も増加し、前年の四萬六千擔に對し、十五萬六千擔を占めたのは、前年總罷業の爲め、生産額を減じた反動であると共に、又原料棉花の低落した爲めである。外支工場の作業を澁滞した工潮がなかつたならば、一層活況を見るべきであつた。支那棉布類の輸出は、又多額に上り、シーチング(粗布)の輸出(再輸出共)は、前年の二千三百六十六萬五千兩が二千八百六十六萬一千兩に増加し、外國向輸出棉布の總額は、前年に比して百八十五萬兩を増加した。近東各處に輸出したものは、半數以上を占めた。

上海の製粉は、外國小麥の騰貴及内國産原料の供給難があつたにも拘らず、當地工場の作業は旺盛であつて、輸出は七十四萬九千擔を増加した。外國仕向は不況であつたが、他の支那開港場より

の需要激増し、其移出は百萬擔以上に達し、天津の如きは最も良好の市場であつた。殊に支那各地は米價高の結果、多數國民は麪粉を食するに至り、又秋季爲替下落に依り、外國粉が支那市場では割高となつた爲めである。

尤も年初には、當地工場は外國品の競争を受け、外國粉の輸入は前年の七萬一千擔が三十七萬擔に激増し、加奈陀粉が五十八「パーセント」、米國粉が四十「パーセント」を占めた如く、支那人の需要者は、麥粉の市價が相當程度に上らぬときは、外國品を進んで食用に供するのである。近年支那小麥には偽物を挽入する弊風があるに依つて、棉花検査處の例に倣ひ、小麥検査處を新設し、二割以上の雜物を混入せば、不合格とすることにしたのは、機宜の處置である。輸入支那産品中、石炭は前年と大差がなく、日本炭の輸入は支那炭に比して多く、一九二三年頃開平炭の入津は、殆んど輸入炭の半部を占めたが、本年は二十「パーセント」に過ぎぬ。而して本年は歲首に當り、日本炭の投機的買付が盛に行れた。支那棉花の輸入は、内外品共旺盛を極め、前年の百六十二萬二千擔が二百八萬一千擔に達し、純増加額は二十一萬六千擔を占め、再輸出が又相當額に上つた。是等輸入の大部は、漢口からの分で、前年の七十九「パーセント」に對して九十四「パーセント」を占めたが、天津仕出のものは極めて少い。本年も再び工潮があつたが、各工場の生産額は著しく増加したのである。今支那貿易額の四割餘を占むる上海貿易を國別に見て對照せば、下の通りである。



	一九二五年	一九二六年
英 本 國	九九、二六	一二三、四五
香 港	三九、二二	二一八、〇六
其他英屬領	七九、五八	二九、五%
米 國	一七六、五六	二二八、六七
比 島	六、四七	八、二四
日(臺灣を含む)	一五〇、八九	二〇、四%
佛 國	六八、四四	一七四、五三
佛 印	三、八九	七六、三八
和 蘭	一〇、八六	二五、五六
和 印	三二、七二	一〇、八三
獨 逸	二六、五三	二五、三八
白 耳 義	七、一九	三六、〇七
伊 太 利	一〇、一一	一一、一一
瑞 西	二、〇七	一二、四八
其 他	二三、八八	三、一〇
計	七三八、〇七	三九、四一
		九五八、四六

對上海貿易は、從來英國を首位とし、日本は遙かに下位にあつた。歐洲戦争後の一九一九年には、英國の三七・三「パーセント」に對し、日本は二二・四「パーセント」となり、翌一九二〇年には英國は

四四「パーセント」に上り、日本は一七・七「パーセント」に下り、一九二五年には排英抵制の結果、英國は二九・五「パーセント」に下り、日本は二〇・四「パーセント」に上つたが、又本年は英國は稍恢復して三二・一「パーセント」に上り、日本は一八・二「パーセント」に下り、遙かに英國に及ばぬ。米國は近年二四・五「パーセント」臺に在つて、著しい變化がない。

船舶は前年に比し、統計上は入出港隻數及噸數共に増進して居り、前年に受けた工潮は終熄したが、全國に互り尙擾々として政局は不安裡にあるから、前年に比して一層航業を阻礙し、天津・漢口の兩貿易の中心地は、戦争の爲めに時々部分的に市場を閉鎖したに對し、南部諸省は、年初既に六箇月間繼續した特殊地位から完全に尙恢復出来ぬばかりでなく、内地との交通は、一年以來依然停頓情態に在るから、大宗貨物は海港に搬出することも出来ぬので、船舶は滿船に達することがない。航業上妨礙を受けたもの、中で、特筆すべき事は、海賊の害であつたが、殊に本年は甚しく、上海附近で時々民船及小蒸汽船の被害があつた外に、定期汽船の劫掠は五隻に上つた。

○本年の入出港船舶は、前年に比して三百三萬噸を増加し、三千三百三十二萬噸に達し、一九二四年に比して尙百噸を増進した。本年の現情に於て、上海は世界六・七位の最大港の二に在り。就中英國汽船の如きも、最高百六十五萬噸を増加したが、尙前年の缺を補ふことが出来ぬのは、主として沿海航業の減縮した爲めである。



本年の支那船は、前年に比して著しく減退し、沿海船十七萬二千噸を減じ、長江船は四十萬六千噸を激減した。蓋し九月初旬の長江流域の内亂に依り、支那船の軍事に徴用されたもの甚だ多く、各船は九江迄で停航した。其後全然出航を中止し、招商局汽船は三十一隻中、軍用に徴發されたものは十三隻に上り、長江筋にては七隻を算した。之れが爲め、同局も十二月五日に全然航運を停止した。

一方日本の航業は益々發達し、京滬大震災後、數箇月間の形勢稍不振なりしを除きなば、逐年發達し、一九二〇年は六百十五萬噸なりしものが、本年は俄然九百三十八萬噸に上つた。但し支那沿海及長江航路の船舶噸數は、一九二二年と比するに、其差の三十萬噸に過ぎぬ事實は、日本の對支貿易が自國船に依つて逐年申暢すると同時に、又他國と相當競争のあることの有力な證左である。茲に外國貿易汽船の各國別、前後三箇年間の歩合を示さば、左の通りである。

	一九二四年	一九二五年	一九二六年
米	一一、五%	一〇、四%	一〇、八%
英	三七、〇%	三〇、七%	三二、九%
支	一八、四%	一九、四%	一五、六%
和	〇、九%	二、五%	二、二%
佛	二、五%	二、七%	二、五%

獨	二、八%	二、七%	
日	二七、四%	二六、六%	二八、一%
諸	〇、五%	二、三%	二、四%
其	一、八%	二、六%	二、八%

前表に依れば、重要國の増減の外に、和蘭・佛國・獨逸及諾威四箇國の船舶が、一九二〇年には二十萬噸以下であつたが、其後六十萬噸以上に増加したのは、又注意すべき事實の一である。更らに日・英・米・支四箇國の沿海及河航汽船並に航洋貿易船の對照歩合表を掲ぐれば、下の如くである。

	沿海及河航汽船		航洋汽船	
	一九二五年	一九二六年	一九二五年	一九二六年
英	三二、五八%	三七、九八%	二九、〇三%	二七、五六%
日	一九、三二%	二一、一九%	三四、一三%	三四、四六%
支	三七、五九%	三〇、五六%	—	—
米	一、四八%	一、七五%	二〇、七一%	一九、九一%

前表に依つて見れば、日本は獨り航洋汽船に在つて英國を凌駕したが、沿海並に河航汽船に於ては、遙かに英國に及ばないのである。

寧波

寧波は南北に互る内亂政争の爲め、殊に南方との貿易を阻滯し、商業は又不振であつたが、多量



に米の輸入を見た爲め、内外貿易は、前年の四千六百萬兩が五千五十萬兩に、外國貿易は五百十九萬兩が八百十六萬兩に上つたのである。

外國品の輸入は、前年に比して四百八十六萬兩を増加し、二千二百二十七萬兩に上り、外國米は前年の十七萬六千擔七十萬四千兩が百八萬擔四百三十三萬兩に激増し、棉布類も又増加し、就中英國生地金巾・シーチングは、前年の八萬三千疋が十一萬四千疋に上り、晒金巾・シーチングは、一萬四千疋が二萬三千疋に増加したに反し、日本生地金巾・シーチングは、十萬二千疋が六萬二千疋に下り、棉花は本省の收穫減退の爲め、印度棉花を輸入したので、前年に比して一萬二百五十八擔を増加し、卷煙草は、萬縣事件に對する排英宣傳ビラが盛に貼布されたが、著しき反響はなく、其他麥粉は、前年の一萬五千擔が四萬一千擔に増加した。

支那品の輸出は、重要品である棉花減收の爲め、前年の一千八百萬兩臺が一千六百萬兩臺に下り、寧波棉絲の輸出は、上海工場罷工の爲め、前年の四萬擔が五萬九千擔に増加し、禮拜紙(紙箔)は、市價一擔百五十元に昂騰し、需要に應じ難く、且つ長江一帯の重要市場は、戦争の爲めに閉鎖し、前年の一萬五千擔が八千七百擔に減退し、燐寸の如きは、當港正大公司の製造に係るが、品質不良で上海市場に供給するに適せぬ爲め、皆當地に於いて消費せらるゝので、其結果産額も前年の十二萬七千「グロス」が十一萬「グロス」に減退した。又蒲草蓆は、時局の爲めと、日本からの注文減退に

よつて不況に在つた。藥材も長江方面の市場閉鎖に依り、減退した。

當港の入出港船舶は、本年は過去十年間の最高記録を示し、二百三十六萬噸に増加し、支那船は百六十七萬噸で首位を占め、英船は六十萬噸臺で次位に在り、其他時々米・日・諸等の般船が、石油や雜貨を積載して寄港したが、其數は極めて少く、日本船の如きも僅かに二十八隻三萬一千噸に過ぎぬ。

## 福州

福州は、本年貿易を阻害すべき三大事項、即ち(一)奧地及閩江流域に土匪の横行したこと、(二)課税の繁苛であつたこと、(三)當地鑄造の補助貨の下落したことがあつたにも拘らず、貿易は内外共に増加し、内外貿易は、前年の三千二百九十萬兩が三千四百二十八萬兩に、外國貿易は一千五百三十七萬兩が一千八百八十九萬兩に増加した。但し一九二四年に比せば、外國貿易は稍増進を示して居るが、内國貿易は減退して居る。

年初より春夏に互り、貿易は好況であつた。船舶及貨物に對する抵制運動は、漸次勢力を失ひ、中夏の頃は全然終熄したので、輸入は恢復し、殊に棉布類は好況に在つた。輸出貿易は反對で、土匪や軍隊又は苛税の爲めに障碍を蒙り、不況に在つた。同市には十二月五日に三萬の國民軍入城し、本年初めから新しき補助貨を鑄造し、市中に充付した爲め、著しく價格が下落し、各錢莊は行使を



拒み、新年から六月中旬に至る迄で罷市を實行し、省の造幣廠は鑄造を停止し、省長の布告勸導に依つて漸く開市し、七月一日福建銀行は又開業を宣言し、福建省銀行と改名した。十二月北軍が國民黨に政府を明渡したとき、該銀行が自動的に營業を停止した爲め、其紙幣は無價值となり、又銅錢は著しく下落したが、上海爲替は、上海に於て光洋を多額に需要した爲め、一百元が規銀七十五兩三錢七分五厘となり、香港弗の「プレミユアム」は十一元二角五分となつた。沿岸の第二期米は平均率に止つたが、夏期旱天の爲め、高地の分は平均額の約八割であつた。然るに閩江流域を通じて輸入する江蘇米が皆無であつた爲め、米價は暴騰し、其結果本年の輸入外國米は、一九二四年の輸入數量に比して約三十倍に激増したのである。

軟木は夏時及年末の二期に取引された。南軍が閩江上流の森林地から、多くの土匪を羅致したが、本年の木材貿易は極めて不況に終つたのである。外國品の輸入は、前年に比して二百六十萬兩を増加し、一千五十八萬兩に達した。英國の棉製品は好況であり、就中生金巾・シーチングは二萬五百七十疋、同晒及染色金巾・シーチング等は二萬三千疋に達した。只例外として英國製生地天竺木棉は一萬二千疋を減少した。魚介及海産物中、海藻類は減退したが、鹹魚類は増加した。外米の輸入は激増し、前年の二十二萬一千七百五十六擔が三十八萬二千四百四十五擔に上り、糖類中、精糖は減少したが、冰糖及白糖は増加し、肥料・染料は又増加した。

内國品の輸出は、前年に比して百三十七萬兩を減じ、一千七百六十四萬兩となり、一般に不況であつた。茶は夏季の終りに、工夫茶・熙春茶及花燠茶等減退を示したが、秋季には熙春茶は好況に轉じ、工夫茶及花燠茶は依然として減退した。又軟木材は夏季の減退に比し、稍増進を示したが、其他多くの貨物は、土匪及厘金加徴の爲めに影響を蒙り、不況となり、石油も亦減退した。冬季は又同一事情に依り、貿易は不振となり、木材商は見越輸入をなした爲め、年末には鋸木廠の倒産したものがあつた。國別貿易額は、英國が首位を占め、四九・七パーセントとなり、日本は次位で三七・二パーセント、米國は八パーセントである。

船舶は前年に比して二十六萬餘噸を増加し、百四十六萬噸を占めたが、一九二三・四年に比せば、尙減退して居る。

## 厦門

厦門は内外貿易共に増加し、殊に内國品の輸入は好況であつた。内外貿易は前年の三千一百萬兩が三千四百萬兩に、外國貿易は前年の二千萬兩が二千二百萬兩に増進した。其主因は、本年の激烈な政争動亂が、當港には影響少く、排外抵制運動も三月末に迫んで漸く平靜に赴き、(一)廣東以北の禍亂戦争の結果、從來内地の供給市場であつた汕頭が、厦門に代つたこと、(二)十月排英抵制が終止した迄は、厦門は廣東及汕頭の仲繼地であつたこと、(三)自動車道路の建設や内河航汽船航路の延長



があつたこと、(四)工潮に依る物價騰貴、又は爲替の低落等である。本年は従來汕頭から出港した廣東各地の移民が、厦門を伸繼とし、其他盜匪の蜂起があり、或は政府が農工苦力等を軍用に徴用した爲め、新嘉坡・海峽殖民地・爪哇等に對する移民は前年の數を超過し、本年華僑からの送金は二千萬元と稱せられた。但し之に依つて人口の損失を補償することは出来ぬ。又本年は漳厦鐵道の改修計畫があり、北京政府の免許を経たが、南寧の侵入に依つて其計畫は挫折した。稅收は、前年に比して十六萬二千兩を増し、百萬兩を越し、當港の最高記録を示した。即ち子口稅(三聯單付貨物に對する半稅)の外は、何れも増進を示し、殊に輸入稅は七十萬兩に上り、一九二三年の全收入を超過した。

外國輸入品は、前年の千七百萬兩が千九百五十萬兩に上り、再輸出額を控除するも一千八百二十萬兩に達する。其主因は、銀貨の低落に依るの外、抵制期間の在荷の拂底を急激に補足した爲めである。従つて日本の棉布類の激増は、上半期英貨の抵制期間中に、英貨に代つて市場に溢れたものである。印度棉絲及日本棉絲は、支那棉絲の競争に遭ひ、何れも減退し、外國棉織物は、一九一八年には僅かに十三萬七千餘疋であつたが、一九二〇年より激増し、一躍二十八萬餘疋に上り、抵制のあつた一九二五年にも三十二萬二千疋に上り、本年は三十六萬六千疋二百三十萬兩に達し、日本品が大部を占めた。例へば一九二三年頃は、生金巾は英國品が三萬一千疋に對し、日本品は七千八

百疋に過ぎなかつたが、一九二五年の英國品が四千疋であつたに對し、日本品は三萬八千疋に上り、天竺は前記期間の六千疋が一千四百疋に下つたに對し、日本品は二萬六千擔から七萬三千擔に激増したのである。但し排貨の終熄に依つて、英國品が稍蹙頭して來た。支那棉絲が前年の百萬兩から百六十五萬兩に増進した外、支那棉織物は、尙外國品に比して其數量少く、前年の四萬疋が三萬八千疋に減退した。外國製燐寸は、土產品に壓倒されて減退した。

内國品の輸出は、前年の五百六十一萬兩が五百四十八萬兩に低下したが、再輸出は、前述の通り汕頭及廣東の排英抵制の爲め、當港が伸繼となつた結果として、最近二箇年間増進し、又葉煙草の輸出が増加したのは、製造原料として臺灣に對し多量に仕向けた爲めである。

支那品の輸入が、前年の一千萬兩臺から一千五百萬兩臺に激増したのは、主因は農業肥料の豆粕の輸入が激増を極めた爲めである。又卷煙草の輸入を増進したのは、舊式煙管の使用が漸次に減退した爲めである。

本年の船客は、出港數六十二萬三千人、入港數五十八萬五千人で、前年に比して出入共著しく増加したのは、汕頭から沿岸船に依つて當港を伸繼とした出稼移民の多くが、苛稅や軍事徵發に苦しめられた一方に、南洋の護謨事業が活躍した爲めである。

國別に見るときは、本年の外國貿易も、亦英國が首位で、五六・五「パーセント」を占め、日本は次



位で二二・八「パーセント」、米國は七・四「パーセント」である。

船舶の入出港が、前年の三百三十八萬噸から四百六十三萬噸に増加したのは、前記移民船の外、上海・香港・基隆間沿海船の通航が盛で、殊に豆粕輸送の大連航路船の増加した爲めである。各國別から見れば、英國船は、大半の千二百四十八隻二百四十五萬噸を占め、支那船は七百七十二隻七十萬噸となり、日本船は六百九隻六十九萬七千噸である。

## 汕頭

汕頭は廣東事件の影響を受け、前年の貿易は一九二四年に比して著しく減退したが、本年は前年に比し、主として銀爲替低落の關係から貿易価格は増加し、即ち内外貿易は前年の七千五百五十萬兩が八千五百八十萬兩となり、外國貿易は前年に比して六十餘萬兩を増加し、三千六十萬兩を占めたが、本年初から秋末に至る對英抵制は、殊に通商を阻害すること甚しく、十月十日の抵制停止も其效力なく、十一月初英國の商人及船舶は再び當港の貿易に従事したが、尙不時の害を蒙り、年末迄舊態に復活しなかつた。當港には各種工會が星羅棋布し、毎時過酷の條件を強要し、罷工を頻發せしめ、事業家の外多くの一般小商人は、其破産の到達すべき壓迫に堪へず、香港に避難し、生計を謀らんとするの情態であり、又專賣制其他課税は、石油・砂糖等の取引を著しく障碍したものがあつた。

稅收は前年に比し、六萬三千兩を減じて百四十一萬兩となり、輸入稅が十二萬兩を減退したのは、

九箇月以上に互る香港に對する經濟絶交の爲であり、反之沿岸貿易稅が五萬四千兩を増加したのは、支那品の輸入が外國品に代つた爲めである。

外國品の輸入は、外國及香港から一千九百二十四萬兩、支那諸港から八百三十四萬兩に達し、内外港に對する再輸出額三十八萬五千兩を控除せば、純輸入高は前年に比して五百三十萬兩を増加し、二千七百二十萬兩を占めたのである。排英貨は特に英國製の棉絲物及毛織物の輸入を減退し、主として日本製品を以て之を補充したのである。且つ前年の在荷が缺乏した反動として、前年に比して百二十萬兩を増加し、五百六十餘萬兩となり、羽二重金巾・綿ローン・モスリン等は倍額以上に達し、モスリンは當地紡絲工場にて從來使用した高價な夏布グラスクロスの代用として需要した爲め、著しく増加した。本品は罷工中特に工會の許可に依つて新嘉坡から輸入したのである。五枚サチン(毛)ドリル繻子は約七倍して十四萬六千疋百萬兩弱に達した、本品は殆んど全部日本製に係り、安價で毎季を通じて織布に適するから、名聲を博し、英國製の各種紡絲を驅逐したのである。生地及晒金巾・シーチング・綾吳呂・繻子類・ホブリン・紋ポブリン等は増加したが、一九二四年に比せば、尙減退して居る。更紗類は約八割を増加し、人造絹・棉交織品は、前年の八萬五千碼が一躍三十萬一千碼に増加し、多くは日本品であつて、英品に代つたのである。又當地紡績工場使用のリンネルも、罷工委員會特許の下に輸入し、舊年の在荷少きを爲め約倍加し、六十萬碼に上つたのである。鐵・銅及セメントは、市の道路改造



及家屋増築用の爲め、其輸入を増加した。

米は北部飢饉に際し、長江筋から輸入を中止した爲め、外國米の入津多く、約倍加して百三十萬噸に達した。但し當地方の豊作及米價繰上策から輸入を手控へた爲め、内外米の總額は、前年に比して八十萬擔を減退して居る。小麥粉の減退したのは、後半季に於ける金高の爲であり、藥材の減退したのは、香港貿易の衰頹の爲めである。硫酸アンモニアは、前年の六萬四千擔が十四萬九千擔に激増した。本品は豆粕に代り肥料に供するのである。アニリン染料及人造護謨は、主として獨逸製に係り、品質優良に且つ安價であるから輸入を増加したのである。石油の輸入が四百四十八「ガロン」を減退したのは、(一)國民政府が專賣制を一九二五年から實施し、後一九二六年六月課税に改めたとき迄繼續し、(二)約一箇年を通じて主要の外國商に對し、抵制及罷工をした結果、市價を昂め消費を制限した爲めである。殊に排英貨の爲め、スマトラ及ボルネオ油の輸入を全然杜絶した。又數箇月間の罷工運動は、米國の大石油商に波久し、舊來取引された石油業に大打撃を與へた。尤も他種商標の米油を以て、多少補足し得たが、米油は三百二十三萬「ガロン」を減じた外に、ボルネオ油は十九萬「ガロン」、スマトラ油は百六十八萬「ガロン」を減退し、總減退額は百五十萬兩以上に達した。反之露國油は、前年僅かに千百「ガロン」のみであつたが、本年は一躍して六十九萬七千「ガロン」に達した。但し其輸入は、年末前に露國石油會社が營業を閉鎖した爲め、輸入は杜絶し、年末の石油市價が暴

騰したので、電燈を利用する外、細民の多くは豆油を代用する事にした。

支那品の輸出は、前年の千九百十八萬兩が二千七十三萬兩に上つた。抵制期間中、香港及新嘉坡との通商を杜絶した結果、鮮蛋の如きは、前年の千三百九十萬箇が七百二十三萬箇に下り、其殘貨の一部は鹽漬とし、皮蛋又は鹹蛋として輸入し、前年に比して四百七十九萬箇を増加した。前年秋季から本年春季に互る橙柑の收穫は、極めて不作であり、本年秋季の橙柑(鬆皮潮柑)は豊作で、十二月に多量の輸出があつたが、前年に比せば尙減退した。土産の砂糖は近年不況にして、就中本年度赤糖の輸出は二十一萬擔餘を減退し、三月以降六月末迄糖商は、苛税に反對して罷市を實施した。支那品の輸入は四千萬兩を越え、再輸出額は二百十三萬兩を控除するも三千七百九十萬兩となり、前年に比して七百四十萬兩を増加した。就中豆類の輸入は、前年の在荷が少かつた爲め、三十萬擔を増加した。豆類の輸入は、硫酸アムモニヤの使用が傳播したので、打撃を受けた。國別貿易高は、最近數年來に於ても、英國は香港が四・五十「パーセント」を越へた爲め、六十「パーセント」餘を占めたに對し、日本は僅かに三「パーセント」内外に過ぎなかつた。本年に至つて抵制運動の結果、英國は減退したが、尙三十九「パーセント」を占め、日本は増進しても、漸く十二「パーセント」に過ぎぬのである。

最近三箇年間の日・英・米三國の對支國貿易額を示さば、下の如くである。



(單位 千兩)

	一九二四年	一九二五年	一九二六年
英	二八、三三三	一八、四九四	一一、二二三
米	二、〇三三	二、〇二〇	一、〇八五
日	一、五三四	一、四〇二	三、七七五
			四〇、%八七
			三〇、%二〇
			一二、%三〇

對汕頭貿易は、移民關係があるから、暹羅は重要貿易國に屬し、前年は二百九十九萬兩で十七「パーセント」を占め、英國の次に位し、本年は六百七十萬兩で二十二「パーセント」に増進し、英國の半額以上を占めたのである。

船客數は、出入港百九十六萬八千人に達し、一九二四年を除けば、最近十年間の最高「レコード」を示した。蓋し本年一月から九月迄で、當地の排英抵制中、香港又は新嘉坡に直航する移民は、糾察隊の爲めに阻止せられ、抵制運動の少い厦門港を仲繼とし、沿海通航に依る出入人數を増加したのである。

船舶の入出港は、前年の二千七百九十四隻三百七十萬噸に對して二千八百七十八隻三百五十萬噸で、噸數は二十萬噸餘を減退して居る。支那船は首位を占め、北支航路に屬するものが多い。英國船が排英抵制に依り、其跡を絶つた爲め、支那船は前年に比して六十萬噸を増加し、百萬噸以上に達した。即ち英國船は前年の百九十萬噸から六十萬噸に減退した。糾察隊が十月に解散し、一方又南支

諸港の招商局船員の罷工に依つて英國船の就航を促進した。日本船は一箇年を通じて頗る活躍し、殊に臺灣・厦門・廣東間に入出港するものが多かつた。諸威船は、盤谷及新嘉坡間通商の大半を占めて居るが、年末には英國船の競争を受け、噸數を減退した。露國義勇艦隊所屬の汽船は、本年初に活躍し、和蘭汽船は、香港と蘭領印度間に定期航路を能く持續した。

國別に見るときは、英國船は前年約半數の千四百六十二隻百九十八萬噸を占め、日本船は次位で五百九十六隻七十四萬三千噸となり、支那船は四百九隻四十二萬五千噸であつたが、本年は英國船は約三分の一に減退して四百三十四隻六十萬噸臺に下り、日本船は八百一隻九十二萬二千噸に増加し、支那船は千二十七隻百萬噸に達したのである。

廣 東

(一) 概 況

内外貿易は、前年の二億百七十萬兩が二億六千六百六十萬兩に、外國貿易は、九千二十萬兩臺が一億一千二百萬兩に増加したのである。蓋し貿易は前年の十一月及十二月間に恢復の曙光を見たが、本年初には尙前途を逆睹し得ぬものがあり、糾察隊の省港澳罷工排貨の方法は、益々嚴勵を加へ、當港の三大石油公司是、石油專賣稅の爲めに己に營業を停止し、沙面の各大商社は營業に限あるを虞り、又停頓情態に入り、罷工糾察隊は尙四方に活動し、貨物を檢執し、凡そ支那及獨逸兩國の商號



を有するものに對しては、最も監視を怠らなかつたので、其犠牲となつた者が甚だ多くあつた。又水陸の検査には、擅に貨物を扣留し、海關管理上の権限と著しく衝突するものがあり、従つて貨物の積卸は二月二十二日から二十五日迄の間、一律に停止され、工潮は日々に頻發した如き情形であつたにも拘らず、前記の如く貿易は、約六千萬兩の増進を示した。其主因は、(一)本年廣東省内に政争動亂の發生がなかつたこと、(二)北伐軍に供する爲めの大口貨物の輸入があつたこと、(三)各種外國貨物の需要が増加したこと、(四)前年同様に廣東が三角州地方の貨物集散の中心となり、従つて平常香港經由の江門・三水・梧州等から仕出す貨物の大部が、廣東經由を繼續したこと、(五)廣東・香港及澳門間の民船貿易が停止し、汽船貿易に移つた爲め、海關管理の貨物を増加したことである。二月末罷工委員會は、検査所(工商驗貨處)を海關検査所の東側に設置し、仇貨(英貨)を取締り、海關許放後の貨物を再検査した爲め、商民は阻滯不便の苦痛を感じ、抑留の貨艇貨車は江岸に積聚し、煩擾に堪へなかつた。該検査は、省港抵制が終止した迄で繼續した。六月末には石油專賣を撤廢し、別に軍費と稱して毎箱十「ガロン」に付き毫洋二元の特税を課し、北伐の成功後は、之を廢止すべき旨を布告した。之れが爲めに約一箇年休業して居た三大石油公司是、始めて復業した。十月十一日には廣州口出產運銷品物内地税局を成立し、徵税を開始し、(實際の徵收は、廣東市は十月十四日、陳村は二月二十七日から開始した。普通貨物は海關及常關税則に照して其半税を徵收し、奢侈品例

へば絹布類・化粧品・皮革・裝飾品・玉石等には、全税を課徵し、葉卷煙草及卷煙草・輸入酒・石油・「ガソリン」等の特税を設くるものは、例外とすることにした。但し年末迄は、奢侈税は實施せられなかつた。外國商人は是等附加税の支拂を拒み、抗議を提出したが效果なく、内外商人とも、其後間もなく納税する事にした。省港汽船は、十月に至る間に來往各一隻あり、來往毎週六次を見た。是等船舶は中流に碇泊し、糾察隊が周密な監視をなし、夜間江面から時々銃聲を聞いたので、英國の砲艦は、出入貨客保護の爲め、河船の東南約八百碼の地位に投錨して居た。斯る情況の下に、工潮に依る勞銀の騰貴、地方課税の重課、又は不作の爲め、商民の負擔は益々重く、例へば生絲商は一千五百萬元、米商は五百萬元を損失し、陰曆新年後には、工會の過酷なる條件に依り、多くの支那商社が閉業したと云はれた。己に前年約三割を増加した生活費は、又主として貨物運賃・家賃・地税又は米價等の皆昂騰した爲め、本年は更らに一割五分を高めたのである。一九二四年には、上等米毫洋一元に十一斤であつたが、本年は七斤に騰貴した。即ち二年間に物價は約五割騰貴したから、若し銀の下落がなれば、當地の貨物も海外に輸出する能力を缺いたのであつた。一方生活費が昂上せる爲め、他に補償條件を考へずば、人民の購買力が減殺せらるべきであるが、其條件の主たるものは、例へば各種新式機器及労働能率である。當港將來の豫測は困難だが、支那人民は勤儉耐勞で、營業にも練熟して居るから、環境の不利がなれば、或は本省の興盛括目して俟つべきものあらむか。



本年の政治上に於ける二大事件は、省港罷工排貨の解決と北伐軍出發とであつた。前者に關しては、前半年間香港支那商人が懇親團を組織して廣東を訪問し、罷工解決に關し暫定の妥協方法を商議したが、效果なく、四・五月間には省港政府兩方面に苦心を竭し、聯席會議を開催して討論し、次で七月十五日から同二十三日迄で數次交渉合議を遂げたが、解決の途がなく、九月末省政府は、對港罷工・抵制運動は十月十日の雙十節を期し、之を停止すべき旨を宣言したが、罷工糾察隊は汽船・埠頭に陣取つて検査を持續し、漸く十一月十五日に至り、始めて一律に撤退したのである。内治情形は、南征軍は一月二十三日から瓊州を攻克し、後省内の反抗勢力は已に肅清を告げ、五・六兩月には北伐を籌備し、六月中旬に先發隊は出達したのである。十一月三十日中央政府委員會は、廣東に於て末次會議を開催し、十二月一日に至り中央黨部を武昌に遷したのである。

(二) 税 收

本年の稅收は、年前年に比して百六十萬兩餘を増加し、四百六十一萬兩(飢饉附加稅額十二萬兩餘を含む)に達し、廣東海關開始以來の最高レコードを示したのである。前年は一九二四年に比して輸入稅が著しく減退したに反し、本年は前年に對し輸入稅が百萬兩を増加したのである。前年の外國品減退の諸原因は、本年省港罷工の終止後に除斥されたが、廣東は尙三角洲及西江各港の集散貨物の中心點であり、省港間民船貿易は、前述の通り汽船貿易に改まり、米穀類の如き従前香港を仲

繼として當港に轉運したものが、現在は直接に安南等より汽船に依つて當港に直航するから、其結果常關稅收の増加は證左することが出来る。其他本年小包郵便物の稅金が、前年の五萬六千兩に對して約倍加し、十萬八千四百兩臺に上つたことは、省港抵制中、棉布類の小貨物を郵便に託した爲めである。

(三) 重要外國品の貿易

外國品の輸入は八千萬兩臺に達し、廣東貿易史上の「レコード」を示した。就中棉布類は一千四百萬兩、金屬及礦物類が二百萬兩となり、其他雜貨が六千四百萬兩を占め、前年に比して七十「パーセント」を増加した。其増進の主因は、従前數年間の政爭紛糾・商業不振の後に、時局が靖平したので、貿易復興の氣運に向ひ、又本年歲首に各商社が在荷拂底に依り、急激に取引を増加した反動的事情に基くものである。北伐軍の服裝又は工會糾察隊の制服等は、自から棉布類の需要増進を助成し、就中生地晒及染色金巾・シーチング等は、前年に比して十二萬六千疋を増加して三倍に達し、綿毛交織布の輸入は、倍加して其數量七十六萬五千疋を占め、毛サージ・トゥキード等羅紗類は、前年の二十四萬一千碼が四十三萬八千碼に増加した。反之外國棉絲は上海絲に壓倒されて逐次減退し、金屬及礦物類は一部の例外を除けば、増進を示した。北部の飢饉及南北戰爭に依る軍隊動員の爲め、内國米の缺乏せる結果、佛領印度支那からの代用米が、前年の外米に比して約四十五「パーセント」の



輸入を増加した。麥粉も又上海製粉其他の競争があり、漸次減退した。當市に開設した糖菓店の需要を充す爲め、爪哇白糖は前年に比して二十六「パーセント」の輸入を増加した。

外國の卷煙草は、排英貨運動の爲めに依る外、支那製品の發達に依つて殆んど絶無となつた。獨逸のアニリン染料は前年に倍加し、露國の石油は同品總輸入の半額以上を占め、二百九十五萬「ガロン」に達し、前年に比して四十「パーセント」を増加し、米國油は之れに次ぎ、總額の四十六「パーセント」を占め、ボルネオ油は僅かに二「パーセント」に過ぎぬ。米油及ボルネオ油の何れも前年の數量に及ばぬのは、抵制に依る外、安價な露國油の競争があつた爲めである。スマトオ油は三水に再輸出の目的としてのみ輸入し、六萬九千「ガロン」を占めた。

紙は廣告用及傳單作製の爲め、印刷紙の輸入は著く増加し、前年の十一萬七千擔が二十二萬四千擔に達した。

内河航貿易が恢復した爲め、小蒸汽船用として日本炭及鴻基炭の輸入は、六十一萬九千噸に達した。道路の築造其他廣東市々區改正等土木事業の發達せる爲め、「セメント」は増加して六十一萬九千噸に達し、又電力擴張の爲め、之れに要する材料・機械等の輸入は、前年の三十八萬八千兩が七十三萬五千兩に増進した。

日本品の輸入は著しく増加し、前年の三百八十萬兩が一千七百四十萬兩に上り、就中棉織物・石炭・

海產物等を大宗とし、棉布類は前年の六十萬兩臺が四百萬兩臺に、石炭は二百萬兩臺が三百三十三萬兩臺に、海產物は十七萬兩臺が二百七十六萬兩臺に上り、其他米穀類は十五萬兩臺が百三十四萬兩臺に、化學品は十二萬兩臺が百三十四萬兩臺に、紙類は十六萬兩臺が百十三萬兩臺に、金屬・礦物類は六萬兩臺が五十三萬兩臺に、藥材は七千五百萬兩が二十七萬兩臺に増進して居るのである。

#### (四) 重要支那品の貿易

支那品の輸出は、前年に比し一千百萬兩を増加して一億八百十八萬兩に達したが、其主因は當港貿易の發達と云はんよりも、主として當市場の不健全な物價騰貴に依ることが多いのである。

本年當市各業の工會は、異常に勢力を有し、工賃を増加した爲め、各種の土貨は漸次昂漲し、雇主の業務上の畫策は使用人に束縛せられ、自主力を喪失し、使用人は又工會の指揮を受け、時々罷工して生活の改良を叫び、賃銀の値上を強要し、本年初から十月迄香港沙面抵制期間中、輸出貿易の香港經由外國輸出に係るものは、約五百萬兩を減退した。其減退額は、偶々外國向の廣東貨物中、支那の他港主として上海經由に轉じたものと、相抵補するのである。土貨の支那港に輸出した額は、前年の四千七百萬兩が六千二百萬兩に増加したのである。

本年は生絲市場開始の際、多量の在荷があり、加ふるに製絲家は高値を維持した爲め、生絲の交易は殊に阻帶し、最上等新式絲 (New style crock chops 14/16) は一擔一千七十元、優等舊式絲 (Old



style Post no 14/16)は一千百元であつたが、歐米からの注文が無かつた爲め、市價は漸減し、四月歐洲市場で稍需要を見るに至つたとき、日本製絲の高値の外に又二造絲の不作に刺激され、廣東絲も市價を高め、米商は再び入市し、六月末迄でに買占めをしたので、市價は更らに騰貴し、最上等新式絲は千百五十元になつた。其後又停滯して市價暴落せし爲め、商人の取引が増加するに至り、八月頃には市場活躍し來り、罷工の打撃を受けて上海に營業を移した外國商社の多くは、當港に復歸し來り、市場稍好況を呈したが、上海經由の航運が改まつた十月の罷工解除迄では、預期の結果なく、尤も當時爲替の暴落に依つて取引を誘導したが、營業は尙制限された範圍に止まり、年末需要は全然跡を絶つた。製絲家は金融に窮し、投資をなし、一層生絲の市價を低落せしめたので、十二月三十一日現在は最上等新式絲每包一千元、優等舊式絲は一千二十元に下つた。本年生絲の總生産高は、前年に比し三千包を減退して五萬七千包となつた。廣東絲は、由來適當の管理を缺くが故に、品質は退化したと云はれ、殊に罷工中、外國會社の常時完全な監視を妨害した爲め、支那製絲家の多くは却つて粗惡品を製し、外國の需要を減退せしめたのである。廣東絲を日本絲に比するに、絲質光澤共に不良の上に、絲條不揃の爲めに米國の機械に適せず、最近廣東絲業改良研究所長米人某の報告に依れば、日本絲を以てせば、毎日職工四十八「ポンド」を織るに、廣東絲にては十八「ポンド」に過ぎぬ、又絲質不良の爲め、賃銀の高率となることを發表した。

其他タングステン礦は主として獨逸に仕向け、前年の八千二百五十二擔が一萬五十六擔に増加し、桂皮の輸出は前年に比して二萬六千擔を増加し、茶は各種共輸出を増加し、三萬一千八百擔に達し、鶏鴨毛は主として佛・獨及日本に輸出し、著しく増加して二萬一千擔に達し、地蓆の輸出は前年に比して約二十「パーセント」を増加し、九萬一千捆に達したが、一九二四年に比せば四十七「パーセント」を減退して居る。蓋し本品は米國からの需要は僅少であるが、英國よりの注文は熾盛を極めた。之れ英國は從來多年本品の市場であつた。當地工潮の發生に依り、草蓆の大工場は漸次消滅し、本品の取引も遠からず家庭工業の地位に落ちんとして居ることは、注目すべきである。支那製燐寸は、本年工場閉鎖の爲め、前年に比して三十一萬七千「グロス」を減退した。支那棉絲は梧州及南寧から多額の需要があり、再輸出品中の主たるもので、前年に比して百三十七「パーセント」を増進した。次に支那品の諸港よりの輸入は、八千三百三十萬兩に達し、前年に比し純輸入が一千六百萬兩、再輸出が八百萬兩を増加した。二、三品の例外を除くの外、一般は多く増進を見たのである。棉絲は前年の十五萬三千擔が二十八萬三千擔に増加し、棉布類は七十「パーセント」を増加した。開瀾炭及撫順炭の輸入は、前年の六萬四千噸が十一萬噸に増加し、撫順炭は最も需要が多し。市區改正事業の爲め、上海セメントの輸入は多額に達した。支那米は北部飢饉の爲め、長江流域からの入津を禁止せられ、只梧州から少量を輸入したのみで、前年の百三十八萬九千擔が三萬七千



擔に激減した。

支那機械製造品の輸出入額は、(運單に依る)前年に比して約五百五十萬兩を増加し、八百四十二萬三千兩中、八百一十一萬四千兩は同省の内地に仕向けたものである。其他重要品は棉絲・製粉で、前年の各五萬四千擔及十一萬八千擔が各十五萬七千擔及三十八萬三千擔に増加した。

(五) 船舶の入出港

本年船舶は、前年の五千五百十八隻五百二十一萬三千噸に對し、五千五百五十六隻五百三十二萬四千噸に達し、國別に見るときは、英は三三%、日本は二四%、支那は二二%、諾威は一%、其他は一〇%となる。而して省港澳の河航汽船は、七百隻を減退したに反し、航洋船に在つては、約同數を増加した。省港の罷工に當り、當地に多くの新汽船會社が出来、廣東・上海又は廣東佛領印度支那間の航路を開通したが、罷工抵制の停止と共に舊航路を復活し、十一月末には入出港貨物は、多くは常態に歸し、新設の船會社は閉鎖したのである。又十一月末招商局は停航し、其三隻の船舶は廣東港に繋船した。新造船の泰山號は香港大古造船所の建造に係り、十月中省港間を來往した。

本年省港間河航汽船の減退したのは、船客數の減退に依つて知るべく、例へば本年廣東に來往した船客數は、一九二四年に比せば、四分の一にすぎぬ最低の「レコード」を示し、殊に罷工中の第一四半季より第三四半季迄の數は、第四半季の二十六萬四千八百九十八人に對し、六萬九百六十五人

に過ぎないのである。

次に六月二十三日の沙面事件後に於ける省港罷工一箇年間と、絶交前の一箇年間とに於ける、廣東入出港航洋船の國別對照表を掲ぐれば、左の通りである。

計	英		日		支那		諸		佛		葡		其他	
	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數
二、五六四、一一八噸	九九八隻	一、三二二、一〇七噸	七〇八、六七五噸	五七四隻	二八〇、五五〇噸	二一五隻	一七七、二八九噸	一五九隻	四九、八〇八噸	六三隻	三二、五六一噸	一三隻	三、一二八噸	二、〇九一噸
二、四七三、五六五噸	三隻	四、六九七噸	八九五、二三六噸	七九一隻	八三〇、七九七噸	七三一隻	四六九、二五七噸	四九九隻	一〇〇、七三二噸	四〇隻	二二、〇九一噸	五一隻	一四九、七五五噸	二、二三〇噸

絶交前 (自一九二四年七月 至一九二五年六月)      絶交後 (自一九二五年七月 至一九二六年六月)

即ち英國は九割九分を減退したに對し、日本は三割八分、支那は二十五割、諾威は二十一割、佛



は七割を増加して居る。

(六) 常關貿易

常關を經由した主として民船に依る貿易は、又時局の影響を受くること大いなるものがあつた。本年度廣東本關及陳村分關の貿易額は、前年に比して八百五十萬兩を減退し、二千三百四十六萬兩となつた。之れが主因は、(一)對香港の罷工が年初から九箇月に互り繼續し、其間戎克船の定期航行が全然杜絶したこと、(二)貨物の輸出入は、石岐容奇から省港に轉運する日數の増加したこと、(三)本省三角洲各處に海賊が猖獗であつたこと、(四)陳村沿江の半浦地方は、漸次淤塞したこと等である。

輸入は前年に比して七百六十七萬兩を減退し、一千七百三十萬兩となり、無税品の牛・豚・鶏・鴨・鮮蛋等の輸入は、前年に比して六十四萬兩を増加し、七十二萬兩に達し、有税品は四百四十九萬兩に達した。(其他の無税品例へば、鹽魚は六十七萬兩、食鹽は一千七十八萬兩、糖・穀・米は六十四萬兩等を除外する。)陳村に輸入する貨物に關しては、輸入税は九龍關の大鏡分關及拱北關の馬溜洲分關に於て徵税し、只陳村に在つては小數の銷號費(Cancellation Fee)を賤課するのみである。今減退した重要品を擧げば、左の如くである。

糖	一九二五年	(單位 千擔)	一九二六年
煤	一、三三〇		八三

穀	九〇九	二三
米	六九九	四四
石	一、〇四四	二四

尙注目すべき事項は、本年の罷工期間中、香港の渡船(戎克)交通は全然杜絶したが、燐寸及爆竹工場用の爲め、財政部爆裂品專賣處に依り、香港より綠酸鉀二千七百七十二擔、硝石三千九百十四擔、硫黃千四百擔を輸入し、罷工中廣東に於て輸入及販賣の特權ある大明公司が、香港より柴油一萬三千七百七十一擔を輸入し、其特許税は每噸百元とした。又財政部鹽務總處の發給した運鹽水程照に依つて、坎白から軍鹽三萬三千六百擔を汽船を以て輸入したことである。輸出は前年の七百八萬二千兩が六百十四萬七千兩に減退したが、棉絲(一九、九七七擔)・製粉(七、七五四擔)・竹篾(三三三、九一〇擔)・牛骨及豚骨(二〇、九六〇擔)等は好況にして、前年に對し増加し、其他の貨物は、下記の如く減退して居る。

	一九二五年	一九二六年
黑 灰 石	二二四	一
瓦	九九七	三七
舊 麻 袋	二、七五八	四五

國民政府の新設した附加税の如きも、彼の地方税の擔頭費(驗查料)又は銷號費等と同じく、船鈔(Junk dues)には課徵せぬこととした。



(七) 物價騰貴

時局に依る物價騰貴が、貿易に影響を及ぼしたことの少くないことは、前述の通りである。

廣東の工潮は、已に數年以前より發生したにも拘らず、物價は歐洲戰爭後には、上海と異つて昂騰しなかつたが、最近國民運動の進展に伴ひ、工會の簇生に依り、同時に古來傳習の家庭工業の破壊を來し、物價は急激に騰貴し、前年下半年及本年に亘つては、上海の比でない。廣東農工廳の調査に依れば、本年(一九二六年)十一月一日現在廣州工人代表會(共產派支持)の工會數は百四十一個處、工人數は二十四萬三千餘人、廣東總工會(反共產派)の工會數は三十二個處、工人數は十二萬五千餘人に達した。工人と云ふも、固より各般の使用人を含む一式の勞働者を指すのである。

又廣東農工廳の調査に依れば、戰前の一九一三年の卸賣指數百に對し、一九二五年前後兩半期(米類二十種、其他食糧品類六十五種、衣料類四十三種、燃料類十四種、金屬及建築料類四十一種、雜項類二十二種、計二百五種)一九二六年同期(同)及一九二七年上半年の平均數を掲ぐれば、左表の通りである。

一九二五年	上半年	一六七・二
	下半年	一七六・八
一九二六年	上半年	一七二・四
	下半年	一七一・二

一九二七年 上半年 一七〇・七

本表に依れば、其騰貴の割合は極めて少く、今罷工事件前の一九二五年五月の指數を百として算出せば、一九二五年下半年の平均指數は一〇六・二に過ぎず、一九二六年上半年は一〇三・五、同下半年は一〇二・八、一九二七年上半年は一〇二・四にて、何れも一割に達せず、實際と合致せぬが如く思はる。或は商店の報告が、支那商人の慣習上秘密を旨とし、著しく過少である爲めか、最も信據し難いのである。今上海と比較せんに、廣東農工廳の統計彙刊及上海の財政部物價調査處月報等に從へば、上海の平均指數は、一九二五年の上半期に一五八・九、後半期に一五九・八、一九二六年の上半期に一六一・六、下半年に一六六・五であるに對し、廣東は各同期は一六七・二、一七六・八、一七二・四及一七一・二であるが、一九二七年の上半期には、上海は一七二・二に昂騰したに反し、廣東は一七〇・七に低下して居る。蓋し廣東政府は、一九二六年末頃から漸く工人の横暴を抑制し、反省時代に進んだので、物價も多少抑制された傾向がある。更らに罷工の前後即ち一九二五年六月現在の指數を百とし、一九二六年八月末現在の指數を比較した別途廣東實業公司澁谷氏の物價及勞銀等の調査を引用せば、下の如くである。

一、食糧品		
米	一一五	豆 一三〇
食油	一二五	麵 一二〇



海産物	一三五	醬油	一二七
牛肉	一二五	鹽	一二九
猪肉	一二七	野菜	九九
鷄肉	一一五	魚(河)	一二〇
鴨肉	一二四	魚(海)	一四五
燃料	一七八	薪	一一三
石油	一三四		
石炭	一三四		
三、衣類	一二〇	洋貨	一五八
土貨	一二〇	洋貨	一四六
四、建築材料	一二四		
土貨	一二四		
五、勞務	一二二		
イ、熟練工	一二二	燐寸工	一〇五
木工(火工)	一一六	樹膠工	一一八
裁縫工	一一三	生絲工	一一一
苦力	一二五	刷毛工	一〇八
人力車夫	一一三		
住宅使用人	一一五		
ハ、料理人	一二七		
六、書記階級	一三五		

前表中、米は兩湖地方から一箇年に五百萬擔の供給がありしものが、罷工直後香港政廳の對廣東食糧封鎖の宣言があつた頃、三割五分騰貴した際、直通航路に依り安南から暹羅米の輸入があり、又

蕪湖からも入津があつたので、稍落付を見た。野菜の下落したのは、從來香港・澳門方面に仕出したものが停止したので、生産過剰となつた結果である。石油は專賣課稅制度の影響を受けた爲めである。熟練工は罷工後、工人團體が發達し、其收入の一割乃至一割五分を工團に送る外、一般生活費の暴騰に伴ひ、賃銀の値上を叫ぶものである。書記階級は、洋務工會所屬のものは雇傭者から二割、本人から一割を工會に提供するものである。

前記の如く、卸賣値段は約二、三割の騰貴に止るが、小賣値段は其騰貴著しく、同年(一九二六年)末實地廣東市に問合はせたものでは、一箇年前に比し、例へば鷄肉一斤が四十仙臺から八十仙臺に、鷄卵は十仙に五箇が二箇となり、薪は一元に九十斤乃至百斤が三十斤内外となり、米は一元に十三、四斤が八、九斤に下つたのである。

其他南支諸港

其他南支諸港は、省港罷工事件の影響に依り、貿易の系統を轉化し、殊に廣東省内諸港の貿易は、多くは廣東仕向に改めた爲め、前年に比して二分の一乃至五分の一の減退を來した。其顯著なるものを概説することにする。

九龍(香港)

九龍の貿易は、省港罷工が實際十二月迄で繼續した情態であつたから、一九二五年の減退に比して



一層甚しく、内外貿易は前年の五千二百九十萬兩が一千九百九十萬兩に下り、過去三十年間の最低記録よりも五十「パーセント」を減退し、直接外國貿易の如き、又四千六百十四萬兩が一千二百九十萬兩に激減したのである。外國品の輸入中、棉絲の孟買品は、同質の上海棉絲の競争があり、又爲替の變動に依り不況であつた。年初には香貨百弗に付き百五十六「ルーピー」、年末には百二十九「ルーピー」となり、四、五月頃は上海絲に比して低廉なりし爲め、賣行多く、買手は多く支那商人であつた。在荷は、尙支那商の手許にあり、其後廣東には孟買絲の輸入跡を絶ち、同品は獨り雲南に需要があつた。一方香港では孟買絲の在荷多量の爲め、損失が多であつた。蓋し日本製及上海製の棉絲は、殆んど香港を伸繼とせず、直接仕向地に運送せらるゝことになつたので、此種の棉絲貿易は、自ら香港又は九龍及同區域から離れたのである。廣東政府の石油專賣制は、本年六月に廢止し、石油及ベンジン油に對し、新に每箱二元の特許税を徴收した。專賣制の撤廢に従つて、大會社は事業を復活したが、抵制は排英貨に對して十月中旬迄で繼續した。但し汽油の大消費地は香港であつたが、其後自動車・貨車等の需要漸次増加し、又廣東・廣西方面に於いて、既に自動車路を開設したので、汽油の需要は更らに増進することになつたのである。

砂糖は、原料糖は春季キツバに生産限縮がありし外、秋季に颶風があり、生産を減收し、更らに爲替の暴落に依つて市價は昂騰し、當業者は利益を獲たが、其後支那の時勢は紛糾甚しく、精糖の

販路を妨げ、交通不便の爲めに荷動困難となり、取引がなく、上海にては香港糖の代りに、比律賓糖及爪哇糖を直接輸入したのである。

棉布類は、從來香港から廣東及西江地方に再輸出し、其額は三千萬弗に達したが、本年は不況にして、持荷少なきものは、處分して利を得たが、持荷の多きものは、倉敷料や其他の費用の爲め、損失を受けた。日本棉布は安値であり、又引渡が迅速である爲め、英のマンチエスター・グーズに比して賣行が多く、現に最近香港に輸入した棉布中、日本品は六、七割を占めて居り、之れが爲め、英國品は香港及南支どの取引の大部を喪失することになつた。但し毛織物に就ては、日本品は英國品に及ばぬから、此方面では、日本は英國と競争が出来ぬ。

米の取引は、抵制以降著しく減退し、安南・暹羅からの運米船は、直接廣東に入港したが、十月省港通商の恢復後は、香港伸繼に立戻つた。

航業は年初數箇月間、少數船主に限り好況で在つたが、英船は抵制風潮の爲めに利益がなく、従前支那沿海に通航した或る船舶は、厦門及香港から海峽殖民地に對する旅客運送に従事するに至つた。一月から四月迄で、廣東に來往する直航路貿易は、著しく活躍することになり、四月初に廣東の罷工は陸續として増加し、工人に依つて重き罰金を課せらるので、汽船は繋船して時間を浪費するから、運輸業の損失は甚大であつたが、更らに海賊の被害を受けた。



船舶入出港は、一八八七年四月九龍關を設置せし以來の最低記録を示し、當地主要の輸出をなす戎克(民船)は、前年の百九十八萬七千噸が約百噸を減退して九十九萬九千噸に下つて居る。内水航行規定に依る分でも、前年の千六百五十四隻が僅かに五百五十二隻に減退した。

外國品中、民船に依る貨物の價額は、前年に比して八十「パーセント」を減退した。固より年末の排英抵制廢止後、多少の轉機が見へたが、政争が鎮靜する迄では、貿易が常態に達する見込はない。鐵道に依る貨物の價額は、又前年の四十八萬六千兩が四十七萬九千兩に下つた。蓋し鐵道は一箇年の大部を通じ、廣東に連絡しなかつたにも拘はらず、貿易額は平時よりは固より遙かに少額であるが、豫想以上の好結果を見た。

支那品中、民船に依る貨物の外國輸出は、前年の一千二百萬兩が五十「パーセント」の五百五十萬兩に減退したが、鐵道に依る貨物は、前年の一萬七千兩が八萬六千兩に上つた。

## 拱北(澳門)

拱北も開關以來四十年間を通じ、本年程商況の凋落を見たことはない。固より海賊の横行が、當地の貿易を阻礙したこと少くなかつたが、尙一層商勢を摧殘したものは、工會の組織であつて、其分派の糾察隊は香港を排抵し、水陸貨物の流通を妨害し、當時曳船に依る内地通の民船は、貨物の輸送を禁止され、殊に澳門に入港が出来ぬので、船客は前山に於いて上下するのみであるが、尙糾

察隊の干渉は免れ難く、只僅かに香港・澳門間を直航する民船のみが、抑留を免れた。十月抵制終熄し、糾察隊の撤廢された後、年末に至り貿易は稍原狀に復活したが、尙不安は去らぬ。斯る情形故に、本年當港の内外貿易高は、前年に比して半減以上で、一千萬兩臺に下つた。其額は一八九五年以來の最低記録を示した。一九二二年の華府會議條約の實施されぬ期間中に屬するにも拘はらず、國民政府は、十一月二日から當港本關及分關附近に於いて内地稅局を設け、一切の出入貨物に對し、二分五厘の産銷稅を徵收したのである。外國品の輸入は、前年の一千八百三十七萬兩(再輸入を含む)が一千萬以上を減退し、七百五十五萬兩に下つた。抵制の爲め、平時は香港から轉送し來り、當海關に報告する多くの貨物は、廣東に運搬し、各地に分送することに改めたから、例へば米穀のみで、前年の百萬擔が十三萬擔に下り、五百萬兩の減退である。其他棉絲布・羊毛・砂糖・鹽魚・セメント等何れも減退した。支那品の輸出も糾察隊が港口を封鎖し、香港直航又は澳門經由を斷絶したので、本年の貿易高は、前年の三百五十三萬兩が二百五十三萬兩に減退した。民船は又海南・雷州の通航を停止した爲め、例へば豚の如きは二萬二千四百七頭が一萬六千七十八頭に下り、其他檳榔・椰子・生卵・鳳梨(波羅)・薪炭・包席等何れも減退した。但し鶏・鴨が前年に比して却つて増加し、二十二萬匹が三十五萬匹に上つたのは、香港の食料市價が暴騰し、糾察隊の險を冒して私運に依り利益を計つた爲めである。而して澳門青州セメント工場が作業を停止した爲め、石灰の輸出は杜絶した。



船舶は、香港からの馬溜洲通ひ民船の入出港は、前年の六百六十隻が三百四隻に下り、内水港汽船も九萬噸が五萬一千噸に下つた。而して當港は葡領であるから、葡船は支那船に次ぎ、支那船の九千二百隻四十八萬三千噸に對し、四百五十五隻六萬九千噸を占め、内水航汽船は、支那船の九百三隻四萬噸に對し、五百十八隻八千噸を示し、前年に比して増進した。

## 江 門

江門の貿易は、又一九〇四年開港以來の最低記録を示し、前年に比して内外貿易とも大差なく、何れも四百八十萬兩を減じ、百七十萬兩臺に減退した。本年一月から九月迄では、香澳に對する抵制の爲めに全然貿易がなく、就中總ての河航汽船は、香港を以て尾闈とするが故に、同航路の打撃は著しいものがあつた。十月中旬抵制が解決し、十八日に商務恢復し、當時十五箇月間に亘り停航した一汽船が、香港から江門に至り、取引が始めて復活したもの、尙安全でなく、十一月中旬には同徳工會と船艇工會との意見の相違があり、汽船の荷役を一週間中止し、又翌月も十日間停船したのである。

内地稅局は十一月一日に徵收を開始し、煙酒及石油の外一式の貨物に對し、關稅の半數を賦課し、烟酒及石油には特別銷場稅を課し、セメント及砂糖は分局にて徵稅し、之れが收入を廣東大學の用に充當するものとし、棉布類の特稅は徵稅既に數年に亘り、其他石油には本年七月十五日以降毎十

「ガロン」に就き毫洋二元を徵收した。密送の石油は、土匪を買收して沿途四邑及香山縣等に至るものが甚だ多くあつた。本年前半期の石油市價は甚だ騰貴し、每箱廣東にて銀貨七元から十二元に上り、七月以降スタンダード石油會社は、每箱に就き二元の特稅を支拂ふた。十月中旬に排英抵制を廢止せる後、アジャ石油會社は接踵して到り、年末に迨び該兩會社の取引は、始めて常態に恢復した。

九月中に江門總商會は、公債票十萬弗の購入を強制せられ、不況の際とて、土匪の害と共に商務に打撃を受くることが少くなかつた。

廣東鑄造の補助銀貨は、成分の粗惡なる爲めに價值低下したが、廣東中央銀行紙幣は、頗る人民の歡迎する所となり、江門開港以來廣く流通した。香港紙幣は、貿易上大取引には信用を博して居つた。當港には銀元の流通なく、香港紙幣及廣東補助銀貨の兩種が、本年流通の唯一の貨幣であつたが、元より銅錢も通用した。本年銅錢は下落し、補助銀貨一元に付き百五十枚から百六十枚の間に在つた。六月及八月の廣東補助銀貨は、香貨百弗に對して百二十九弗七五に當り、十一月末には百十六弗となり、上半期には銀貨市場緩慢で、利息又低かりしも、七月の北伐によりて市價變動し、當港からの軍費輸送が多くなり、銀貨拂底し、利息又昂騰し、米國及南洋群島に在る新會の華僑民から巨額の送金をしたが、萬一を挽救することは出來なかつた。



當地の蠶業は、天候不良の爲めに全然失敗し、桑葉は平時一擔銀二元乃至三元であつたものが、僅かに六角五分に下り、米の收穫も六月中の水災及十月の暴風の爲め、前年に比して第一期作は六十五「パーセント」、第二期作は四十「パーセント」に減退した。

外國品の輸入は、前年の四百四十六萬兩が百四十一萬兩に（再輸入を含む）下り、各種棉布・鐵條・鐵板・セメント等も減退し、卷煙草及燐寸は支那製品に壓倒され、卷煙草は南洋兄弟煙草公司及華商煙公司の製品が人氣を博した。

支那品の輸出は、前年の六十六萬兩が三十五萬兩に減退した。

船舶の入出港は、前年の千三百五十隻六十八萬九千噸が三百三十七隻十八萬七千噸に減退し、本年初三期中は、排英抵制の爲め、伊・米兩國船各一隻の外、入港船がなかつたが、抵制の廢止後、四隻の香港汽船が當港及香港間の定期航路を恢復した。

内水航汽船は、海賊の跋扈があつたにも拘らず、平年よりも入出港數を増加し、前年の四千五百四十二隻十萬八千噸が一萬三千二百七十七隻二十三萬七千噸に激増した。其主因は、當局が政策を變更し、軍隊の船隻封用を制限し、前に徵發した船舶は、本年中に多く復業せしめ、又緝私衛商局に納金し、保護を得た爲めである。

北海(廣東省)

北海は、前年十二月國民軍の當地占領に續いて排英抵制の勵行に依り、内外貿易は、前年の四百四十萬兩が約半減して二百三十萬兩となり、直接外國貿易は、四百十四萬兩が十分の一以下の三十七萬兩に激減した。殊に本年の如きは、只廣東・海防に對する貿易のみで、尙半減したのである。香港との交通は、香港及海防から郵便物を當港に當時運搬した佛國の郵便船が、罷工委員會に制止され、二月以來停止した。一方支那品の貿易は、稍豫期以上の結果があつたが、後北海及巨離遠隔の廣東港間汽船の航路は減退し、又春期廉州地方の疫病が當港に傳播し、死者枕籍の情態であつたので、印度支那政廳が、當港の寄港船に就て防疫の禁令を勵行した爲め、輸出は全然杜絶した。六月に海防の防疫は纔に禁を弛めたが、又當港に虎疫が発生した爲め、再び取締を嚴にし、漸く九月中旬に至り、始めて防疫を解除せるを以て、其後通商は漸く復活した。十月に停止した廣東の抵制も、當港は十一月に迨んで終熄し、廣東から派遣された糾察隊も解散され、十二月八日に迨び第一次に香港輸出を開始し、年末に輸出入共漸く復活したのである。然れども本年當地の生活程度は、各種貨物に對する新稅、例へば石油・烟・酒等の課稅があり、又教育費として料理店・茶店は一割を課徵せられた。是等各種課稅の外、各工會工人が強要する賃銀の値上があり、生活費は従前に比して約二割を増加した。本年米は、馬鈴薯及落花生と共に第一期作は豊收であつたので、海防米の供給を要しなかつたが、第二期作は稍不作であつた。



外國品の輸入は、前年に對して二百四十六萬兩を減退し、五十四萬兩に下つた。(再輸入を含む) 只棉縮緬・棉フラネル及棉布等に増進を見た外、他は皆減退したのである。

支那品の輸出は、又前年に比して五十四萬七千兩を増加し、六十三萬三千兩となり、就中從來香港に仕出した家畜類を始めとし、牛皮・桐油・麻袋・薪炭・紙類・爆竹等は、何れも減退を見たのである。反之支那品の輸入は、主として廣東仕出しであるが、前年に對して九十萬兩を増加し、百二十三萬兩に上り、就中蘇に於て増進を示し、從來香港から輸入した小麦粉は、廣東より入津した。其他各品の輸入を増加したのである。

船舶は、前年に比して九十三隻十六萬一千噸を減退し、三百二十七隻三十一萬五千噸に下り、海防・海口・香港及廣東に對する汽船は、佛及日本の汽船に依つて不定期の航通があつたのみで、他に二隻の諾威汽船が、數回寄港したが、年末には支那船に代つた。

## 瓊洲(海南島)

瓊洲は、前年に比して内外貿易が百七十一萬兩を減退し、八百三十萬兩となり、外國貿易は前年に比して五百八十萬兩を減退し、二百四十萬兩となつた。本年一月中は、商人は國民政府の定むべき制限を見越して貨物の取引を急激に増加した。二月六日香港に對する抵制を宣明し、同時に糾察隊は廣東から到來し、香港に對し取引を禁絶した。石油專賣を施行し、又油税を請負に附した爲め、

市價は一箱五弗から十一弗半に暴騰した。新税の徴收と糾察隊の干渉があつたので、アジア石油及スタンダード石油兩會社は、反抗手段として營業を停止した。其他重税を砂糖及麥粉にも課したので、益々日用品の價格を昂め、本島の重要産物である牛・豚・家禽の輸出は、杜絶した。二月末豚は飼養不十分の爲め、獸疫に依り斃死した。抵制の結果、廣東と直接貿易を開始するに及び、當港に寄港した總ての香港汽船は、其跡を絶ち、只時々一汽船が盤谷から來往した外は、海防・香港間航通の英佛及日本の三國船が只郵便物積卸の爲めに入港した。當地海外出稼移民の所得は、本島の重要財力の一であつて、毎年移民の帶回する金額は、二百萬元の多きに達したのであるが、消滅に歸した。軍事費支辨の爲め、諸種の課税を設けた外に、海口の總商會に對し、借款を籌備せしめたから、本港の商務は不振を極め、内地貿易は、國民軍に投降せぬ軍兵の鬪争や土匪の横行に依り、著しく阻碍された。尙五月初旬には又虎疫の流行があり、六月末には傳染甚しく、外海との交通を防止したので、香港・海防線の英國の二汽船及基隆・廣東・海防線の日本汽船は、當港の寄港を中止し、獨り佛の一汽船が二週間に一回寄港するのみであり、本島連絡の海底電信もなく、外部との交通は一時全然杜絶し、商人は營業上頗る苦痛を感じたのである。五、六月間に第二師所屬の兵士が、當港から北伐に出發した後は、別團の小數兵のみ交代註屯したので、防禦力を減殺し、自ら盜賊蜂起し、砲聲頻發し、海口附近に及び、海洋及内地河流の水寇亦猖獗を極め、八月中戒嚴を宣布し、多數の敵人、探偵及盜



賊を拘獲處決したが、香港に對する經濟絶交後も、依然として商業は不振を繼續し、糾察隊の活動は益々嚴密を極め、汽船の貨物を積取つた多數の船は、海關の検査前に拘留せられ、糾察隊は船中の税關吏に對し、銃劍を擬して威嚇した如き暴擧があり、石油專賣は、七月末に廢止し、石油特稅局を設立し、每箱大洋二元を徴したが、スタンダード石油會社は直ちに復業し、アジア石油會社は十月に及んで復業した。移民事業は、其間諾威船の活躍に依つて復興した。香港に對する抵制は、既に十月初緩和されたと云ふもの、糾察隊の活動は十月中旬迄で繼續し、次で擴大對英經濟絶交委員會の組織があり、其抵制主義の貫徹を圖り、十一月七日香港封鎖後、初次の佛汽船ブルボン號が、香港から貨物を積載し當港に入港した爲め、工會に拘留されたが、五日後に荷役を許された。其他香港から出帆した數隻の船舶は、沿途阻撓を受け、又陸地との通信を遮斷され、已むなく他處行貨物を積載して入港した。十一月六日には征收出產運銷物品内地稅局を設置し、附加税を盛に徴收した。同月末には船舶の香港及廣東から入港するもの漸く増加し、一方冬季當地に工會が相踵いで設立された。

商業凋零し、時局の不靖に依り、貨幣市場は逼迫し、兌換價值は終年高値を持し、廣東銀貨は、漸次市場に其跡を沒した當地鑄造の舊銀貨に代り、廣東中央銀行紙幣は極めて少く、只僅かに國民兩界の人員が廣東から携入したもので、二、三千元に過ぎぬ。本年香港銀圓の市價は、毎元約大洋の百

十元となり、大洋の最高價格は毎元約小銀貨一元一角五分、銅錢百七十五枚であつた。本年第一期米は七割作であつたが、第二期作は五割作に過ぎなかつた。

外國品の輸入は、抵制の爲めに前年に比して二百八十七萬兩を減退し、三百六十八萬兩（再輸入を含む）となり、外國品中の主たるものは、只廣東及汕頭から輸入するもので、棉絲・生絲及毛織物類の外は、何れも減退した。外米の輸入は、大豐作の爲めに前年の七十二萬二千擔が十一萬九千擔に激減した。ガソリンは四萬「ガロン」を減退したが、機械油は多少増加し、石油は約半減し、スマトラ油が減額の八割を占めて居る。セメントは道路及建築用として、前年の二萬七千擔が三萬二千擔に増進した。

支那品の輸出は、前年に比して百十四萬四千兩を減退し、二百萬兩となつた。本島の重要產品である牛・羊・家禽は、前年に比して約八割、生卵は約五割を減退した。反之輸入支那品は、抵制に依る外國品減退の結果、著しく好況にして、前年に比して二百二十九萬八千兩を増加し、二百六十一萬兩に達した。

船舶は前年に比せば、六十五隻二萬三千噸を減退し、一千六十七隻百十八萬七千噸に下り、英國船は罷工の影響に依り、三百四十四隻を減退したのに反し、佛國船は百八十八隻を増加した。

## 三 水（廣東省）



三水は時局の爲め、貿易は不況であつた。内外貿易は、前年の四百二十萬兩臺が百八十九萬兩に下り、外國貿易は、三千三百萬兩臺が六十三萬兩に下り、一九二四年に對しては十分の一以下に減退したのである。本年罷工の影響は、前年に比して一層甚しく、稅收の減退に至つては、當地開港以來の最低記録を示し、工潮の又己まぬ上に盜賊横行し、農商共に阻碍を蒙り、香港經濟封鎖の解決後、關係者の宣傳があり、商業界恐慌の虞の去らざるに、年終に至り更に政局不安は満ちて居つた。又本年の盜匪は猖獗を極め、一八九七年本港開始以來未曾有の情態であり、軍隊の引上後、遊匪四起し白晝尙横行し、本港内碇泊の船舶さへも刦掠された。(殊に著しき例は、廣三鐵道は、本年八月十三日土匪に襲はれ、多數の乗客は擄にせられ、又本年十月二十日汽船廣雄號は海關前に於て襲撃され、海關支那人監吏三名及船員一名は監船中制服の儘に拉せられ、年末迄で尙行方不明であつた。年末には其他海關隣家の商人數名も同一の運命に在つて、居所又不明であつた。)殊に三水下流の水道には、海賊船が充斥し、通航船から金錢を掠奪する目的を以て、各所に關所を設けて居り、其他工會は蜂起して衝突を起し、賃銀の増額を要求し、益々生活費を暴騰せしめた。

外國品の輸入は、前年に對して八十「パーセント」の二百五十八萬兩を減じ、六十萬三千兩に減退し、獨り米のみで百五十萬兩を減退したのは、西江上流地方の豐作を主因とする。外國棉絲は、殆んど輸入がなく、十番手乃至二十番手の上海製品が割安の爲め、當地紡績工場では、印度絲以上に需要

があり、現在には支那品が、凡て外國品に代つたのである。

前年末に石油專賣制を施行したが、本年六月十五日には之れを廢止し、毎十「ガロン」二弗の特別稅を公布した。其間石油は、民船を以て廣東に輸入した。香港貿易の恢復に及び、石油會社は再び三水に代理店を設置し、當地各商店は輸送の困難を免れた。直接運轉の回復後も、當地市場は又特別の影響がなく、特別稅を課徴したが、小賣市價を昂騰するに至らず、石油會社は僅少の利益で賣出して居た。露國油は、當地には需要がなく、石油の輸入は前年の五十九萬五千「ガロン」が四十一萬四千「ガロン」に減退した。其他多くの貨物も、廣東貿易に轉化した爲め、何れも其額を低下したのである。

支那品の輸出が、前年に比して十二萬二千兩を減退したのは、香港との交通斷絶の結果、同港に對する十五萬四千兩の減退に基くのである。而して直接輸出貿易の減退は、第四季の不況に因るのである。更らに香港梧州汽船會社は、本年第四季に船客及梧州輸出貨物の快速に輸送すべき奥地からの貨物、三水其他沿商埠の貨物を積取することを省略した爲め、當地から香港行の貨物は、著しき阻滯を來した。本年支那品の輸出中、最も減退したものは爆竹・茶葉であつた。

支那品の輸入は、前年に對して約七十「パーセント」の三十四萬八千擔を増加したが、主なるものは紗紙・牛皮等である。



船舶の入出港は、前年の百三十萬噸が八十九萬噸に減退し、就中英國船は六十「パーセント」の二十七萬噸を減退したが、一月から十月迄での香港通ひの定期船の減退に係るのである。是等船舶の十隻は年末に、十八隻は罷工前に航行を恢復した。廣東・梧州間の支那汽船は、廣西全省市場貨物の唯一の供給者であり、年初營業は稍利益があつたが、後汽船の逐次増加するや、船腹過多となり、僱用の小砲艦が沿途護送するから、費用を増加した。

梧州(廣西省)

梧州は、内外貿易額は前年に比して三百六十萬兩を増加し、一千七百二十九萬兩に上り、外國貿易額は前年の五百九十萬兩が四百五十九萬兩に減退して居る。當港の貿易は、又香港に對する經濟封鎖と工潮との爲め、活躍することが出来なかつた。海關收入の結果を見るに、一月から九月迄では十六萬九千兩であつたが、十月より十二月迄では十五萬九千兩を占めて居る。總貿易高は前年の一千七百十八萬兩が二千二百七十三萬兩に増加したが、新稅や罷工の爲めに阻害されなかつたなら、一層増進を示すべきであつた。

十一月一日に内地稅局が成立した後、南寧・梧州間の航務が殊に困難を感じたのは、香港に對する土貨が、梧州通過の際に入出港共に内地稅を課徴された爲めである。故に十二月には紙箔(禮拜紙)線香・爆竹及蠟燭の新稅に對する反抗運動があり、一般的罷工の計畫を煽動し、不穩の形勢があつた

が、官憲の彈壓に依り、實行されずに止つた。

廣西銀行は五月一日正式に成立し、二十仙の新銀貨を鑄造すると共に、巨額の新紙幣を發行し、舊銀貨は夏季の新紙幣に對して七「パーセント」乃至十一「パーセント」の割引となり、幣師改革の趣旨から、舊銀貨をば一律に收回し、造幣廠に送り、新幣の鑄造に供し、市場に流通する舊銀貨は、約百五十萬圓に達したが、九月末に至り唯半數を收回したのみである。同年を通じ、香港紙幣はメキシコ弗に對して價格高く、香貨と兌換するには、「プレミアム」が六圓乃至八圓となつた。

外國品の輸入總額は、直接輸入及沿岸輸入を合し、前年に對して百十萬兩を増加し、五百六十四萬兩に上つた。就中日本の棉布類・魚介類・白糖・アニリン染料・燐寸及米國油が増進を見たのである。支那品の輸出は、第四期の香港に對する桐油が倍加し、米の支那諸港に對する輸出が三倍し、輸出及再輸出を合せば、前年の七百二十萬兩が九百二十萬兩に上つた。

船舶の入出港は、十年來の最低記録を示し、前年の六十八萬九千噸が五十四萬一千噸に下り、米國船の外は、外國船は何れも減退し、殊に英國船は香港の封鎖に依り、著しく減退した。



## 第四章 香港貿易の漲落

## 第一序 說

香港は英國皇領殖民地の一に屬し、香港島（面積二十九方哩、周圍二十七哩）及對岸九龍附屬地（三平方哩）並に九龍半島の全部新租借地（三百平方哩）を總稱することが出來、香港の港灣は、同島のヴィクトリア市と九龍の尖端との間に在る約十方哩内外の區域を指すのである。

香港は、英國が領有した一八四二年の南京條約締結當時、海賊の巢窟と漁民部落とのみであつた。岩礁で固めた荒島であり、領有後數年間に互る難治の情を形容し、當時の新聞紙は、「天使と雖も香港に満足を與ふ事は出來ぬ」と評し、又本年（一九二七年）上海の「ノースチャイナ」、デリーニ「ユウス」紙發行の「China in Chaos」の中にも、「當時私人間の契約を以てせば、全島一千磅以下で賣買が出來たであらうと記して居る實情であつたが、其位置が歐亞及南北洋の樞紐に當る天然の良港であり、英國は東印度會社時代から得た殖民地統治の知識と經驗とに基き、八十有餘年間拮据經營の結果、今日の大をなし、恰かも猛虎の隅を負ふが如く、廣東其他支那内地の咽喉を扼し、東亞貿易の霸權を把持し、香港を足場にして其鵬翼を全世界に擴げたのであつた。某支那人は、「支那は英國に一の花崗岩を譲り渡し、その代りに黄金の山を受取つた」と云ふた。

香港の人口は、領有前の一八四一年頃には、僅かに數千人に過ぎなかつたが、條約當時には忽ち一萬五千人を算し、其後スエズ運河の開通があり、航通の發達と共に、大平亂其他支那内地動亂に依る移住民の増加があり、九龍半島租借の翌一八六一年には、約十二萬人（外人三千人）に上り、次で背域新殖民地租借の翌一九〇〇年には、約二十六萬人（外人一萬四千餘人）を占め、最近一九二五年には、總人口八十七萬四千餘人（外人一萬六千餘人）で、ヴィクトリア市丈で四十六萬五千人に達して居る。

香港は上海・神戸等の競争港と異り、背域地が未開發で、石炭・鐵等の産出もなく、又香港自體は土地が狹隘であり、地代の昂騰や其他工業上の條件に乏しいので、從來造船・精糖・セメント・ロープ等二三製造業の外は、工業の發達を見ないが、其位置の關係から、古來航業は香港の生血であり、自ら仲繼貿易は世界に冠たるものがある。即ち香港に輸入した貨物は、當地住民の消費に屬するもの及精製糖の原料等を除きなば、加工や製造されず、倉庫を経由して其儘輸出するものである。（仲繼貿易の發達した上海の如きも、近年内外品の仲繼高は、總額に對して四割以下の四億兩餘である。）是を以て香港の港灣設備中、最も發達したものは倉庫である。現在倉庫の收容能力は、約七十三萬噸を占め、上海を稍凌駕して居る。能く香港自體が一種の保税倉庫であり、又は手形交換所であると形容された。倫敦デイリーメール紙は、曾て「香港は世界一の港である。英國王冠の中で最も輝



く寶石である。世界過半のクリアリングハウスである。若し英國が香港を失はんか、倫敦の大半は破産に瀕する」と迄で讚した。

香港の歴史は、航運の歴史であり、香港領有後の二年目一八四四年には、入出港汽船は五百餘隻十八萬五千噸に過ぎなかつたが、二十箇年後には約十倍し、其後四十五年後の一九〇九年には、隻数は四倍し、噸數は十倍餘に上り、一萬八千七百隻二千萬噸臺に達し、ニューヨークと伯仲の間に在つた。(一九〇六年紐育は二千三十九萬噸、一九〇七年倫敦は一千九百七十五萬噸とす。)最近一九二四年には、最高三萬隻三千五百四十萬噸に上り、香港は商業上英帝國中の第二位に在り、船舶噸量から見れば、世界の最大港と云はれ、最近に於ても上海・神戸等を凌駕して居る。(一九二四年上海の外國貿易船は、二萬餘隻三千二百萬噸、同年神戸の外國貿易船は二萬九千隻一千五百萬噸であつた。)

香港貿易の發達は、船舶の入出港同様逐年發達したが、政廳の統計は、煙酒課税の必要を認め、輸出入監督局を新設することになり、即ち一九一六年及一九一七年に漸く之が編製を開始し、一九一八年に及び、始めて毎四半季報同年報の青書(Trade and Shipping Return)を發表した。但し最近一九二五年第四季報告からは、經費其他の都合にて之れが刊行を中止し、又別途出版の青書(Rise Book)に貿易統計を掲載せしも、簡略に失し、更らに昨一九二六年には同書中にも、全然貿易統計

を省略したので、其結果を知ることが出来ぬのを遺憾とする。尤も從來支那外國貿易額の三・四割内外を占めて居た、香港の對支貿易額に就ては、海關統計(Annual Report on trade)作製を開始した一八六四年以降の情勢は、之れを知ることが出来る。例へば一八六四年には僅かに一千八百萬兩であつたものが、十一年を経過した一八七五年には四千萬兩臺、一八八八年からは一億萬兩臺、一九〇二年には二億兩に上り、最近一九二一年には三億八千萬兩となり、一九二二年以降一九二四年迄では四億兩を突破したが、一九二五年からは三億兩臺に下つたのである。而して香港の總貿易高は、一九一九年以降一九二〇年が最高記録を示し、二億一千二百三十萬磅(正貨を除く)に達し、其後一九二四年迄での四箇年平均額は、一億三千萬磅を占めたが、一九二五年は時局の爲めに頓に減退し、上海と其位置を轉倒した。例へば前記の如く一九二〇年の貿易は、上海の直接外國貿易に對しては勿論、其内外總貿易に對しても、遙かに多額を占め、(上海の外國貿易額は五億一千萬兩で、香貨八億五千八百萬弗となり、總貿易額は九億一千萬兩で、香貨十三億三千萬弗となる。)一九二一年から一九二四年迄の平均額に於ては、香港は一億二千九百萬磅を占め、上海の同期平均の直接外國貿易額六億八千萬兩(香貨十一億七千萬弗)に對して稍上位に在つたが、一九二二年頃から、總貿易に於ては上海が優り、一九二三年上海は香港の一億二千三百萬磅に對し、十一億五百萬兩(香貨約十八億弗)に上り、一九二四年には香港の十三億五千萬磅に對し、上海の直接外國貿易額は七億五



千萬兩(香貨十四億八千弗)、總貿易額は十一億八千萬兩(香貨二十三億一千萬弗)に増加し、一九二五年には香港の七億六千八百萬磅に對し、上海の直接外國貿易額は七億三千八百萬兩(香貨約十五億弗)、總貿易額は十一億八千萬兩(香貨約二十四億弗)に達したのである。一九二六年には恐らく一層香港の貿易が減退したのに對し、上海の直接外國貿易額は最高九億五千萬兩、總貿易額十四億六千萬兩を占めたので、其差は蓋し大なるものがあるべきである。

第二 時局の影響

(一) 外國貿易の減退

香港に對する廣東經濟絶交の反響は著しいもので、罷工當初の一九二五年には、半箇年のみで貿易は約半減し、同年五月迄では毎月一千万磅以上のものが、六月には七百五十萬磅となり、七月には三百萬磅に激減し、八月には五百八十萬磅、九月には七百七十萬磅になつた。又同年の輸出は、前年の六千三百六十萬磅が三千六百十萬磅、輸入は、七千二百十五萬磅が四千六十萬磅に減退した。總額は、一億三千五百八十萬磅が七千六百八十萬磅に減退し、一九二一年乃至一九二四年の四箇年平均額の一億三千二十萬磅に對し、約四割を減退し、最高記録である一九二〇年の二億一千二百三十萬兩に比せば、約三分の一に激減して居る。一九二六年には、抵制期間は殆んど一箇年に亘つたので、下記船舶の減退に依つて見るが如く、更らに不況に在つたことは明かである。

重要貿易品中、棉布類及石炭の輸入は、下の如く減退して居る。

棉布類		(單位千磅)	
一九二四年	一九二五年	一九二五年上半年	一九二六年上半年
五、五七四	二、三〇四	六〇九	二五五
一、八九五	一、〇八五	一九三	四一一
一、六五二	一、〇〇二	九五二	
四九九	三〇一		
計	九、六一九		四、六九二
石炭			
一九二五年上半年	一九二五年下半年	一九二六年上半年	
一九二	二九三	二五五	
六〇九	二九三	二五五	
一九三	九五二	四一一	

棉布類は、香港方面にては近年日本品及支那品の活躍があり、漸次英國品を驅逐し、英國品は専ら毛織物及高級の加工綿布のみ餘命を保ちつゝあつたが、省港罷工の結果益々不況となつた。加工棉布中の五枚朱子又は八枚朱子等は、從來上海地方に需要があつたが、本年(一九二六年)は南支・香港方面にも需要を増加し、主に支那人の手に依りて取引を増加した。尙九龍染工場にては、日本生地棉布・晒金巾及ジーンズ等を加工染付し、各地に再輸出しつゝあるに至つた。次に本年(一九二六年)の棉絲市況を見るに、罷工の外に銀塊の暴落及棉花安の爲め、下半季には香港棉絲の取引頗る困



難となり、同品の輸入商及問屋は、共に疲弊の極に達し、殊に問屋筋は殆んど全滅の情態となり、從來香港を経由して廣東及南方暹羅等に對したものは、直接上海及日本の原産地と取引を開始するに至つた。上海絲は最大の需要地である長江が、動亂の爲めに閉鎖し、相場低落し、之れに銀安及上海宛外國爲替が有利な結果、當地に在つても日本絲及印度絲を壓倒し、日本絲は漸次不況となり、印度品の如きは全然其跡を絶ち、印度商館の閉鎖したものが甚だ多く、年末に於ける棉布市場は、上海品(主として日本人紡績工場産品)の獨占となり、只日本からは四十二番手物が少量に輸入されたのみである。其他麥粉は、前年の百六十五萬五千磅が二百三十萬磅に減退し、食糧品は米を主となし、佛領印度支那から輸入したが、前年の八百萬磅が四百五十萬磅に下り、砂糖を主とする食糧品は、蘭領印度から入津したが、之れ又前年の七百九十萬磅が二百六十萬磅に減退して居る。

國別貿易に於ては、支那を首位となし、英之に次ぎ、其他米・糖關係があるから、佛・蘭兩印度を主として居るが、著しく減退して居ることは、左表の通りである。

(單位千磅)

輸出 入別	一九二四年		一九二五年		一九二六年	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
英(屬領を含む)	六三二五	一六四四六	三五二八	八四八九	一五二四七	四〇、七五〇
日	三、五二五	九、二一八	二、四三九	五、〇〇六	四、五八八	二、三六八
計	九、八五〇	二五、六六四	五、九六七	一三、四八五	一九、八三五	四三、一一〇

米(屬領を含む)	一九二四年		一九二五年		一九二六年	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
支那	三九、二八一	九、一五二	二二、〇四六	六、〇三七	五、二一八	一四、六六七
佛領印	一、〇五四	九、四五六	六、七	三、七三〇	一、八五四	一三、〇八二
蘭領印	五、二二五	一一、三二四	三、〇二二	六、五八七	九、二五五	一九、三〇八
暹羅	二、五三三	六、二六三	一、六五七	四、七三二	一、八〇九	一、四七四
其他	一、七五五	三、八四六	一、五二一	一、九八二	八、八八九	一、二一九
合計	四、〇七九	六、五九九	二、二二八	二七、〇八三	一四、五四三	二六、三三七

如上前年に比して何れも減退し、例へば英・日・米・支は各四割餘、蘭領印度は六割を減退して居る。而して前記對支貿易中の輸入額は、香港統計表が汕頭以南の支那諸港及澳門からの礮石及煙草を除くの外、汕頭・廈門及福州仕出貨物の一部を除外して居るから、實際額よりは甚だ少額である上に、頗る不精覈である。今香港貿易統計上の支那よりの輸入額と、支那海關統計上の香港に對する輸出額とを比照せば、下の如く差違があり、如何に南支各港よりの輸入が多額なるかを知るに足るのであ

(單位千磅)

香港統計の支那よりの輸入額	海關統計の香港に對する輸出額
一九二〇年	四六、〇五五
一九二四年	三三、〇二四
一九二五年	一九、五九六
一九二〇年	(一三六、四六二)
一九二四年	(一七三、一六一)
一九二五年	(一一四、七一四)



(二) 船舶入出港の減退

る。船舶(戎克を含む)の入出港は、最近一九一九年から總數に於ては、四萬隻二千萬噸を突破し、逐年増加し、一九二四年には最高五萬七千隻三千八百萬噸臺に上つたが、當港罷工發生の一九二五年には減退し、四萬隻三千九百九十九萬噸となつた。航洋汽船の如きも一九一九年には、九千隻千四百四十萬噸臺が漸次増進し、同じく一九二四年には最高一十二萬隻二千六百九十萬噸に達したが、一九二五年には九千六百隻二千三百萬噸臺に下つた。就中英國航洋船は、一九一九年には三千八百隻六百八十萬噸が一九二〇年には四千五百隻八百三十五萬噸臺に上り、一九二四年には更に増加して五千二百隻一千八百八十萬噸に上り、遂に一九二五年には三千九百隻九百八十六萬噸に下り、一九二六年には一層低減した。船政局の發表に依れば、一九二六年香港の外國貿易船は、前年に比して一萬隻以上三百五十萬噸餘を減退し、三萬隻二千八百萬噸に下り、殊に英國航洋汽船は五百十一隻六十萬噸、外國航洋汽船は千二百九十五隻百七十二萬噸を減退した。但し英國河航汽船は、廣東及西江の航通が稍恢復した爲め、二百十八隻一萬八千噸を増加したが、外國河航汽船は、千隻三十四萬五千噸を減退した。同年航洋汽船・河航汽船等の一日平均入港船數は、一九二四年の四一二隻、一九二五年の二八九隻に對し、二〇・八隻に下つて居る。今最近三箇年の入出港外國貿易船の國別對照表を掲げば、左の通り増減がある。

(單位千噸)

國籍	一九二四年		一九二五年		一九二六年	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
英	一二,四一七	一八,三六九	七,九七四	一五,三二二	七,六七七	一四,七三〇
米	六二七	二,九八二	四五二	二,七五二	四七三	三,〇二五
支	三,〇六二	一,六六一	一,二八二	九二五	一,三七九	五八六
支 (戎克)	二七,五二五	三,二九八	二〇,九四七	二,四五二	一五,〇二七	一,三八八
和	五一九	一,五九六	四六六	一,四八七	四六二	一,五六八
佛	五八二	一,一七一	三五三	八九九	二一六	八九二
日	二,六四四	六,四二三	二,三二〇	五,六四二	一,五〇〇	四,四九二
諾	七六二	八七二	五七七	六四六	二二九	三〇五
葡	六七七	二二二	二九一	一〇六	一二三	五三
獨	一五五	六二四	一五四	六五八	一八〇	六七一
六十噸未満の汽船	七,八三一	二二二	五,三八六	一六五	二,八二九	八七
其他	九六四	一,三二〇	五二三	八八八	七三六	五七四
合計	五七,七六五	三八,七七〇	四〇,七〇五	三一,九四一	三〇,二三一	二八,三七一

一九二六年十月十日雙十節の省港罷工廢止後と雖、尙實際の貿易は恢復するに至らず、只十一月から石炭・棉絲等の荷動が多少あつたのみであるが、一日の平均入港船は、八月頃の一〇・六隻が十一月には一二・五隻に上つた。(小蒸汽船を含まず)

(三) 其他經濟上の影響



(イ) 罷工に依る損失高

廣東抵制の結果に關し、支那側の宣傳の一例として、省港罷工概觀(鄧中夏著)には、罷工一箇月の損失は一億二千萬元、一日の損失は七百萬元に當り、而して香港出入貨物の四分の一は、中國の北部に往き、四分の一は南洋の各埠に向ひ、其他の四分の二は中國の内部に出たので、罷工後は此四分の二が總ての損失額に當り、即ち香港毎日の損失高は、三百五十萬元を占め、罷工以來現在(四月)に至る迄での損失額は、少くとも十億元に達すと云ふて居る。又廣東實業公司澁谷氏の調査書に従へば、罷工以來一箇年間の損失は、海運・貿易・土地・家屋・有價證券其他から減損高を推算して二億五千七百萬弗とし、廣東側の損失を加算せば、二億八千四百萬弗として居る。計算の基礎は、海運は減少額に付、毎噸香港側を七・二五弗、廣東側を五弗とし、貿易は一割とし、土地は二億弗に對する四割減、家屋は一億五千弗に對する三割減とし、有價證券は、各株式會社資本金一億弗の二割減と見積つたものである。

(ロ) 商店の破産

前記省港罷工概觀に依れば、十一、十二兩箇月(十四年)に倒閉した商家は、三千餘家に達し、政府(香港)借款三百萬磅の救済資金も、杯水車薪の譬で用を爲さず、現にロンドン議會でも、此借款は只香港の危機を一時救済するに足るのみ、と討論があつたと説いて居る。

澁谷氏の調査書に依れば、一九二五年七月以來一箇年間に於ける香港商店の破産は、一千五百六十二件で、金額は六千萬弗に達する。(政廳は異常の例として、破産の宣告を留保した。)土地・家屋の價額下落に伴ふ金融業者の蒙る打撃も少くない、破産者中には、多年香港支那銀行界に信用のあつた滙美銀行(破産額百五十萬弗)、錦榮銀行(破産額八十萬弗)を始めとし、破産高十萬弗以上のもの約百餘件、五萬弗以上のもの約百八十餘件に及び、支那銀號の破産は五割に達する。

又支那新聞には、一九二六年の市況に就き、香港全埠には中外大銀行二十六、金銀號百八十、中外商人の輸出入洋行二百三十餘、其他の商店は十餘萬軒を下らぬが、洋行業は、四年前の三百軒以上ありし平年には、商務が甚だ發達したが、一昨及昨の兩年(一九二五・六年)は、省港間の交通梗塞せし爲め、洋行は大打撃を受けた。蓋し外國貨物として棉布類・銅・鐵・雜貨等は、已に廣東内地に運搬して需要に供することが出來ず、商務は之に因つた阻滯すること多く、小規模の洋行は、支持の力無くなりて、倒産するもの百餘軒に及び、昨年(一九二六年)冬季中の實地調査の結果に依れば、商店の存在するものは、僅かに二百三十餘軒に過ぎぬと。故に同年上半期の商況も、亦想像に餘りがある。交通の恢復後に、廣東省には尙排貨風潮以外に、二五課稅新設もあり、洋行の營業を不振ならしめたと記してある。

(ハ) 地價の暴落



香港及九龍の市街地の平均地價は、十平方呎三十一弗内外であつたが、(華字日報)罷工後數箇月間に、商業地は三分の一、住宅地は三分の二の値下となり、尙買手がないので、不動産擔保の金融が梗塞し、家屋も亦下落した。一九二六年四月の支那新聞に依れば、空屋千二百八十戸、空貸間二千六百二十四室に上り、新築家屋の六割以上を占めたのである。省港罷工概覽には、地價は五割、家賃は四割方下落したとある。

(二) 株券の下落

罷工の結果、倉庫業・金融業に反響があり、古來信用を博し、牢固たる地盤を有していた香港上海銀行株券の如きも、一九二五年六月二十二日現在の一千二百九十元が、十月十九日には一千二百四十元に下り、即ち約一割一分を抵落し、九龍倉庫の株券は二割下落し、其他諸種事業の株式價格は、下の如くに墜落して居た。

海運業	一九二五年 六月十二日現在	一九二六年 十月十五日
ダグラス汽船	五四、〇〇	三〇、〇〇
香港廣澳汽船	二八、〇〇	二九、〇〇
香港 曳船	四、七五	二、〇〇
印度支那航業	九〇、〇〇	四二、〇〇
スターンファイリー	八七、七五	六七、五〇

中國精糖	一九二五年	一九二六年
香港九龍ドック	一九一、〇〇	一二七、〇〇
香港黃埔ドック	一一四、〇〇	五七、〇〇
土地建物業其他	八八、〇〇	六五、〇〇
香港 土地	四、一五	二、二五
香港コンストラク	二一、〇〇	一一、〇〇
青島セメント(舊株)	七九、〇〇	六七、〇〇
香港 電燈	一八、〇〇	一〇、〇〇
香港ロープ	四〇、〇〇	二六、〇〇
香港 電車	二一、〇〇	一五、七五
ピーク電車		

(ホ) 物價騰貴

食糧品の平均物價は、香港青書に依れば、罷工開始の一九二五年は前年と同様であつたが、一九二六年に至つて稍昂騰し、勞銀も一九二五年は、前年に比して昂騰したが、一九二六年と大體同じく、左表の如く、廣東其他支那市場に比し、著しき變動を認めぬのは、香港政廳の香貨引上、其他人為的政策が主因をなして居る。

食糧品

麥粉	五十封度入袋	一九二四年	一九二五年	一九二六年
		三・八〇	四・五〇	四・一〇
		同	上	同

第四章 香港貿易の漲落



麵	麵	五十封度入袋	〇・〇九	〇・一二	同	上	〇・二〇	〇・一四
牛乳	一	パイント	〇・一五	〇・三〇	同	上	〇・二〇	〇・三〇
バター	一	封度	一・二〇	一・六〇	同	上	一・六〇	一・八〇
チーズ	同		〇・八〇	一・七〇	同	上	一・二〇	二・〇〇
牛肉	同		〇・二五	〇・三六	同	上	〇・二八	〇・四五
同	同	濠洲冷蔵肉		〇・四五	同	上		〇・五〇
同	同		〇・三〇	〇・三九	同	上	〇・二八	〇・四五
同	同	濠洲冷蔵肉	〇・四〇	〇・五〇	同	上		〇・五五
豚肉	同		〇・二二	〇・三五	同	上	〇・三六	〇・四〇
同	同			〇・四〇	同	上		〇・四〇
米	同		〇・〇六	〇・〇九	同	上	〇・〇七	〇・一二
珈琲	一	封度	〇・三五	〇・四五	同	上	〇・三五	〇・四五
茶	同		〇・五〇	一・〇〇	同	上	〇・七〇	一・八〇
砂糖	同		〇・一六	〇・二〇	同	上	〇・一六	〇・二〇
食鹽食用	二	封入一壘	〇・三〇	〇・四〇	同	上	〇・五〇	〇・六〇
葡萄酒	同		一・六五	一・四五	同	上	二・四〇	一・五四
ブランデー	同		二・七五	一・三三	同	上	三・六〇	一・五四
麥酒	一	パイント	三・三〇	五・〇〇	同	上	三・六〇	一・六〇
煙草	一	封度罐入	二・八〇	六・四〇	同	上	三・二〇	七・二〇
同	同	其他	〇・二五	〇・三五	同	上	二・〇〇	三・五〇

勞 銀

鍛冶工	外人雇用のもの	一九二四年	一九二五年	一九二六年
支那人雇用のもの	〇・九〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇
大工及指物師	賄及問付	〇・六五	〇・八〇	一・〇〇
佐官及屋根職	賄及問付	一・〇四	一・二〇	一・二五
塗物師	賄	〇・六五	一・二〇	一・二〇
人	夫	〇・四〇	〇・四〇	〇・四〇

(四) 香港政廳財政上の影響

香港政廳の歳出入は、省港罷工事件に依つて著しく打撃を受け、歳入は時局前の一九二二、四年の二千四百萬弗臺が、時局發生の一九二五年には二千三百萬弗臺に下り、一九二六年には更に二百萬弗臺に減退した。歳出は、一九二五年には前年に對し、百六十萬弗を増加し、最高額の二千八百二十萬弗臺に達したが、一九二六年には二千三百五十萬弗に減退した。即ち一九二三年以前には、剩餘があつたが、其後歳入不足となり、一九二四年の不足額二百五十萬弗に對し、一九二五年には五百萬弗に達し、一九二六年には稍減退して二百四十萬弗となつた。

歳入中注意すべきものは、噸税に該當する船舶の燈臺税は、罷工に依る船舶減退の結果、一九二



四年は三十一萬六千弗に達せしが、一九二五年は二十六萬五千弗に下り、一九二六年は更らに二十三萬八千弗に減退し、阿片收入は、一九二三・四年は五百萬弗を超過して居たが、一九二五年には抵制の外に支那及澳門阿片の侵入があつた爲め、三百三十九萬弗に下り、一九二六年には更らに五十六萬弗を減じて二百八十三萬弗に減退し、土地の拂下は、好景氣時代の一九二三年には三百四十八萬弗、一九二四年には百九十萬弗に達したが、一九二五年には五十七萬弗に下り、一九二六年は更らに二十八萬六千弗に激減し、官設浮標使用料は、一九二四年には十萬弗を超過して居たが、一九二五年には稍減退して九萬弗臺となり、一九二六年には七萬二千弗に下り、休日荷役手數料は、一九二四年には十六萬三千弗を占めたが、一九二五年には十一萬九千弗に減退し、一九二六年には八萬弗に下り、利子は一九二四年に七十二萬弗、一九二五年に六十一萬弗を占めたが、一九二六年には二十三萬七千弗に減退した。是等は、何れも時局の影響を受くることの大なるものである。

印紙税は、前年の五百七十萬弗に對し、約半減して二百九十萬弗に下つたが、之れは前年大地所に課税した反動的事情に基くのである。反之廣九鐵道の旅客運賃收入が、前年の三十四萬弗に對し、四十五萬弗に増加したのは、航通障害の結果も、亦一因をなして居る。

第三 對支貿易と香港の地位

香港は支那大陸に接し、地理上支那の一部を構成し、又香港殖民地全部の人口八十七萬中、大部は支那人で、外人は僅か二「パーセント」の一萬七千人であり、英人は其半數に満たぬ特殊地域であつて、支那に對する伸繼貿易は、從來多きときは半額に近き數を示し、支那に於ける英國の商勢力を優勝ならしめて居たが、其對支貿易の歩合は、日本及上海其他大連・北支諸港の貿易が發達したの

で、漸次相對的に減退し來り、新に省港事件に依つて、絶對的に減退したものである。香港の對支貿易に就き、一八六五年以降一九二四年迄での六十年間を六期に分ち、平均額を比較せば、左の通りである。

支那外國貿易額	香港對支貿易額	同上 百分率
第一期自一八六五年至一八七四年	一三四	三〇
第二期自一八七五年至一八八四年	一四七	四五
第三期自一八八五年至一八九四年	二一八	九八
第四期自一八九五年至一九〇四年	四三一	一八一
第五期自一九〇五年至一九一四年	七七七	二五三
第六期自一九一五年至一九二四年	一、三〇八	三二九

(單位百萬兩)

香港が對支貿易上の中心市場となつたのは、主として一八八五年から一八九八年頃迄であるが、



又一八九三年以來は、香港・支那間の民船貿易をも對支貿易中に加算し、其他香港貿易の伸張に依り、前表の如く對支貿易額は、第三期には第二期の二倍以上となり、反對に英本國及印度の對支貿易は、香港に吸収されたので減退した。第四期も亦第三期に對し、倍額に近く増進したが、百分率は、第三期は第二期に對して約五割を増加したのみであり、第四期は第三期に對して却つて減退を呈し、第五期の對支貿易額は、第四期に對して約三割五分、第六期は第五期に對して約二割四分を増加したが、百分率は一層減退して居る。一方支那貿易は、第三期から急に増進を示し、第四期は第三期に對して倍額に近く、第五期は第四期に對して八割以上、第六期は第五期に對して約六割七分を増加して居るが、之れは香港以外の對支貿易の發達を物語るものである。而して殊に一九二五年の香港對支貿易額は、前年の四億一千七百萬兩に對して二億九千一百萬兩に減退し、百分率は一割六分となり、一九二六年は更に減退して二億一千八百萬兩に下り、百分率は僅かに一割餘となり、全盛期の四分の一にも達せぬのである。尤も一九二五年に減退した一事由は、海關統計に於て、從來香港を貨物の出入港名としたものが、實際の原産地又は到達地に改めたものがあり、現に新嘉坡、海峽殖民地又は印度等の對支貿易が、殊に増加したものがあるとした海關報告書 (C. M. C. Foreign Trade of China 1925 part I. p. p. 25-6) の説明は、閑却し難いが、時局に依る減退と比較すべき程のものではない。

列國の對支貿易上、香港の占むる地位を見るに、一八七〇年頃から一八八〇年頃迄では、香港は英本國に及ばないで、例へば香港の對支貿易は、一八七〇年の二四・六「パーセント」、一八七五年の二九・四「パーセント」なるに對し、英本國は各四四・七「パーセント」、三六・七「パーセント」を占めた。次で香港貿易の發達した一八八〇年頃からは、漸く英本國を凌駕することになり、一八九〇年には、英本國の一七・六「パーセント」に對して四九「パーセント」に達し、其後多年第一位を占めて居たが、近年日本の貿易が増進するに従つて、香港は最近一九二〇年頃から日本の次位となつた。一九二〇年は、日本の三二「パーセント」に對して二二・六「パーセント」に過ぎぬこととなり、一九二六年には、日本の三〇・二「パーセント」に對して約三分の一の一〇・九「パーセント」に下落し、米國に比しても遙かに下位となつた。即ち日本は、既に一九二〇年から第一位となり、一九二五年から日・米・香の順位となつた。

今一八七〇年以降毎十箇年及最近の國別貿易の歩合を示さば、下表の通りである。

年	次	英本國	香港	英印	海峽殖民地	カナダ	英及香港其他屬領計	日本	米國
一八七〇年		四四・七	二四・六	一五・〇	〇・八	〇・一	八五・二	三・一	六・七



一八八〇年	三一、六	二九、八	一三、八	一、一	〇、一	七六、四	三、六	六、五
一八九〇年	一七、六	四九、〇	五、三	一、五	〇、五	七三、九	五、七	五、五
一九〇〇年	一四、八	四二、六	五、三	一、三	〇、三	六四、三	一一、〇	八、五
一九一〇年	一〇、六	三三、二	五、七	一、六	〇、二	五一、四	一七、〇	六、七
一九二〇年	一三、五	二二、六	三、一	一、八	〇、六	四一、六	三一、〇	一六、一
一九二一年	一二、〇	二五、四	二、九	一、八	一、八	四三、九	二七、一	一七、六
一九二二年	一〇、八	二五、五	三、三	一、四	〇、六	四一、六	二六、四	一六、七
一九二三年	九、六	二四、九	四、〇	一、六	〇、七	四一、一	二六、六	一六、八
一九二四年	九、七	二三、〇	二、八	一、五	〇、九	三八、六	二六、四	一六、五
一九二五年	八、一	一六、七	三、五	一、九	一、五	三〇、九	三〇、五	一七、〇
一九二六年	八、六	一〇、九	四、八	二、〇	一、三	二七、八	三〇、二	一七、四

從來實際上、各國の對支貿易の優劣を比較するに當つては、殖民地及屬領を包含したものを擧げ、例へば英國は本國の外に香港其他印度・新嘉坡・加奈陀等を加算し、米國は比島及布哇を加算し、日本は朝鮮及臺灣を加算することゝしたから、英國の對支貿易は、香港あるがため、今日迄で列國の冠冕であり、英國は約七十年間、支那海關管理の牛耳を執り、殊に一八九八年二月英國使臣のE. O. Mac Donald と總理衙門慶親王との間に於いて、貿易の優勢を條件として總稅務司の地位を確保し來たのである。例へば英國は一八七〇年には八五・二「パーセント」を占め、其後一八九〇年代頃迄で

は、稍減退しても尙七六「パーセント」以上であつたに對し、同期日本は、僅かに三「パーセント」乃至五「パーセント」、米國は六「パーセント」内外に過ぎなかつた。然るに日清及日露戦争後、日本の貿易は頓に増進し、歐洲戦争當時一九一五年は、英國の四八「パーセント」に對して一七「パーセント」となり、米國を超過し、一九一八年には戦時の特殊事情に依り、英國の三十七・八「パーセント」に對して四〇「パーセント」に達し、其後一九二五年迄では、再び英國の下位に在つたが、一九二六年には遂に首位を占めたのである。米國は歐洲戦争後、約一六「パーセント」乃至一七「パーセント」餘に上り、第三位を占めた。

三

然るに香港の貿易は、大部他國の通過貨物の取次を爲す仲繼に屬すと同時に、列國の對支貿易は、香港に攤入されて英國の貿易として計上されるものが多く、一九一八年前には、貿易統計をも發表せなかつたので、香港は貿易上スフィンクスであると評し、外人中に於ても例へば H. B. Morse や C. F. Renner 等は、香港がある爲めに對支國別貿易は不明であり、又は不備であると云ふて居る如く、從來より香港貿易中から、列國の對支貿易の分前を見る方法が講せられた。Morse は香港を政治上の見地からせず、支那の通商港として取扱ひ、列國の對支貿易の割合に従ひ、對香港貿易の分配を決定すべしとなし、曾て海關統計局長であり稅務司であつた英人 F. E. Taylor は、海關改革意見書



に於て、一九一七年度英國の對支貿易は、日本のそれに對して僅かに六千六百萬兩を超過したのであり、若し英國の總額から英國の原産でない香港の輸入品に對する數字を控除し、更らに日本の對香港貿易の配當(直接支那貿易の割合に比例し)を日本の總額に加算せば、過去に於ける英國の優越權は、既に亡びたと認めてよいのである。即ち一九一七年の海關統計に依れば、英國の對支貿易額四億一千三百萬兩(香港の二億七千四百萬兩を含む)に對し、日本は三億四千七百萬兩であるが、今英國の總額から、各國の割當額を内輪に見積りたる一億四千二百萬兩(日本四千萬兩、支那四千三百萬兩、米三千九百萬兩、其他二千萬兩)を控除せば、二億七千一百萬兩となり、若し日本に四千萬兩を加算せば、三億八千七百萬兩となり、英國よりも一億一千万兩餘を超過することになる。其他ダブリン、エス、リッチと云ふ人も、同種の方法を以て、一九〇九年以降一九一八年迄十二年の平均を探り、香港の割當額を算定し、英國の貿易額を修正し、各國の貿易額に加算し、一九一七年には英國の三〇・五「パーセント」に對し、日本は三四「パーセント」となり、一九一八年には英國の三〇「パーセント」に對し、日本は四〇「パーセント」なりとした(『The Far Eastern Review sep. 5, 1919. p. 61-67』)

以上は何れも香港統計の發表されなかつた當時の推定に基き、固より精數を期し難し。今一九一九年以降一九二五年迄の香港統計を基とし、同期間英國よりは香港の貿易額を除外し、英・日・米の

對支貿易高に、國別對香港貿易の割前を加算し、三箇國の對支貿易額を見れば、左記の通りである。

年	英		日		米	
	總貿易に對する百分率	(單位千兩)	總貿易に對する百分率	(單位千兩)	總貿易に對する百分率	(單位千兩)
一九一九年	二六三・七〇八	二〇、一	五一一、〇六二	三九、〇	二四四、四〇五	一八、六
一九二〇年	三二八、九三一	二四、五	四二八、三八五	三一、九	二四九、六八六	一八、六
一九二一年	三三七、六〇六	二二、〇	四四七、九二三	二九、一	三〇五、六八七	一九、九
一九二二年	三四三、三三五	二一、〇	四五八、九四六	二八、一	三〇八、九七〇	一八、九
一九二三年	三四三、三一七	二〇、一	四八九、九二六	二八、七	三二〇、五〇三	一八、八
一九二四年	三五一、五九三	一九、四	五一五、八三五	二八、四	三三二、六七九	一八、三
一九二五年	二九三、二一九	一六、八	五六〇、〇〇九	三二、一	三一九、〇四四	一八、三

更らに香港入出港の各國船舶噸數を基本となし、對支貿易高を觀察するに、國別對支貿易額に就き、香港入出港國別船舶噸量の比率を以て、支那の對香港貿易額の各割前を加算せば、下の如くである。

年	英		日		米	
	總貿易に對する百分率	(單位千兩)	總貿易に對する百分率	(單位千兩)	總貿易に對する百分率	(單位千兩)
一九一九年	三五七、八〇〇	二七、三	五三九、五七四	四一、二	二三〇、一四九	一七、六
一九二〇年	四一四、七〇六	三〇、九	四六〇、九二二	三四、四	二四〇、八一二	一八、〇
一九二四年	四七六、七一八	二六、三	五五三、三七二	三〇、六	三三二、六七九	一八、九
一九二五年	三八六、三四七	二二、二	五八三、二九一	三三、五	三二一、九五四	一八、五



第四 香港貿易の將來

香港の貿易は、前述の通り省港罷工事件に依り、劃時的打撃を蒙り、一九二五年半箇年の抵制の結果、約半減し、一九二六年は十月に至る迄で同一境遇の爲め、更らに減退を示し、香港政廳は、統計を發表せざるが如き情形であつたが、同年末から英國船舶の航通は恢復し、廣東方面に移轉した支那商人が、次第に香港に歸來し、即ち貿易の系統が漸次舊地位に恢復した爲め、本年（一九二七年）は、前年に比して恐らく増進したものである。而して、大局から打算して、香港經濟上の勢力は、英國が銳意八十有餘年に亘つて建設したもので、地盤は極めて鞏固である。殊に左記事情の下に在るから、這次支那國民革命運動の進展を見ると雖、短期間に其目的を達することは、蓋し困難である。

(一) 國民政府は分解作用を起し、反帝國主義政策が統一を失ひ、實行が容易でないこと。  
 (二) 動亂の頻發する爲め、香港は上海其他の租界に比して一層安全の地帯となり、支那商民の避難處たるに適して居ること。

(三) 香港は、自然的良好の港灣であり、其倉庫・棧橋・船渠等の設備及銀行其他海運貿易助長の各種機關が完備し、運賃其他港灣關係の費用が低廉である。一例を挙げれば、昨年（一九二六年）日本より船舶に石炭を滿載し來れる時を除けば、雜貨の協定運賃は、香港揚での一等五元、二等七元に對し、廣東揚は一等八元、二等十一元であつた。

(四) 香港上海銀行は、數十年來信用を博し、中南支金融界の權威であり、時局發生の一九二五年十二月末現在に於ても、流通紙幣の四千五百萬弗に對し、準備金は三千三百萬弗に達して居り、省港罷工後より今日に至る迄で、香貨の兌換率を人為的に高め、例へばメキシコ弗に比較するに、一九二四年末は墨銀が邦貨の一圓五十二錢であるに對し、一圓四十六錢であり、一九二五年末は墨銀が邦貨の一圓三十二錢であるに對し、一圓三十六錢に上り、一九二六年には墨銀が邦貨の九十二錢であるに對し、一圓を超過したのである。時局中にも廣東市場には二、三千萬弗の流通があり、之に對して廣東中央銀行は二、三千萬弗の紙幣を發行し、準備金は二百五十萬弗ありと誇稱したが、頗る疑はしく、香貨を排除せんと試みたが、毫も其効果がなかつたのである。

(五) 時局中、廣東に移轉した商人にて、例へば米穀商の如きは、廣東にては支那舊式の長期取引の爲め、資金の恢復が出来ぬ不便があつたことである。  
 (六) 香港を死港とする目的を以て、孫文以來計畫せる、黃埔の築港は黃埔の地位が香港との關係上、世界的の港場に適せず、完全な築港をなすには莫大の經費を要し、支那政府の力を以てしては、到底見込がない。

然れども香港の現情は、時局の影響に依つて相當打撃を蒙り、今日尙恢復期に到達しない様である。予は本年（一九二七年）一月香港大學教授ミッドルトン、スミス氏に面會し、經濟絶交に關し意



見を交換したとき、同氏は外國會社にて時局の爲め、破産したものはないが、支那人商社は多く倒産した。今後數年の中には、更らに大打撃を與ふべきものがあると云ふた。殊に從來英國貿易の大宗品であるマンチエスターグーズは、日本品及支那品の爲め、漸次市場から驅逐されつゝ、あつた矢先、這次抵制に依り、益々悲境に沈淪した。本年（一九二七年）香港に於ては、貿易の復活に就て攻究する所があり、年初香港のサウス・チャイナ・モーニングポスト紙は、日本棉絲布の勢力に對し、英國品は將來印度及支那に工場を設けなければ、日本品の優良で安價なものと競争が出来ず、現に英國の事業家は、棉製品工場を上海に建設せんと計畫中である。之れに依つて安價な日本品よりも優良品を供給する見込があると云ひ、本年七月頃、香港の支那商業會議所に於ては、抵制及罷工の廢止以來、商業上の發達を阻害すべき眞個の原因に就いて討究する爲め、執行委員會を開催し、八名の委員を任命し、香港貿易の振興を圖つた。

同じく支那商業會議所の月例會に於ては、香港政廳は、貿易の助長に就て積極的に適當の救濟方法を採るべきである旨を決議することにした。曩に同商業會議所は、香港の各種商業團體に對し、回狀を發送し、貿易の恢復に關する意見を徴し、十一團體から回答に接した。其意見中、多くは廣東總工會の抵制を掲げて居り、就中省港河航船に使用され居る横暴な船員の如きは、既に香港海員協會支部にて保護せぬから、之を解雇し、代ふるに排英運動中、罷工を防止することに功績のあつ

た海員を新に雇入るべき旨を論じ、支那銀行協會は、貿易の衰頹は一に商人自身の不信用にありとしたり。即ち罷工前には、貨幣は香港に豊富にあつたから、現在も香港の金融上の地位は強固であるが、只事業界の信用がないと主張し、或は政府の援助がなくなれば、通商の恢復も不可能事である、香港政廳の収入源は、多數支那人の納入する各種課税から成るから、此際政府は支那商人を救済する義務がある旨を述べて居る。

又同商業會議所は、市況挽回の爲め、或は特に商務維持委員會を組織し、又は當地有力の商民發起となり、博覽會を開催し、支那の各地其他諸外國から特産品を蒐集陳列し、貿易の助長に資し、更らに右會期中は一大巡行をも舉行し、廣く之を宣傳する計畫があると云ふ。



## 第五章 臺灣の支那貿易

### 第一總説

臺灣の對外貿易は、數十箇國に亘るが、支那を巨擘とし、米國・蘭領印度・英領印度・香港・英國等が之れに次ぐ。當初は主として對岸の福州・廈門・汕頭及香港等に對したもので、其他南洋地方及歐米諸國との通商は、發達しなかつた。故に獨り是等支那地方に對する貿易額は、明治三十年には一千七百二十萬圓に達し、總額の七割を占めたが、明治四十年頃には内臺間の貿易が發達した反響に依り、約半減して七百三十萬圓となり、總額の二割七分に下り、其後好景氣時代の大正六年には、二千三百七十九萬圓に増進し、總額の四割弱を占め、關東州に對して二百三十五萬圓、香港に對して八百二十餘萬圓、米國に對して七百六十餘萬圓、英領印度に對して四百四十萬圓に達した。而して近年に至つては、滿洲大連の貿易が發達したので、其「パーセンテージ」は往時及好景氣時代には及ばぬが、最近十四年及十五年は、支那時局の影響に依つて却つて増進し、十三年の三千一百萬圓に對し、十四年は三千六百二十九萬圓となり、總額の三割三分を占め、十五年は三千九百七十萬圓となり、總額の三割六分を占めた。關東州大連に對しては、大豆粕・大豆等の入津が激増した爲め、大正六年頃には漸く二百三十萬圓臺のものが、十四年には最高二千二百萬圓を突破し、十五年には稍減退

しても尙一千九百二十七萬圓に達した。香港に對しては、大正六年頃八百萬圓臺のものが、十三年には一千三百萬圓に激増した。但し十四年及十五年は、時局に依り稍減退したが、尙一千百萬圓臺を占めた。

今領臺以來每五箇年の平均及最近三箇年の對支貿易額及歩合を掲ぐれば、左の通りである。

年次	對支貿易額	總外國貿易額	總額に對する對支貿易額の百分率
自明治二十九年	一五、九五三	二四、九二〇	六四%
至同三十三年	一二、三〇〇	二二、六六七	五四%
自同三十四年	八、四七三	二五、一九四	三四%
至同三十八年	一〇、八三三	三〇、四三四	三六%
自同三十九年	三〇、七〇四	七四、一三八	四一%
至同四十四年	二五、二六七	七八、六三五	三二%
自同四十五年	三一、六三一	八八、九九九	三八%
至同四十九年	三六、二九二	一〇四、四五四	三三%
大正十三年	三九、七八六	一一一、三二三	三六%
同十四年			
同十五年			

對支貿易額は、逐年増進し來つたが、前表に見るが如く、年に依つて不整の伸縮があるのは、總外國貿易額の漲落に因るものである。

更らに通商上も當然支那に屬すべき滿洲・大連を加算し、最近三箇年間の對支貿易高を見れば、下



の如く半額以上を占めて居る。

年	總額に對する歩合
大正十三年	四五%
同十四年	五六%
同十五年	五三%

本年(十六年)の貿易は、排英抵制の終熄以來、各國の對支貿易の系統が、稍原狀に恢復しつゝ、あ  
る外、今夏以來排日氣勢の起つたことに依つて輸出を減退したので、日本内地の對支貿易が減退し  
たと同様、昨年(十五年)に比して不振であるを免れぬのである。

第二 通商地別貿易

對支貿易を通商地別に觀察すれば、古來廈門は、臺灣茶の唯一市場として諸港の冠冕であり、明  
治三十五年頃の例に於ても、最高六百三十九萬圓を占め、廈門に合算すべき不開港地泉州の貿易は、  
約半額で三百六十萬圓、汕頭・福州・寧波等は七、八十萬圓臺に過ぎなかつたが、其後歐洲戦争前の大正  
二年には、廈門の三百十三萬圓に對し、福州は百二十九萬圓に、汕頭は九十一萬圓に上り、泉州は  
六十一萬圓に下り、寧波の如きは七萬二千圓に減退し、一方上海は、明治三十五年頃は僅かに十八萬  
圓臺に過ぎなかつたが、八十九萬圓に上り、關東州に至つては二百一十一萬圓に増進し、戦後更らに  
同一風潮を促進し、大正八年の好景氣時代には、廈門は六百九十六萬圓、福州は四百三十三萬圓、

汕頭は二百七十九萬圓、温州は五百八十八萬圓、上海は七百四十一萬圓に増進し、關東州は一千一  
百五十萬圓の巨額を占め、最近十四年廈門は九百二十二萬圓、上海は八百萬圓、福州も五百萬圓に  
激増し、其他汕頭は四百四十八萬圓、温州は百九十萬圓に上り、關東州は二千二百萬圓に達し、十  
五年には更らに好況を示し、廈門は一千萬圓を突破し、福州は六百二十七萬圓に上り、上海は前年  
に比して稍下り七百三十三萬圓となつた。而して廣東は時局の影響に依つて最高記録を示し、四百  
七十七萬圓に達した。關東州は前年に比して稍減退したが、尙一千九百二十萬圓を占めて居る。

香港は臺灣改政後十二年を経た明治四十年頃、既に六百萬圓を超過し、爾來一進一退であつたが、  
歐洲戦争後の大正八年頃から激増し、同年には最高一千五百萬圓を占め、其後稍減退したが、一九  
二三年は尙一千三百萬圓臺を持したるも、十五年には再び一千一百萬圓に下つた。

輸出に於ては、廈門・汕頭・福州・上海・關東州・香港等を主とし、輸入に在つては、又廈門・福州・上  
海等を主とすれども、輸出に比せば遙かに下り、獨り關東州よりの輸入が、最近十五年に於て全支  
那輸入額に倍加して居る。

左に最近三箇年間の通商地別輸出入の對照表を掲ぐ。

港別	大正十三年		大正十四年		大正十五年	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
廈門	五,二九一	一,四六三	七,七二一	一,五〇五	九,〇三九	一〇,五八二
福州	六,七五四	一,四六三	九,二二六	一,五四二	一〇,五八二	一〇,五八二

(單位千圓)



港名	輸入	輸出	合計
泉州 (不開港)	二四一	二八九	五三〇
福州	二,七四一	三,〇八三	六,〇二五
汕頭	三,二七七	七八八	四,〇六五
温州	四三五	七六三	一,一九八
寧波	二五	六八	九三
上海	五,八五五	二,〇四〇	七,八九六
廣東	二,二〇八	三三	二,二四二
漢口	五三	九	六三
天津	五九五	二四四	八四〇
青島	一,一四二	六〇	一,二〇三

港名	輸入	輸出	合計
泉州 (不開港)	三七二	三六二	七三五
福州	二,八二一	二,二五三	五,〇七四
汕頭	三,七四五	七三六	四,四八二
温州	五三七	四三六	一,九七四
寧波	二三	一三三	一五六
上海	五,一四六	二,九一八	八,〇六五
廣東	二,七六二	三四	二,七九七
漢口	一三	六	一九
天津	九六八	一七三	一,一四一
青島	一,四三六	七一	一,五〇八

港名	輸入	輸出	合計
泉州 (不開港)	三二〇	二七四	五九五
福州	三,二四二	二,九六四	六,二〇七
汕頭	五,五八〇	七七四	六,三五五
温州	二五四	七八五	一,〇四〇
寧波	三一	一〇八	一四〇
上海	四,三六五	二,九五七	七,三二二
廣東	四,五三一	二四一	四,七七三
漢口	五二	一六	六三
天津	六一一	一六四	七七六
青島	三六二	五三	四一五

港名	輸入	輸出	合計
其他	六八五	二二〇	九〇五
合計	九,四七七	二二,一五三	三一,六三一
大連	一五,九〇七	八六一	一六,七六八
香港	七,三一一	五,七六六	一三,〇八二
總計	三二,七〇〇	二八,七八一	六一,四八二

港名	輸入	輸出	合計
其他	二五三	七一九	九七二
合計	九,九四五	二六,三四六	三六,二九二
大連	二一,三二六	一,一八七	二二,五一四
香港	六,五八六	五,〇四四	一一,六三〇
總計	三七,八五七	三二,五七九	七〇,四三六

港名	輸入	輸出	合計
其他	二五	一,三三五	一,三六〇
合計	一〇,〇二五	二九,七六〇	三九,七八六
大連	一八,〇〇九	一,二六二	一九,二七一
香港	七,〇七四	四,四五八	一一,五三二
總計	三五,一〇九	三五,四八〇	七〇,五八九

第三 南支貿易の重要性

臺灣の貿易は、我邦の領土延長主義關稅統一の實施から、領臺後十餘年を経て、内臺間貿易の進展に依り反響を受け、爾來一盛一衰がある。外國貿易は内地のそれに比せば、僅かに二「パーセント」餘にして、對支貿易は、最近十四年及十五年共に、漸く七「パーセント」餘を占むるに過ぎぬが、南支に對しては一衣帶水で、彼等同種民族の往來も頻繁であるから、内地の對支貿易よりも一層多額に達して居る。

左に最近二箇年間の比較を掲ぐ。



(單位 千圓)

支那	滿洲(大連以外)		北支		中支		南支		計	關東州	合計	南支及香港
	内地	臺灣	内地	臺灣	内地	臺灣	内地	臺灣				
大正十四年	一〇〇,五八二	一三,五七八	二〇〇,三〇一	二,六七四	三五〇,六九七	一〇,二一九	一二,六〇二	二二,二七九	六八三,〇九六	二七八,二四四	九六一,一三四	三九,〇五八
(昭和元年)	一〇四,〇七七	一〇,七八二	一七三,六二六	一,二五六	三二五,八三七	八,五八〇	二九,二二九	二九,九二三	六六一,二七二	二五六,六四〇	一一,五三三	四一,四五六

(註) 南支は廈門・福州・汕頭・廣東・泉州・海口・北海・パラセルを含む。

即ち十四年度臺灣の南支貿易は、内地の約倍額を占め、十五年も内地を稍超過して居る。而して

南支及香港貿易は、内地に對して十四年は約四割、十五年は五割を占めて居る。就中福州・廈門及汕頭に對する日本の直接貿易は、殆んど臺灣が獨占する情形に在ることは、最も注目に價する事項である。今右三港に對する支那海關統計の對日貿易額(臺灣を含む)と、臺灣の同三港に對する貿易額とを比較するときは、下表の如く、臺灣貿易が殊に廈門及汕頭に於て著しく多額を占める奇現象を呈して居る。是れ蓋し支那海關統計は、實際の價額よりも甚しく過少に見積つて居ること(支那海關統計の價額は、同種貨物の品等を分たず、年末の平均相場で算出し、實際の市價に比して輸入は二、三割以上、輸出は五、六割以上低いのを例とする外、支那人其他下級官吏が不正の検査をなし、著しく貨物の計量を低下して居る。)と同時に、臺灣の對岸貿易の實勢力を、有力に物語るものである。

福州・廈門・汕頭に對する最近三箇年の貿易額

(甲)支那海關統計に依る日本(臺・鮮を含む)の對三港貿易額

(單位 千圓)

福州	廈門	汕頭	計
一九二四年	六,三三六	二,八三九(邦貨)	一〇,七〇九(邦貨)
一九二五年	五,七七八	五,五七六(邦貨)	二〇,八六四(邦貨)
一九二六年	八,二六六	三,六八四(邦貨)	一七,一七四(邦貨)
		七,五一五(邦貨)	二七,一六六(邦貨)
		一,四〇二(邦貨)	二七,一六六(邦貨)
		二,八六〇(邦貨)	二七,一六六(邦貨)
		五,一三三(邦貨)	二七,一六六(邦貨)
		八,一一〇(邦貨)	二七,一六六(邦貨)
		三,七七五(邦貨)	二七,一六六(邦貨)
		五,九六四(邦貨)	二七,一六六(邦貨)
		一七,一七四(邦貨)	二七,一六六(邦貨)

(乙)臺灣稅關統計に依る臺灣の對三港貿易額



品名	日本直輸出額		臺灣仲繼額	
	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
福州	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
廈門	六、〇二五	五、〇七四	六、二〇七	
汕頭	六、七五四	九、二二六	一〇、五八二	
計	四、〇六五	四、四八二	六、三五五	
	一六、八四四	一八、七八二	二三、一四四	

(單位千圓)

更らに内地よりの仲繼品貿易は、南支に對しては、内地の直接貿易よりも遙かに多く、臺灣の主たる仲繼港であり、對支貿易が全島の七割内外を占むる基隆港の十四年の例を見るに、左表の如く、内地の直接輸出額の二、三倍乃至十倍以上に達するものがある。

品名	日本直輸出額		臺灣仲繼額	
	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
乾鹹魚	三五八	三、八四二	三、九三四	
綿布	三、五二三	三、四五一	三、四五七	
其他水産物	一、一八三	四二四	四四〇	
計	一九四、〇二二	四二四	四四〇	
	一〇二	四四〇	四四〇	
	四、四七〇	四四〇	四四〇	
	二六一	三八一	三八一	
	四〇九	四一八	四一八	

(單位千圓)

品名	日本直輸出額		臺灣仲繼額	
	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
帽子	一〇〇	二〇八	二〇八	
メリヤス肌衣	七五	五三	五三	
襪子	九五〇	五三	五三	
雜葦	五二	三九	三九	
鐵製品	四九五	三九	三九	
絹及絹綿交織物	四〇	一八〇	一八〇	
昆布	一、四七七	一九九	一九九	
紙	七五	一二五	一二五	
各種罐詰食物	一、四七三	一八〇	一八〇	
計	三、四三〇	一八〇	一八〇	
	八	一一二	一一二	
	一、九八〇	一一二	一一二	
	三	九五	九五	
	三、〇二三	一〇八	一〇八	
	二三八	八九	八九	
	一一、三六九	八九	八九	
	五八六	五七	五七	
	一、二八六	五九	五九	
	三、〇八八	九、〇六一	九、〇六一	
	二二八、五八二	九、三〇二	九、三〇二	



其他諸品	南支	二、五二〇	一、四五九
支那計	支那計	二、三九、八五六	一、四七四
總計	南支	五、六〇八	一〇、五二一
	支那計	四六八、四三八	一〇、七七六

臺灣仲繼品の殆んど大部は、南支諸港に對するもので、就中廈門は六割以上の六百二十三萬圓、汕頭之に次ぎて二百五十萬圓、福州は百十萬圓である。

第四 戎克貿易の地位

次に臺灣の貿易上、閑却することの出來ぬのは戎克(民船)貿易である。本貿易は、臺灣の開港場である基隆・高雄・淡水・安平及特別開港場(戎克に限る)である舊港の後龍・梧棲・鹿港・東石と、對岸支那の温州・福州・廈門・汕頭等の開港地及是等附近の不開港場との間に行はるものである。而して支那に於て民船貿易を管理する常關(Native Customs)が、外國通商事務をも取扱ふのは、地理的關係上、從來の舊慣を持續する爲めで、北部の大連・芝罘等、南支に在つては寧波・温州・廈門及汕頭、又は北海・瓊州等である。(海關に於て民船の外國貿易をも管理するのは、九龍及拱北であることは、先に述べた通りである。)就中前記寧波以南の汕頭諸港の臺灣に對する民船貿易は、今日も尙領臺前に於ける、支那沿岸貿易の特例を便宜認めて居るのである。但し支那の民船貿易は、開港に於ても海關の管理不十分の爲め、通脫のある外、不開港地と臺灣との通商は、比較的自由に行はれ、米の如き輸

出禁制品が、時々多量の輸入を見ることがあり、其他の貨物並に船舶に關しても、自ら彼我統計上に著しき軒輕のあることは、明白な事實に屬する。例へば支那米の輸入は、大正八年内地米暴騰の結果、最高七十二萬擔六百五十萬圓に達し、就中全部戎克に依つて温州仕出が七割餘を占め、其他諸港からの仕出も汽船に依るもの少きが故、大部は戎克の運搬に係るものである。其後最近大正十四年にも、臺灣米の移出激増の爲め、輸入を増進し、十二萬擔百萬圓に達し、温州の仕出は又七割六分を占め、大部戎克の輸送に屬するものである。又禮拜紙(Loss paper)の如きも、近年主として廈門の仕出に係るが、大正七年支那稅關の統計に依る總輸出高は、一萬八千九百九十一擔であるに對し、臺灣稅關統計には一萬七千七百六十八擔に達して居る。

更らに最近三箇年の彼我稅關に於ける戎克船の入出港を對照すれば、下の通り差違がある。

	大正十三年		大正十四年		大正十五年	
	支那常關	臺灣稅關	支那常關	臺灣稅關	支那常關	臺灣稅關
福州	二五七	四一七	二〇五	三八五	二九八	四六八
温州	三三、八六四	四〇、一六五	二六、八六八	三四、八一二	三三、一九八	四一、〇〇三
廈門	二〇六	三三五	二二三	五五五	二二九	三七〇
	九、六九五	一三、四二四	一〇、四九四	二六、〇七六	一〇、七七六	一五、一三五
	三五五	一、〇八六	二九三	九八四	三四七	九八〇
	一五、三二五	三〇、八九九	一二、三七八	三一、四四一	一四、五一四	三〇、三〇一



汕頭	一三四 <sup>噸</sup>	三四三 <sup>噸</sup>	九三 <sup>噸</sup>	二二六 <sup>噸</sup>	一〇八 <sup>噸</sup>	二二九 <sup>噸</sup>
	九,〇〇二	一四,九〇一	六,〇一四	一一,五二一	六,六九〇	一〇,八〇〇

前表中殊に厦門の例に於て、差額の著しいのは、泉州・石碼等大市場がある爲めである。

臺灣の戎克貿易は、領臺後十箇年間は、噸量に於て十萬噸以上、隻數は明治二十九年八千七百七十六隻十四萬九千噸の最高を占め、噸量に於ては、三十一年最高の八千二百二十二萬八千噸に達したが、汽船貿易の發達に従ひ、明治四十年頃から漸次減退し、大正五年頃迄では二千隻以下六・七萬噸程度であつた。又大正六年頃から増進し、大正八年の好景氣時代には、三千九百隻十八萬噸に上り、其後再び漸減し、最近十四年には二千九百八十八隻十萬五千噸、十五年には更らに減退して二千七十五隻九萬八千噸となつた。然れども戎克貿易は、對岸市場と尙密接の關係があり、短距離の上に航走費を要せず、船員は頗る低廉の給料で雇はれ、碇泊中貨物の賣買にも従事し、地方市場に得意を有し、一種の移動的商店とも云ふべく、有利の營業であるから、汽船貿易の發達に従つて稍減退の傾向はあるが、其取引高は相當額に上り、例へば最近各港の實績に徴すれば、總貿易額に對しては、獨り對岸地方の諸港に限るを以て、僅かに五、六「パーセント」を占むるに過ぎぬが、對支貿易殊に南支のそれに對する歩合は、下表の通り二、三割を占めて居るのである。

戎克貿易價額

大正十三年	大正十四年	大正十五年
五,七四一 <sup>千円</sup>	六,二二八 <sup>千円</sup>	五,四二八 <sup>千円</sup>

對支貿易歩合

對南支(寧波以南汕頭迄)貿易歩合

一、一、八%	一、七、〇%	一、四、〇%
三、一、〇%	二、九、〇%	二、二、〇%

第五 支那時局の影響

一 支那諸港

臺灣の對支貿易は、十四年の上海竝に廣東事件後、對英經濟絶交の結果、影響する所があつたが、南北地方に依つて同一でない。北支滿洲方面に對しては、時局の影響は少く、寧ろ臺灣の産業經濟事情に依り、好況を呈したのもある。大連との貿易は、十四年は前年に對し、輸出に於て臺灣の特産物である砂糖竝に酒精、輸入にわつて豆粕・大豆等の増加があつたから、總額は前年の一千六百萬兩に對して二千二百萬圓(輸出百十八萬圓、輸入二千一百萬圓)に達した。十五年には、輸出に於て酒精・砂糖等減退したが、同年四月以降高雄大連航路の開通に依り、芭蕉實の増進があり、(前年の五百六十斤二十五圓が四百五十八萬斤二十九萬三千圓に激増した。)輸入に於ては、主として豆粕が稍不況の爲め、總額は前年より三百餘萬圓を減退し、一千九百萬圓になつた。(輸出百二十六萬圓、輸入一千八百萬圓)然れども大連に對する臺灣貿易は、最近彼我産業の發達に伴ひ、漸次増進し、大連埠頭事務所發表の貨物年鑑に依れば、大連港入出貨噸數は、下表の如くである。

大正十三年	大正十四年	大正十五年
八二,四〇八 <sup>噸</sup>	九七,五二一 <sup>噸</sup>	一〇四,三〇二 <sup>噸</sup>
一,六一四	一,三四一	一,九二三



計	八四、〇二二	九八、八六二	一〇六、二二五
高雄	一二二、八二九	一五五、三〇二	一三一、四二一
高雄	四、一九五	七、四八二	一四、五二八
計	一二七、〇二四	一六二、七八四	一四五、九四五

天津に對しては、十四年は上海及香港事件に依り、香港精糖の入津を杜絶し、日本糖は支那海關報告に従へば、六、七兩箇月に於て同年の約四分の三を占め、六萬袋に達したとあるが、同年高雄から仕出した砂糖は、前年に倍加して五萬六千擔七十三萬六千圓を占めたのである。従つて總額に於て前年に倍加し、百十四萬圓臺に達した。十五年は、主として北支動亂の外、外糖の壓迫及内地移出好況の結果、前年に比して約半減した爲め、總貿易額は、稍減退して八十四萬圓臺に下つた。

青島に對しては、十四年は前年に比して稍増加し、百五十萬圓（輸出百四十三萬圓、輸入七萬一千圓）に達したが、十五年は主として天津と同様の事情に依り、砂糖の輸出を激減した爲め、總額は四十一萬圓に下つた。（輸出三十六萬圓、輸入五萬三千圓）

上海に對しては、十四年は又上海が中支動亂の中心地であつたと、同時に五卅事件後の抵制運動があり、一時入出貨が殆んど杜絶したが、十月排日貨の終熄に伴ひ、市場の在荷減少に依り、殊に石炭・セメント・酒精等の輸出を増進し、輸入も爲替の恢復に従ひ、増進したのである。而して砂糖は、下期外糖の侵入ありしと、一方内地移出に傾倒せし爲め、前年に比して基隆仕出に於て九千九百擔二

十二萬六千圓を減退し、一萬三千擔十六萬圓となり、高雄仕出に於て九萬擔百十一萬七千圓を減退し、十七萬擔二百五十萬圓となり、輸出は前年の五百八十五萬圓に對し、五百十四萬圓に下つたが、輸入に在つては前年の二百萬圓臺が二百九十萬圓に上つた爲め、總貿易高は、前年に比して二百餘萬圓を増進し、八百六萬五千圓に達し、最高記録を示し、大正八年の好景氣時代に倍加したのである。温州に對しては、十四年は輸出に於て石炭・セメント・龍眼・乾魚・燐寸・棉布・石油等が好況であつて、前年の四十三萬圓に對して五十三萬圓に上り、輸入に在つては、臺灣米移出の補足として、専ら基隆のみで前年の一萬三千擔十四萬圓が八萬擔六十七萬圓に激増した爲め、總貿易高は、前年に比して七十七萬圓を増加し、百九十七萬圓に達し、大正八年（五百八十八萬圓）を除けば、最高記録を示して居る。十五年は、輸出に於て龍眼・鹹魚・昆布・燐寸等が不振であつた爲め、前年の二分の一以下に減退して二十五萬圓となり、輸入に在つては、主として米の激減せる外、陶磁器・蒜頭・唐紙・禮拜紙等の不況に依り、前年に比して六十五萬圓を減退し、七十八萬圓臺に下つて居る。

福州に對しては、十四年は時局の機會を利用することが出來ず、前年に比して却つて不況であつた。輸出に在つては、芭蕉實・龍眼・鹹魚・具柱等の主要品が一般的に不振であり、輸入に於ては、唐紙・陶磁器・木材等が亦減退した。毎四半季の比較は、左表の如く輸出入共、第二期には前年に比し増加して居るが、第三、第四の兩季は減退して居る。

（單位 千圓）



十三年	第一期(四、五、六月)		第二期(七、八、九月)		第三期(十、十一月、十二月)	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
十三年	五四一	五六二	七八一	四二八	一、一五九	八九〇
十四年	七六七	七六三	四七六	四一〇	一、〇四六	五二四

總貿易高は、前年の五百八十三萬圓に對して五百五萬圓に下り、十五年は、輸出に於いて芭蕉實・鹹魚・酒精・棉布等が好況であつて、前年に比して百六十萬圓を増加し、三百九十六萬圓に上り、輸入に在つては、主として木材・葉煙草・米等の活躍に依り、前年に比して七十一萬圓を増加し、二百九十六萬圓に上り、總貿易高は、前年の五百餘萬圓に對して六百二十六萬圓に達し、大正八年の貿易額に比して尙三十餘萬圓を増加し、最高記録を呈した。

廈門に對しては、排英抵制の結果、却つて好影響を及ぼし、十四年の輸出は、重要品の包種茶・砂糖・乾魚・鰹・貝柱・牛筋・酒精・棉布・帽子・石炭・セメント等何れも般賑を極め、四半期の比較を見るに、輸出は每期共何れも前年より増進し、殊に第四期は主として棉布類の激増に依り、前年の百九十六萬二千圓が三百四十七萬圓に達したのである。従つて輸出は前年に比して二百四十萬圓を増進し、七百七十二萬圓に達した。

輸入は又重要品の米・黃麻・木材等が好況であり、第二、第三の兩期は、共に前年に比して減退したが、第四期に増進を示したので、前年の百四十六萬圓が百五十萬圓に上り、輸出入額は九百二十二萬圓に達し、總對支貿易額の二割五分餘を占めて居る。十五年の輸出は、砂糖が基隆は減退したが、高雄は前年の三千七百擔五萬五千圓に對して一萬五千擔二十六萬七千圓になり、其他糖蜜・乾魚・鹹魚・鰹・酒精・棉布・セメント等に活躍した爲め、前年に比して十八萬圓餘を増加し、九百三萬圓に達し、輸入は黃麻布・苧麻布・米等が好況であつたので、前年に比し、稍増進して百五十四萬圓に達し、輸出入額は一千五十八萬圓を突破し、總對支貿易額の二割七分を占め、最高記録を呈して居る。

汕頭に對しては、同地が上海事件以來排貨に依り、一時入出貨共杜絶したことがあつたが、十月排日貨の終熄と共に、却つて反動的に活躍し、輸出は鹹魚・酒精等に減退を見たが、乾魚・鰹・貝柱・鱈・其他水産物・燐寸・棉布・石炭・セメント等に増進を示し、四半期の比較を見るに、輸出に於て第二第三の兩期は、前年に比し減退して居るが、第四期は殊に水産物・棉布等が前年の二倍以上の二百四十八萬圓に上つたから、輸出は前年に比して四十七萬圓を増加し、三百七十四萬圓に達したのである。

輸入は動亂の反響を蒙り、又爲替相場の不利に依り、葉煙草・苧麻布等の不振を招致し、前年に比して五萬二千圓を減退し、七十三萬圓となつた。然れども前記の如く輸出が旺盛な爲め、總額に於ては、前年に比して四十二萬圓餘を増進し、四百四十八萬圓を占めた。十五年は輸出に於いて大體前年同様の情態を持續し、鰹・鱈・鱈等を除かば、重要品の包種茶・乾鹹魚・貝柱・昆布・酒精・燐寸・苧麻布・



棉布・絹及絹綿交織布・石炭・セメント等に殷賑を呈した爲め、前年に比して百八十三萬圓を増加し、五百五十八萬圓に達した。輸入は、葉煙草・苧麻布等の減退したものがあつたが、黃麻・人參等の好況に在つたものもあるから、前年に比して稍増進し、七十七萬四千圓を占め、總貿易高は、前年に比して百八十七萬圓を増進し、六百三十五萬圓に達したのである。

廣東に對しては、省港罷工事件に依り、香港仲繼を直輸送に轉じた爲め、輸出入共に異常な發達を來した。十四年の輸出は、砂糖(三千四百擔五萬一千圓)・乾魚(四千八十圓)・鹹魚(七千二百圓)・錫(八萬四千圓)・棉布(八千五百圓)等の新販路開始され、又石炭は前年の十六萬三千噸百七十八萬圓が十八萬噸百八十萬七千圓に上り、其他黃埔に對しても、前年の七千八百噸九萬圓臺のものが五萬五千噸六十三萬圓に上つた。毎期の比較を見るに、第二第三の兩期は、前年に比し減退して居るが、第四期には殊に石炭・酒精・錫等が増進し、前年の三倍以上の百四十五萬圓に激増したから、輸出は前年に比し、五十六萬圓を増加して二百七十六萬圓に達し、輸入は包蓆・其他の増進があり、毎期の比較に於ては、第二第三の兩期共、前年に比して減退して居るが、第四期に激増した爲め、輸入總額は、前年に比して僅かに増進し、三萬四千圓を占めた。然れども輸出好況の爲め、總貿易高は、前年に比して五十五萬圓を増加し、二百七十九萬圓に達したのである。十五年は對香港經濟絶交を延長した爲め、前記の風潮を促進し、輸出は、酒精・藥板紙等の外、砂糖・乾鹹魚・錫・貝柱・鱧鱈・昆布・石炭

及セメント等何れも好況であり、就中石炭は前年より又増進し、二十五萬三千噸二百六十萬圓となり、其他黃埔に對しては、前年よりも増加し、十萬三千噸百二十七萬圓を占め、輸入は又陶磁器・黃麻及包蓆が好況であつて、前年に比して約倍加し、二十七萬九千圓に上り、總貿易高は、前年に比して約二百萬圓を増加し、四百七十七萬圓に達したのである。

## 二 香

## 港

香港は排英抵制の中心地であり、殊に廣東方面に對する貨物の仲繼地である爲め、其影響を受くること甚だしく、十四年及十五年共、十三年に對して減退して居る。

十四年の輸出は、前年に比し、主として石炭に於て十二萬餘噸百四十萬圓を減退し、二十萬七千噸二百十九萬圓に下つた外、酒精・燐寸・鹹魚等が不況であつた爲め、セメント・乾筍・龍眼・包種茶・砂糖・錫・貝柱・鱧鱈等に相當増進を示したが、前年に比して七十二萬圓を減少し、五百四萬圓臺に下つた。輸入は、バラフィンワックス・ガンニー袋・鐵及木材等に増進を示したが、石油類・棉布・毛織物等が不況であつた爲め、前年に比して約一割減の六百五十八萬圓に下つた。毎期の比較を見るに、左表の如く、輸出が每期共前年に對して著しく減退した爲め、輸入が第二第四の兩期に増進を示したが、總貿易高に於て補充することが出來ず、前年に比して十四萬五千圓を減退し、一千一百萬圓臺に下つた。



(單位千圓)

年	第二期		第三期		第四期	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
十三年	一、七五二	一、四七一	一、三八〇	一、四一六	一、五四一	一、七六六
十四年	一、四四七	一、四九九	一、〇五〇	一、一二七	一、一七三	二、三二三

十五年は輸出が更らに不振を極め、乾筍・砂糖・茶等二、三増進を示したものがあつたが、一方主として石炭が、前年に比して十二萬噸二百五十萬圓を減退し、八萬四千噸百萬圓臺に下つた外、セメントを始め龍眼・乾魚・鰻・鱧・酒・酒精・藁板紙等が不況の爲め、輸出は前年に比して一割一分減の四百四十五萬圓に下つた。輸入に在つては反對に包蓆が激減した外、機械用油・革類・毛織物等も不況であつたが、ガンニー袋が激増した上、黃麻・綿布等が又好況であつたから、前年に比して三十九萬圓を増進し、七百七萬圓を占めた。但し總貿易高は、前年に比して約十萬圓を減退し、一千一百五十萬圓に下つた。

### 三 特殊伸繼貿易の出現

十四年七月以降十五年十月迄で、或は其後相當期間實際對英經濟絶交の繼續に依り、英船英貨の廣東及其他南支諸港に對する通航積卸を禁壓した爲め、從來香港伸繼に屬した船貨は、上海其他の北支諸港、又は臺灣・日本等に直航積卸をなし、又は伸繼をなすことに改まり、香港貿易の約半分を

競奪した事實は、支那及香港貿易の部に述べた通りである。就中臺灣は、南支の通商圏に存した爲め、基隆を中心にした是等特殊伸繼貿易の發達は、未曾有の事實である。此種貿易は、普通積戻貨物の場合と異り、又前記支那貿易統計には加算されぬものであるが、相當巨額に上つて居る。今基隆港の十四年及十五年に於ける、是等各月の貿易額を示さば、左の如くである。

月	大正十四年		大正十五年	
	輸出	輸入	輸出	輸入
一月	一、二七、五〇六	六、一、五二二	一、〇〇、二〇一	五、五八、八二二
二月	一、一七、五八二	二、四三三、八六七	一、〇〇、二〇一	五、五八、八二二
三月	六三、三三四	一、〇〇、二〇一	一、〇〇、二〇一	五、五八、八二二
四月	七八、〇五八	五、五八、八二二	一、〇〇、二〇一	五、五八、八二二
五月	一九、四四一	四、四九、三六二	一、〇〇、二〇一	五、五八、八二二
六月	三三、九一一	五、六五、八八一	一、〇〇、二〇一	五、五八、八二二
七月	二一七、八八七	二、一、三一九	一、〇〇、二〇一	五、五八、八二二
八月	六一、五四〇	四、四四、六〇八	一、〇〇、二〇一	五、五八、八二二
九月	五、九五四	五、二四、八六二	一、〇〇、二〇一	五、五八、八二二
十月	一、六八九、二六九	五、二七、五五〇	一、〇〇、二〇一	五、五八、八二二
十一月	二、四八六、七九五	二、七、五九五	一、〇〇、二〇一	五、五八、八二二
十二月	一、九〇三、七一〇	一、八二、二七七	一、〇〇、二〇一	五、五八、八二二
計	六、八〇四、九五七	七、七八三、八六六	一、〇〇、二〇一	五、五八、八二二



前表中には普通の積戻品を包含し、其額は時局前の十四年上半期に於ても、四十餘萬圓を占むるから、純伸繼貿易額は、十四年には約六百萬圓、十五年には約七百萬圓と見積らば、大過なかるべきである。而して同貿易の最も發達したのは、十四年十月以降から十五年の三月迄である。其後は毎月四、五十萬圓臺であつたが、省港罷工事件の終熄せる十五年十一月以後激減したのは、恐らく普通の積戻品に屬するもの、みとなつたのであらう。十二月には十八萬圓臺に下り、本年(十六年)上半期に於て總額僅かに二十餘萬圓に減退したのも、亦同一事情である。

前記特殊伸繼貿易の系統は、凡そ(第一)は廣東を仕出地とするもので、(イ)香港を仕向地とするもの、(ロ)外國を仕向地とするもの、又は支那を仕向地とするものがあり、(第二)は香港を仕出地とするもので、(イ)廣東又は其他支那諸港を仕向地とするもの、(ロ)外國を仕向地とするものがあり、(第三)は外國を仕出地とするもので、(イ)廣東其他支那諸港を仕向地とするもの、(ロ)香港を仕向地とするものがあるが、最も重要な部は、左表の如く(第一)の(イ)及(第二)の(イ)中廣東を仕向地とするものである。

基隆港部

廣東 仕出	一六七、四三二 <sup>円</sup>	一、一一九、〇四八 <sup>円</sup>
香港 仕出		
外國 仕出	四、六九三、二五三	四、一五八、八四七

香港 仕出	八六〇、四〇二	九二二、三八八
廣東 仕出		
外國 仕出	二一五、八六〇	六九、一六七

前記貿易を時局其他發生の原因から分類せば、下の通りである。

		大正十五年 (昭和元年)		大正十四年	
		仕出地	仕向地	仕出地	仕向地
		仕出地	仕向地	仕出地	仕向地
		價額	價額	價額	價額
一、直接廣東汕頭排外事情によるもの	廣東—香港	六、二八六、六一二 <sup>円</sup>	香港—廣東	五、七二一、〇八七 <sup>円</sup>	
	外國—廣東		香港—廣東		
	汕頭—香港				
	香港—外國	六九、一六七 <sup>円</sup>			
二、省港事件の間接的影響を認めらるもの	香港—支那	一七二、〇五〇 <sup>円</sup>	香港—支那	一二五、三六二 <sup>円</sup>	
	支那—香港				
三、同上と一般的積戻によるものと區別されるもの、價額	外國—上海部	二四四、〇〇九 <sup>円</sup>	上海—外國	一五三、六四二 <sup>円</sup>	
	上海部—外國				
四、單に航路關係によるものと認めらるもの、價額	外國—上海部	二四四、〇〇九 <sup>円</sup>	上海—外國	一五三、六四二 <sup>円</sup>	
	上海部—外國				



第五章 臺灣の支那貿易

五、船舶遭難其他荷役不能等により持越したるものご再び積戻したるもの、價額

基隆—支那及外國	一四、七二四	香港—支那及外國	三二八、四九九
廣東—支那		廣東—支那	
外國—上海一部		外國—上海	
上海—支那	九九七、三〇四	汕頭—香港	
保倉—支那及外國		上海—支那	四七六、三六七
其他—其他		保倉—支那及外國	
		其他—其他	

六、普通積戻

前記貿易中、重要品を掲ぐれば、左表の如くである。

仕出地	仕向地	(大正十五年)		(大正十四年)	
		昭	和	大	正
煙草	廣東—香港	一五四		一一〇	
	廣東—外國	三六		二一九	
其他		五		八	
計		一九五		三三七	
藥材	廣東—外國	三、〇一五		一、五七三	
	其他	六三五		九四	
計		三、六五〇		一、六六七	

(單位千圓)

仕出地	仕向地	(大正十五年)		(大正十四年)	
		昭	和	大	正
絹及絹織	廣東—外國	一五〇		二九二	
	其他	三四		一	
計		一八四		二九三	
紙類	廣東—香港	二二六			
	廣東—外國	三六			
其他		三九六		一三一	
計		六七		一七	
鐵材	香港—廣東	七二五		一四八	
	其他	三八		一六八	
計		三〇		一二	
籐	廣東—香港	八一			
	廣東—外國	一五三		一二三	
其他		一〇			
計		一一			
蒲類	廣東—香港	二五五		一二三	
	廣東—外國	三二		七	
其他		一三一		一、三四一	
計		二		一	
計		一六五		一、三四九	

第五章 臺灣の支那貿易